DURA Rhythm ®

取扱説明書

Windows95/98/Me
WindowsNT4.0/2000/XP対応

日東電工株式会社

www.nitto.com/bc/

DURA Rhythm（デュラリズム）とは

DURA Rhythmは、日東電工製バーコードプリンタ「デュラプリンタシリーズ」で、
バーコード・文字の印字を行うための汎用ソフトです。
DURA Rhythmでは次のことが行えます。

（１）バーコード・文字をパーツ（部品）として作成し、これらを組み合わせること
により、ラベルのデザイン（フォーマット）を作成できます。
印字内容はパーツ作成時入力します（または印刷の実行時入力します）。

（２）ラベルのデザイン（フォーマット）をプリンタのメモリーカードに登録する
ことが出来ます。

DURA Rhythmは、このようにラベルのデザイン（フォーマット）の作成とメモリカード
への登録を行うソフトです。
印字するデータの入力チェック・登録・削除などは出来ません。

DURA Rhythmで印字できる内容は、各プリンタの取扱説明書・システム導入編
などを参照してください。

例えば次の様なラベルを印字する場合、パーツ１、パーツ２、パーツ３をそれぞれ作成し
ます。本ソフトウェアで作成出来るパーツの最大数は１００個です。

＊重要
インストール時に表示される使用許諾契約書を必ずお読みください。
使用許諾契約書を許諾頂ける場合のみ、本ソフトウェアをご使用ください。

記載されている会社名，製品名は、各社の商標および登録商標です。

目　　次

１．動作環境

２．インストール手順

３．メニュー構成

４．各メニューの説明

５．DURA Rhythm Light について

６．トラブルシューティング

７．付録

１．動作環境

１－１　動作可能なハードウェアおよびソフトウェア

本体機種

ＣＰＵ　Ｐｅｎｔｉｕｍ　１６６ＭＨｚ以上。

メモリ

１６ＭＢ以上必要です。

ハードディスク

空き容量１０Ｍバイト以上必要です。

マウス

Microsoft Windows 対応マウスが必要です。

対応オペレーティングシステム

以下バージョンの日本語・英語・中国語Ｗｉｎｄｏｗｓ

・**Microsoft Windows 95 OSR2** 以上（**Ver 4.00.950B** 以上）

*** InterNet Explore Ver4**以上のインストールが必要

・**Microsoft Windows NT 4.0**（**SP3** 以上を適用）

・**Microsoft Windows 2000**（**SP1** 以上を適用）

・**Microsoft Windows Me**

・**Microsoft Windows XP**

*** Windows 2000/XP** は**Administrators**/管理者権限でインストールする必要があります。

対応プリンタ

・**DURA PRINTER SR**
・**DURA PRINTER SRS**
・**DURA PRINTER R**
・**DURA PRINTER SG**
・**DURA PRINTER S**
・**DURA PRINTER LSP5300(LSP5310)**
・**DURA PRINTER LP5320**
・**KP4300**
・**KP3000**
・**IP6500**
・**DURA PRINTER SR**（**RSS**バージョン）
・**DURA PRINTER SRS**（**RSS**バージョン）

注意：ＤＵＲＡ　ＰＲＩＮＴＥＲ　ＳＲ（ＲＳＳ）、ＳＲＳ（ＲＳＳ）は

ＲＳＳシンボルのバーコードを印字する特別対応のプリンタファームウェア（ＲＯＭ交換）が必要です。詳細は「付録Ｑ」をご参照ください。

このプリンタファームでは下記のフォントが印字できなくなります。

・ドットフォント　英数字Ｎｏ３

・ドットフォント　英数字Ｎｏ４

・ドットフォント　英数字Ｎｏ５

・ドットフォント　英数字ＮＡ１

・ドットフォント　英数字ＮＡ２

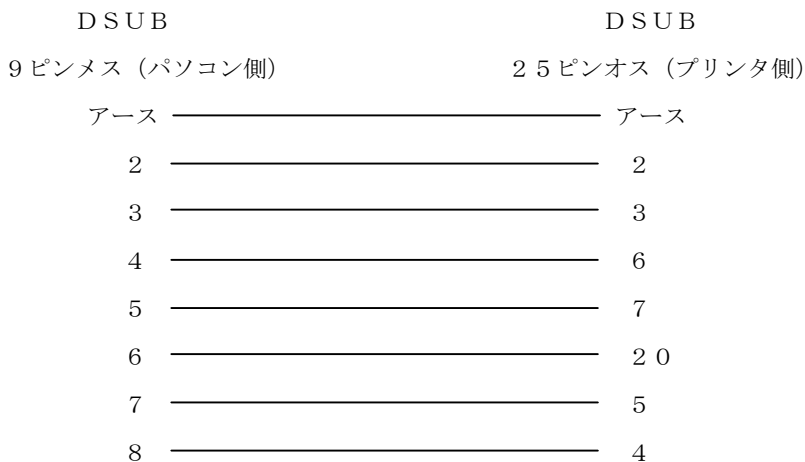
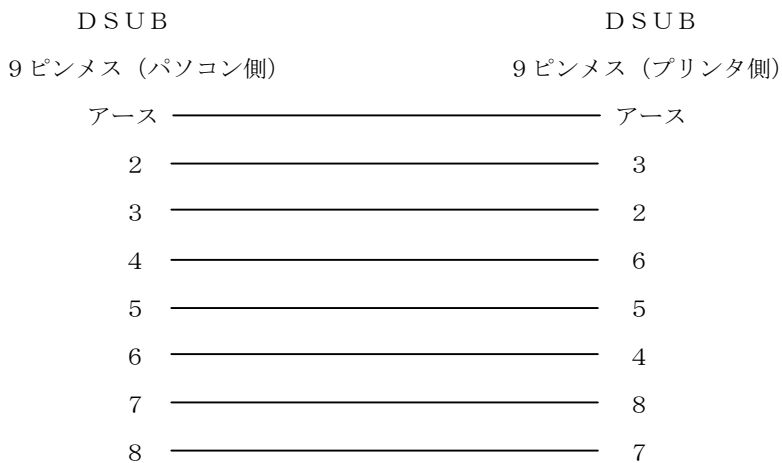
１－２　デュラプリンタとの通信ケーブルについて

デュラプリンタとシリアル通信ケーブル（ＲＳ－２３２Ｃケーブル）で、データ送信を行う場合のコネクタ配線（パソコン側が、９ピンの場合）を示します。

［プリンタ側が２５ピンメスの場合］

ＤＳＵＢ ９ピンメス（パソコン側）		ＤＳＵＢ ２５ピンオス（プリンタ側）
アース	────	アース
2	────	2
3	────	3
4	────	6
5	────	7
6	────	２０
7	────	5
8	────	4

［プリンタ側が９ピンオスの場合］

ＤＳＵＢ ９ピンメス（パソコン側）		ＤＳＵＢ ９ピンメス（プリンタ側）
アース	────	アース
2	────	3
3	────	2
4	────	6
5	────	5
6	────	4
7	────	8
8	────	7

（インターリンクケーブル）

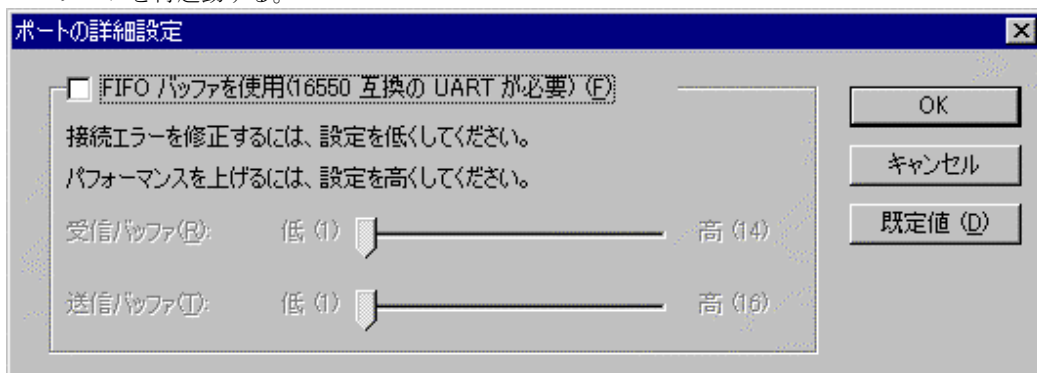
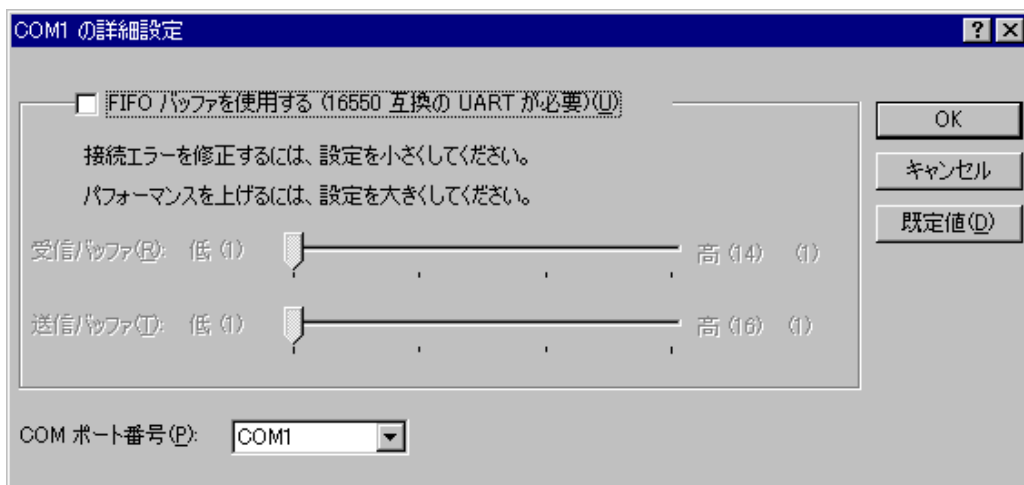
正しい配線のものを使用しないと、データ量が多い場合、連続してデータ送信時に、プリンタはエラーになります。

１－３　パソコンの通信ポートの詳細設定について

パソコン環境によっては、プリンタとの通信ポートがCOM(シリアル通信)で、ロゴデータなど大量にデータを送信する場合に、プリンタが通信エラーになる場合があります。

（特にLP5320をご使用の場合は発生する場合があります。）

この場合は下記の設定を行ってください。

①パソコンのWindowsの通信ポート（COM）の詳細設定でFIFOバッファを使用しないにして、
　パソコンを再起動する。

（Windows98の場合：コントロールパネル、システム、デバイスマネージャ、ポート、通信ポート、ポートの設定、詳細設定）

（Windows2000の場合：コントロールパネル、システム、ハードウェア、デバイスマネージャ、ポート、通信ポート、ポートの設定、詳細）

②LP5320の場合はプリンタROM(ファームウェア)のバージョンが01.16以降になっているか
　確認してください。バージョンは、印刷の実行のプリンタ情報を行うとわかります。
　01.16以下の場合は、販売店に連絡ください。

③ロゴをロゴパーツにしてメモリカードにいれてください。通信速度を下げてください。

１－４　アウトラインフォントの印字可能文字

アウトラインフォント搭載機種で、以下の特殊文字が印字できない機種があります。

機種	第1、2水準漢字	特殊文字
DURA PRINTER SR　*1）	○	○
DURA PRINTER SRS	○	○
DURA PRINTER SG	○	○
DURA PRINTER LSP5300（標準）	○	×
DURA PRINTER LSP5300 （アウトラインフォントボード交換）　*2）	○	○
DURA PRINTER LSP5310	○	○
DURA PRINTER LP5320	○	○
KP4300	○	×
KP3000	○	×
IP6500	○	×

*1）DURA PRINTER SRでは、アウトラインフォントはオプション設定です。

*2）DURA PRINTER LSP5300（標準）から、アウトラインフォントボードを交換

・特殊文字

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳

㍉ ㌔ ㌢ ㍍ ㌘ ㌧ ㌃ ㌶ ㍑ ㍗ ㌍ ㌦ ㌣ ㌫ ㍊ ㌻

㎜ ㎝ ㎞ ㎎ ㎏ ㏄ ㎡

㍻ 〝 〟 № ㏍ ℡ ㊤ ㊥ ㊦ ㊧ ㊨

㈱ ㈲ ㈹ ㍾ ㍽ ㍼

≒ 刧 φ Σ √ ⊥ ∠ ∟ ⊿ ∵ ∩ ∪

搭載しているアウトラインフォントの名称は「リコーSCFフォントゴシックB」です。

２．インストール手順

ハードディスクへのインストール

１）インストーラを起動します。

インストールメディアが、**CD-ROM**で供給されている場合

●ほんどの**Windows**システムでは、**CD-ROM**ドライブに**DURA Rhythm**の**CD-ROM**を挿入すると、インストールが自動的に開始されます。

●インストールが自動的に開始されない場合は、次の手順に従ってください。

①**CD-ROM**ドライブに**DURA Rhythm**の**CD-ROM**を挿入します。

②[ｽﾀｰﾄ]メニューから[ﾌｧｲﾙ名を指定して実行]を選択します。

③[**CD-ROM**ドライブ名**:DURARhythm¥DURARhythmSetup.EXE**]と入力します。

（**CD-ROM**ドライブ名には、お使いの**CD-ROM**ドライブに割り当てられている文字（**d,e,f** など）を指定してください。）

④[**OK**]をクリックするとインストールが開始されます。

インストールメディアが、**FD**（フロッピーディスク）で供給されている場合

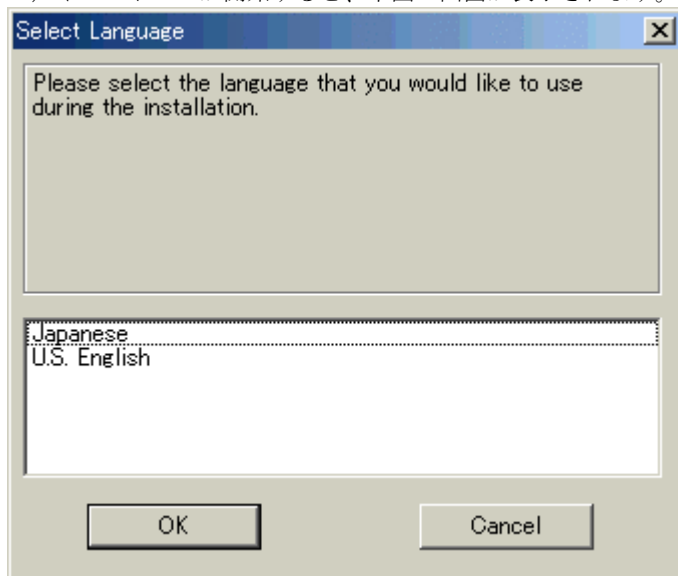
①本ソフトウェアのシステムディスクの１枚目をフロッピードライブに挿入してください。

②[ｽﾀｰﾄ]メニューから[ﾌｧｲﾙ名を指定して実行]を選択します。

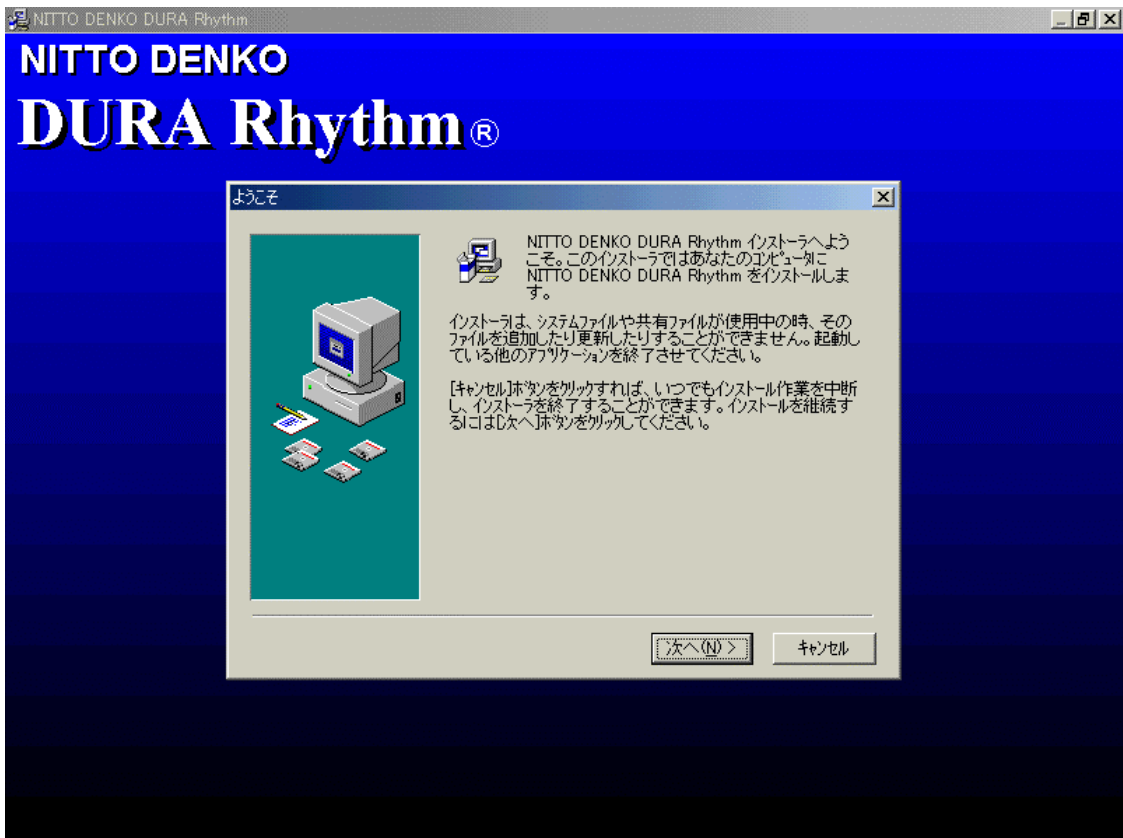
③[**FD**ドライブ名**:¥DURARhythmSetup.EXE**]と入力します。

（**FD**ドライブ名には、お使いの**FD**ドライブに割り当てられている文字（通常 **a**）を指定してください。）

④[**OK**]をクリックするとインストールが開始されます。

２）インストールが開始すると、下図の画面が表示されます。

３）この画面で、日本語モード（**Japanese**）または、英語モード（**US.English**）を選択してください（インストールが完了した後でも変更可能です）。

中国語Ｗｉｎｄｏｗｓの場合は英語モード（US.English）を選択してください。

４）[**OK**]ボタンを押すと次の画面が表示されます。

5）他のアプリケーションが起動されている場合は、[ｷｬﾝｾﾙ]ボタンを押し、他のアプリケーションを終了させてから、再度インストールを行ってください。

[次へ]ボタンを押すとインストールを続行し、次の画面が表示されます。

6）本ソフトウェアの使用許諾条件が表示されますので、よくお読みになり、同意できる場合のみ

[次へ]ボタンを押してインストールを進めてください。

[次へ]ボタンを押すと、次の画面が表示されます。

7）[次へ]ボタンを押すとインストールを続行します。上図の場合、ディレクトリ

"C:¥Program Files¥Rtmwin32"にインストールされます。

[参照]ボタンを押すとインストールするディレクトリを変更できます。

[ｷｬﾝｾﾙ]ボタンを押すとインストールを中断できます。

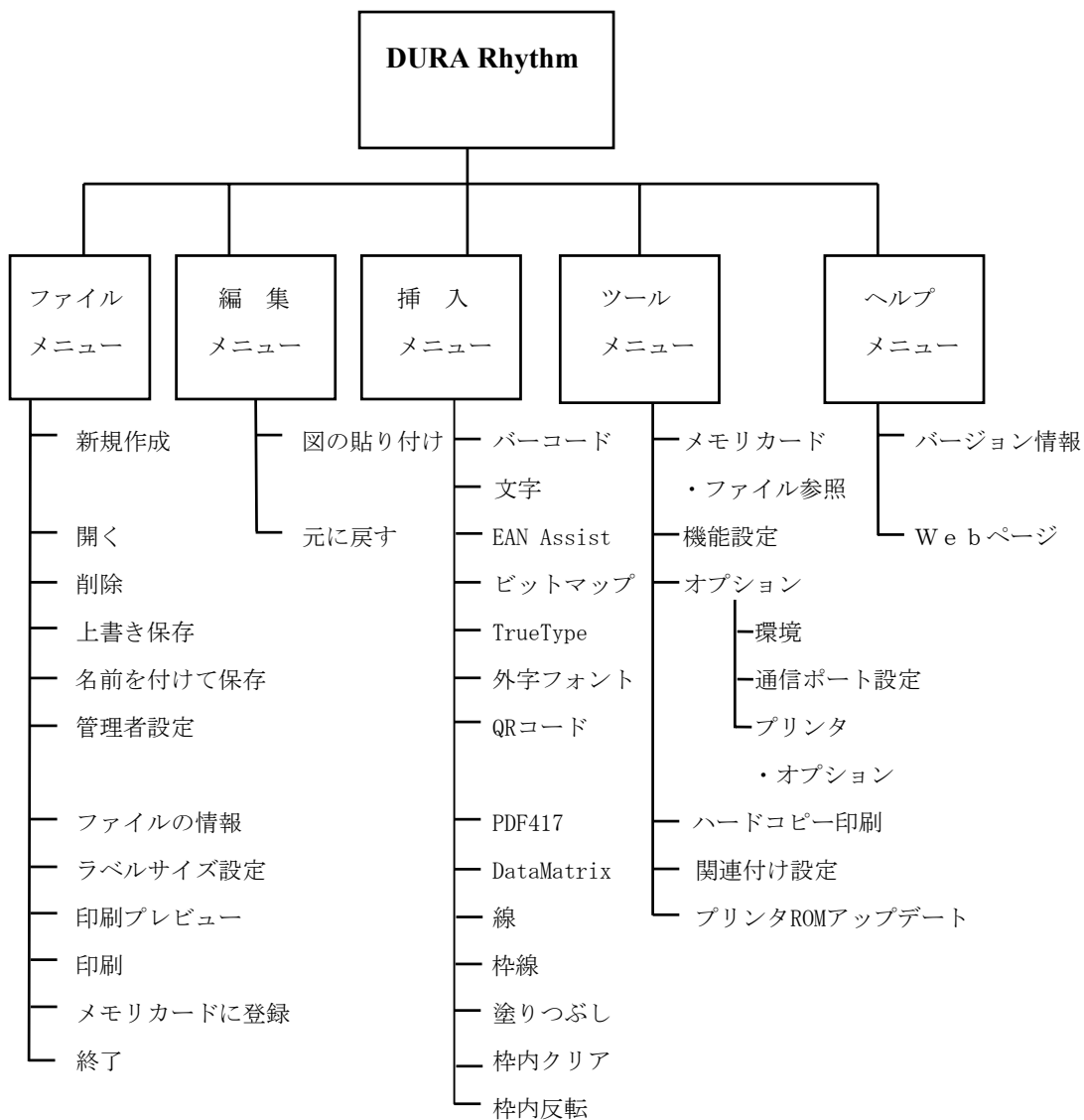
8）必要であれば、[参照]ボタンを押して、インストールするディレクトリを変更した後、

[次へ]ボタンを押してインストールを続行させてください。

9）正常にインストールが完了すると、完了メッセージが表示され、スタートメニューに

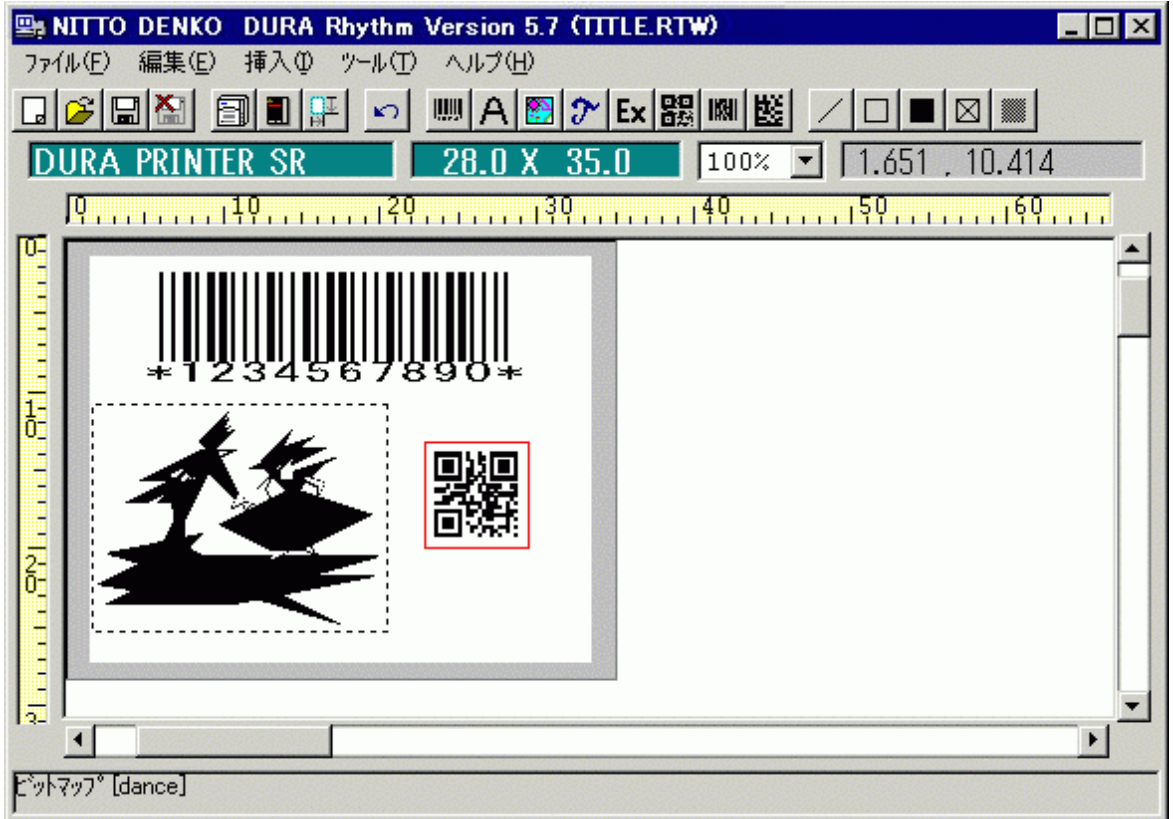
DURA Rhythm for Windowsのグループが作成されます。

３．メニュー構成

DURA Rhythm
ファイル
メニュー
編　集
メニュー
挿　入
メニュー
ツール
メニュー
ヘルプ
メニュー
新規作成
開く
削除
上書き保存
名前を付けて保存
管理者設定
ファイルの情報
ラベルサイズ設定
印刷プレビュー
印刷
メモリカードに登録
終了
図の貼り付け
元に戻す
バーコード
文字
EAN Assist
ビットマップ
TrueType
外字フォント
QRコード
PDF417
DataMatrix
線
枠線
塗りつぶし
枠内クリア
枠内反転
メモリカード
・ファイル参照
機能設定
オプション
環境
通信ポート設定
プリンタ
・オプション
ハードコピー印刷
関連付け設定
プリンタROMアップデート
バージョン情報
Ｗｅｂページ

４．各メニューの説明

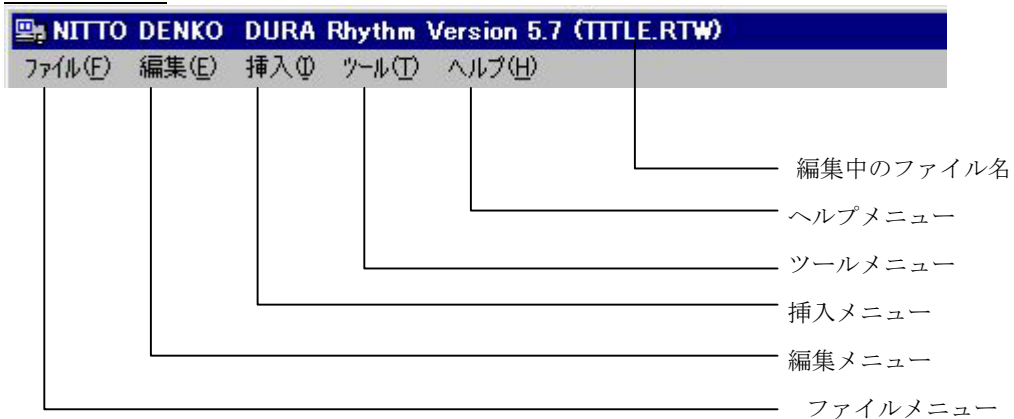
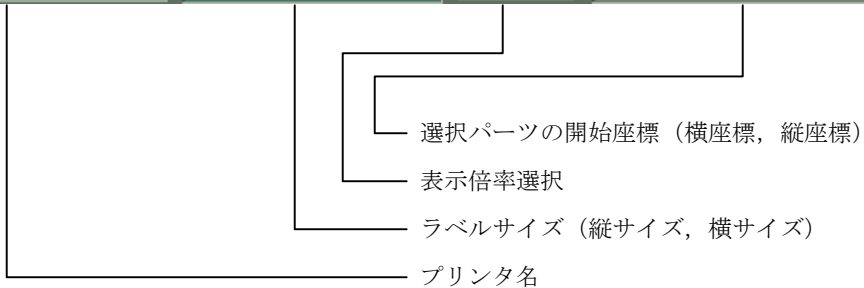
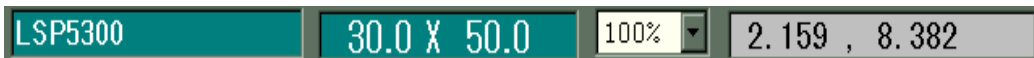
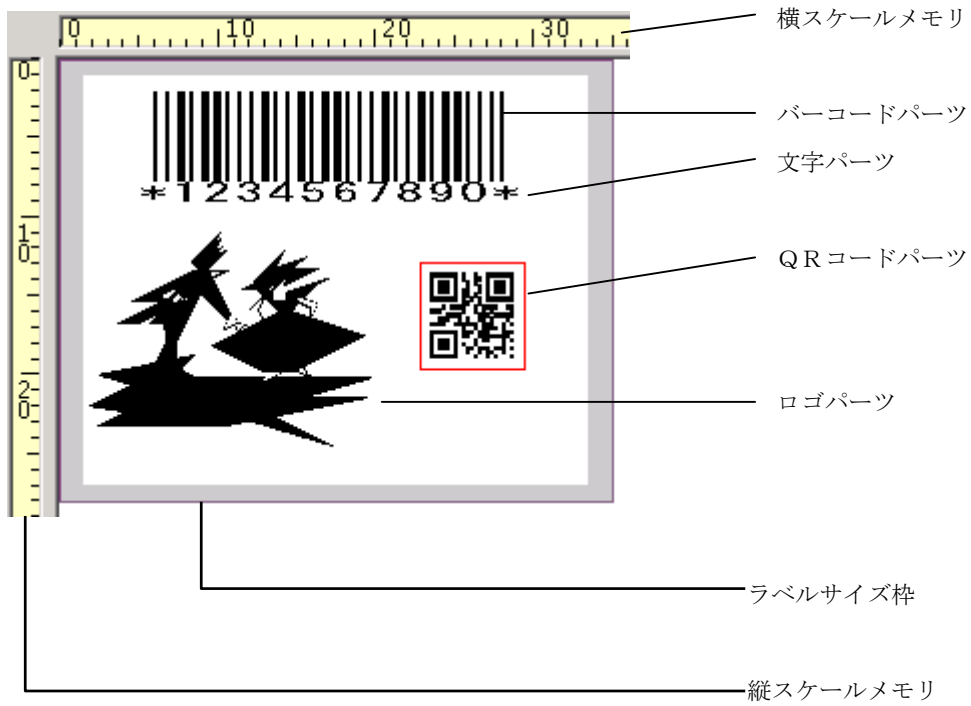
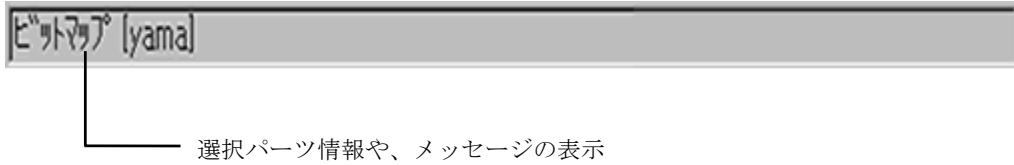
３のメニュー構成で書かれている各画面について、具体的な操作方法を説明します。

４－１　メイン画面

DURA Rhythmのメイン画面は、下図のようになっています。

各エリアの内容は、以下の通りです。

メニューバー

ツールバー

枠内反転挿入ボタン
枠内クリア挿入ボタン
塗りつぶし挿入ボタン
枠線挿入ボタン
線挿入ボタン
DataMatrix挿入ボタン
PDF417挿入ボタン
QRコード挿入ボタン
外字ﾌｫﾝﾄ挿入ボタン
TrueType挿入ボタン
ロゴ挿入ボタン
文字挿入ボタン
バーコード挿入ボタン
元に戻すボタン
ﾗﾍﾞﾙｻｲｽﾞ変更ボタン
ﾒﾓﾘｶｰﾄﾞ登録ボタン
印刷ボタン
ファイル削除ボタン
上書き保存ボタン
ファイルを開くボタン
新規作成ボタン

情報表示バー

レイアウトエリア

ステータスバー

４－２　ファイルメニュー

ファイルメニューでは、ファイル関係の操作および終了処理などを行います。メニューバーの「ファイル」を選択すると、以下のプルメニューが表示されるので、任意の処理を選択してください。

１）新規作成

２）開く

３）削除

４）上書き保存

５）名前を付けて保存

６）管理者設定

７）ラベルサイズ設定

８）ファイルの情報

９）印刷

１０）印刷プレビュー

１１）メモリカードに登録

１２）終了

各処理の詳細については、次ページ以降で説明します。

４－２－１　新規作成

▼メニュー選択：「ファイル」→「新規作成」または、 ボタン

機能

ラベルフォーマットを新規に作成します。

操作手順

１）プリンタ機種を選択リストより選択します。

２）ラベルサイズ高さ／幅およびラベルピッチを数値入力します。

３）ラベル数（横）を設定します。

４）左右ラベルピッチを設定します。（ラベル数（横）が２以上の場合）

５）枚数開始が□左から□か□右から□かを選択します。（ラベル数（横）が２以上の場合）

６）「ＯＫ」ボタンを押します。

　「キャンセル」ボタンを押すと、この処理を取り消します。

注意１：“新規作成を行うと”

編集中のデータはクリアされます。必要であれば、先に保存処理を行ってください。

注意２：”ラベルピッチの値”

ラベルピッチはラベルの先頭から次のラベルの先頭までの間隔のことです。

従って、ラベルピッチ＞＝ラベルサイズ高さでなければ正常に印字されません。

注意３：“多丁取りについて”

多丁取りとは、同じサイズ（幅 x 高さ）のラベルを台紙の横方向に並べて印字する設定のことを言います。

“ラベル数（横）”で横方向に並べるラベル枚数を設定し、“左右ラベルピッチ”で左右のラベルのラベルとラベル間の間隔を設定します。

枚数開始が”左から”か”右から”かを選択します（デフォルトは”左から”）。

左からの場合は印字方向に対して一番左側のラベルを１枚目とします。

右からの場合は印字方向に対して一番右側のラベルを１枚目とします。

パーツの作成は１つのラベルサイズ（幅 x 高さ）内で行います。

（**DURA Rhythm**で横方向にラベル数（横）分のパーツデータを展開します。）

また下記の制限があります。

・ラベルサイズ、幅、高さは全て同じサイズ

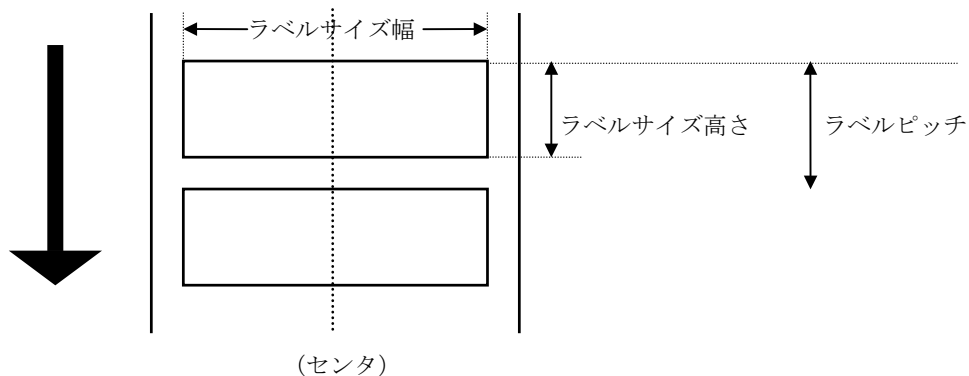
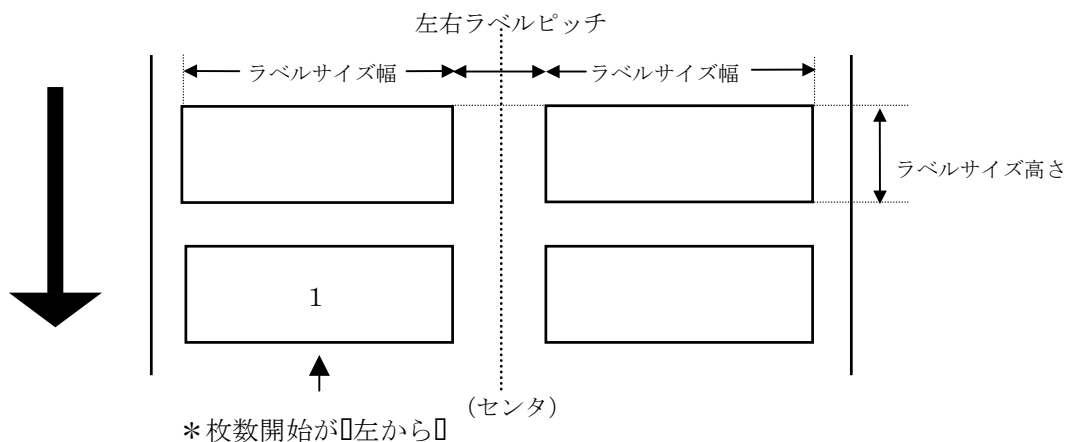
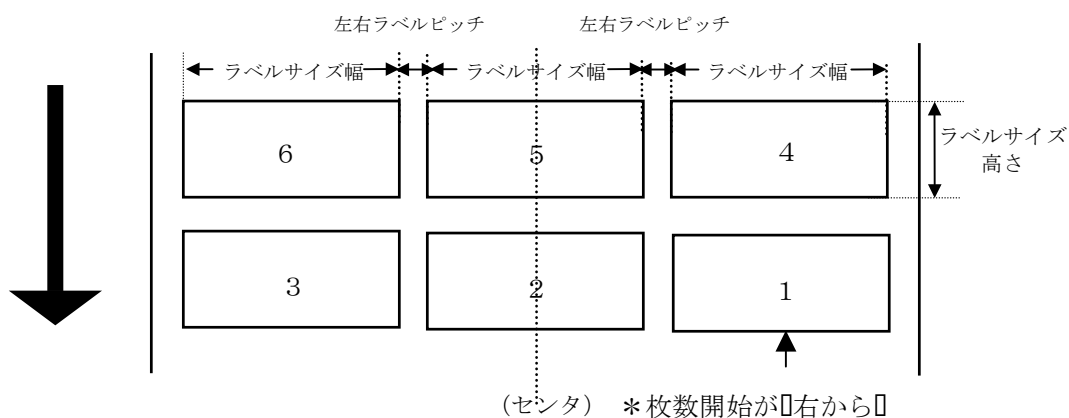
・左右ラベルピッチは全て同じ値のラベル

・パーツ数の制限（１００個以内）は横方向に展開されるラベル数を含めた値です。

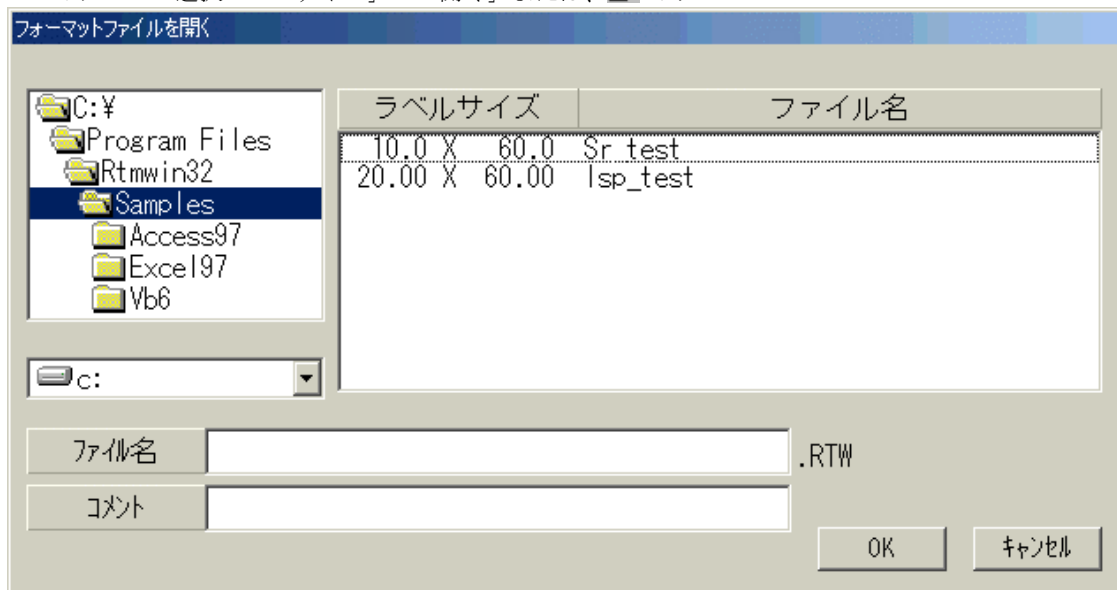
（例えばラベル数（横）が５の場合、パーツの制限は２０（１００/５）になります。）

・多丁取り時はラベルフォーマットをメモリカードに登録することはできません。

（ロゴパーツは登録できます。）

多丁取りを使用しない場合（ラベル数（横）が１の場合）

多丁取りを使用する場合（ラベル数（横）が２、枚数開始が▯左から▯の場合）

（ラベル数（横）が３、枚数開始が▯右から▯の場合）

４－２－２　開く

▼メニュー選択：「ファイル」→「開く」または、 ボタン

機能

保存されているラベルフォーマットのファイルを読み込みます。

操作手順

１）ラベルフォーマットが存在するドライブを画面左中央の選択リストより選択します。

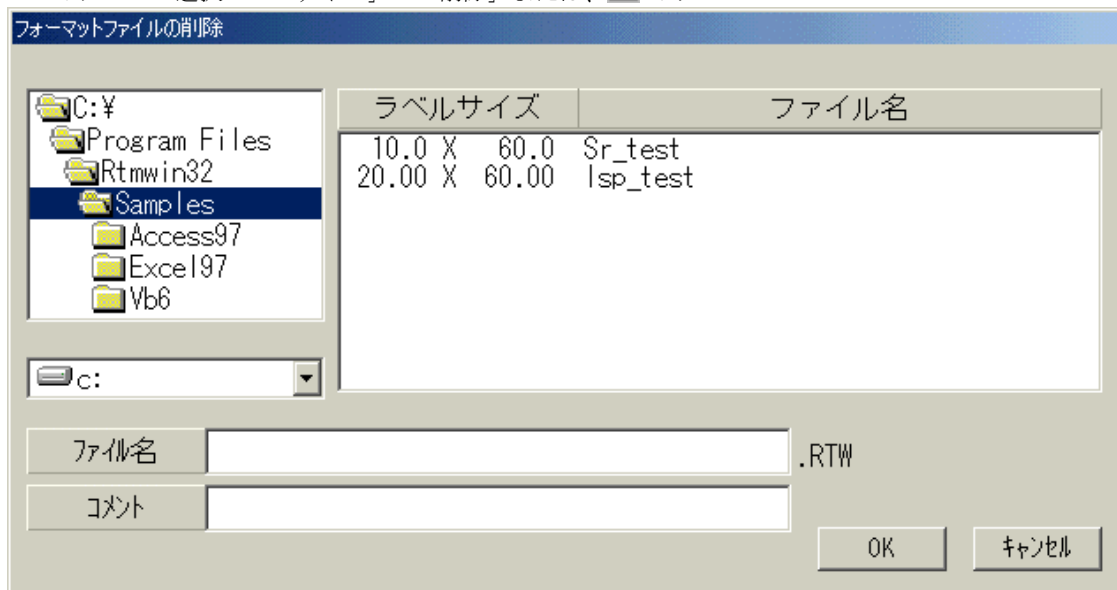
２）ラベルフォーマットが存在するディレクトリを画面左上の選択リストより選択します。

３）ファイル一覧リスト（画面右の選択リスト）より読み込むラベルフォーマットを選択するか、ファイル名のを直接入力し、「ＯＫ」ボタンを押します。
「キャンセル」ボタンを押すと、この処理を取り消します。

注意：“ファイル名”の入力には、
拡張子を除いた部分を入力してください。例えば、ファイル名が“ABC.RTW”の場合、“ABC”と入力してください。

４－２－３　削除

▼メニュー選択：「ファイル」→「削除」または、 ボタン

機能

保存されているラベルフォーマットのファイルを削除します。

操作手順

１）ラベルフォーマットが存在するドライブを画面左中央の選択リストより選択します。

２）ラベルフォーマットが存在するディレクトリを画面左上の選択リストより選択します。

３）ファイル一覧リスト（画面右の選択リスト）より削除するラベルフォーマットを選択するか、直接ファイル名を入力し、「ＯＫ」ボタンを押します。

「キャンセル」ボタンを押すと、この処理を取り消します。

４－２－４　上書き保存

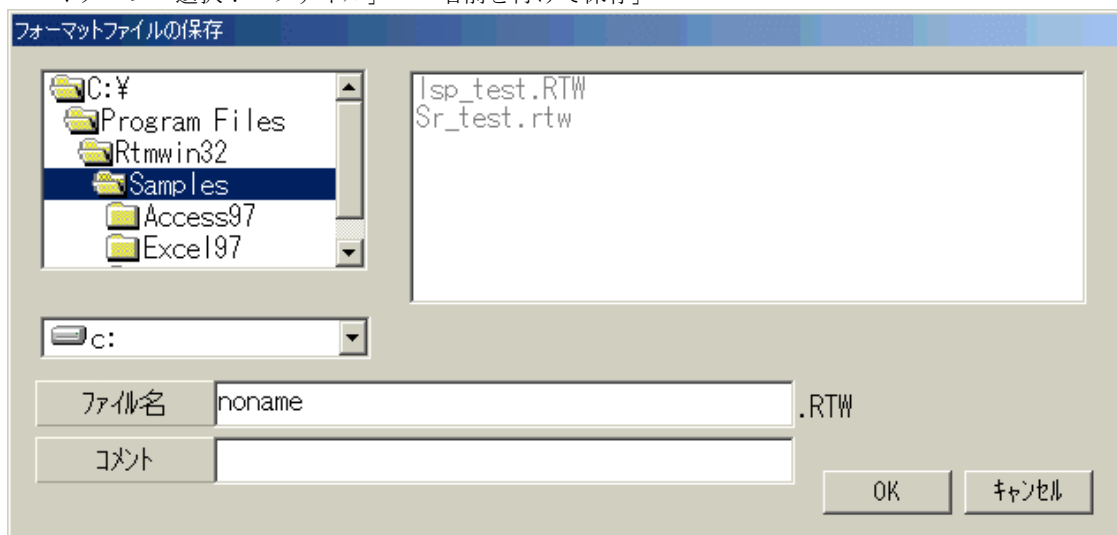
▼メニュー選択：「ファイル」→「上書き保存」または、 ボタン

機能

現在編集中のラベルフォーマットを上書き保存します。

４－２－５　名前を付けて保存

▼メニュー選択：「ファイル」→「名前を付けて保存」

機能

現在編集中のラベルフォーマットをディスクに保存します。一度登録された内容は、再度読み込み、使用することができます。

操作手順

１）保存するドライブを画面左中央の選択リストより選択します。

２）保存するディレクトリを画面左上の選択リストより選択します。

３）ファイル名の入力欄にファイル名を入力するか、画面右のファイル一覧よりファイル名を選択してください。

４）コメント欄は、そのファイルが区別できるようなコメントを入れることができます（必要のないときは入力しなくてもかまいません）。

５）「ＯＫ」ボタンを押します。
「キャンセル」ボタンを押すと、この処理を取り消します。

注意：“上書きしますか？”

同一ファイル名が見つかった場合は、”上書きしますか？”のメッセージが表示されます。上書きしてよい場合は「ＯＫ」ボタンを，ファイル名を変えて保存する場合は「キャンセル」ボタンを押してください。

４－２－６　管理者設定

▼メニュー選択：「ファイル」→「管理者設定」

管理者設定

パーツ移動・変更不可をパスワードで保護

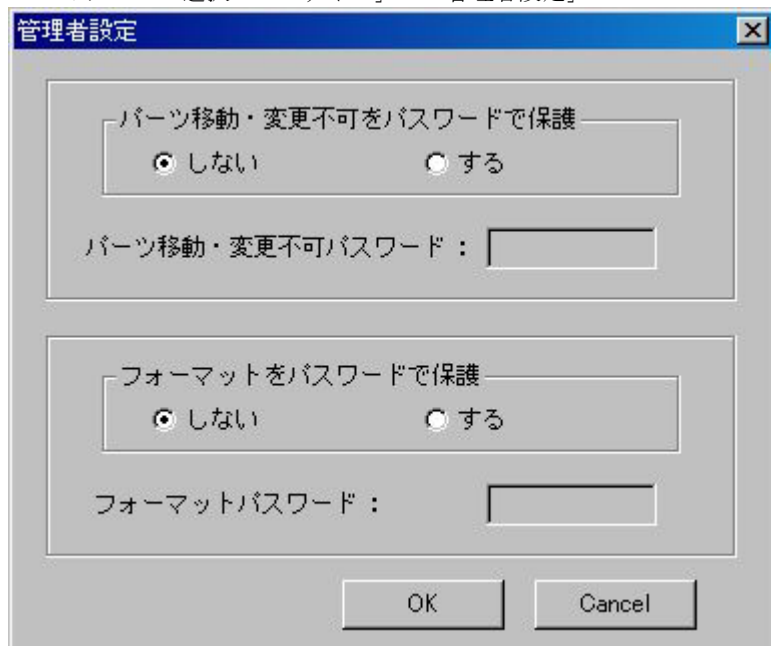
しない　する

パーツ移動・変更不可パスワード：

フォーマットをパスワードで保護

しない　する

フォーマットパスワード：

OK　Cancel

機能

パーツの移動不可、変更不可とフォーマットをパスワードで保護します。

半角英数字、１文字以上１０文字以内で設定してください。

操作手順

１）パーツ移動, 変更不可をパスワードで保護「しない」「する」を選択します。

２）フォーマットをパスワードで保護「しない」「する」を選択します。

３）パスワードで保護「する」にチェックをした場合、パスワードを入力します。

４）パスワードで保護「する」と設定されているファイルを保護「しない」にする場合は
パスワードを入力して「ＯＫ」を押します。

５）パスワードで保護「する」と設定した後、「ＯＫ」ボタンを押すと
再度確認用のパスワード入力画面が表示されます。
「Ｃａｎｃｅｌ」ボタンを押すと、この処理を取り消します。

４－２－７　ファイルの情報

▼メニュー選択：「ファイル」→「ファイルの情報」

機能

保存されたファイルの情報を表示します。

「Ｆｉｌｅ Ｖｅｒｓｉｏｎ」は最後に保存されたＤＵＲＡ Ｒｈｙｔｈｍのバージョンです。

「Ｆｉｌｅ Ｓｉｚｅ」はファイルの容量です。

「Ｆｉｌｅ ＵｐＤａｔｅ」はファイルが最後に保存された日付です。

操作手順

「Ｕｐｄａｔｅ ｈｉｓｔｏｒｙ」ボタンを押すと、ファイルの保存履歴を表示します。

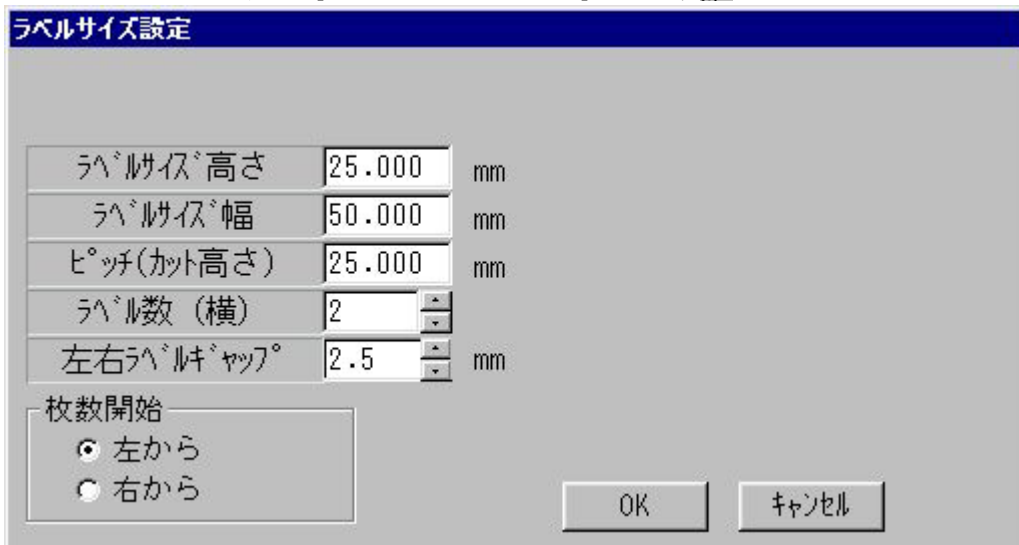
ファイルの保存履歴

Update history

Creator	Date	Time
NITTO DENKO	2004/11/22	16:56
日東電工	2004/11/04	11:40
日東電工	2004/11/04	08:40

OK

機能

ＤＵＲＡ Ｒｈｙｔｈｍ Ｖｅｒ５．７以降に作成,保存されたファイルの保存履歴が表示されます。

「Ｃｒｅａｔｏｒ」はファイルの更新者です。

「Ｄａｔｅ」はファイルが更新された日付です。

「Ｔｉｍｅ」はファイルが更新された時間です。

４－２－８　ラベルサイズ設定

▼メニュー選択：「ファイル」→「ラベルサイズ設定」または、 ボタン

機能

新規作成で定義したラベルサイズを変更します。

操作手順

1）ラベルサイズ高さ／幅およびラベルピッチを数値入力します。

2）ラベル数（横）を設定します。

3）左右ラベルピッチを設定します。（ラベル数（横）が２以上の場合）

4）枚数開始が□左から□か□右から□かを設定します。（ラベル数（横）が２以上の場合）

5）「ＯＫ」ボタンを押します。

「キャンセル」ボタンを押すと、この処理を取り消します。

４－２－９　印刷

▼メニュー選択：「ファイル」→「印刷」または、 ボタン

＜**DURA PRINTER-SR**使用時の印刷実行画面＞

＜**DURA PRINTER-LSP5300**使用時の印刷実行画面＞

機能

１）ラベルの発行を行います。

２）プリンタに送信している印刷コマンド列をファイルに保存できます。

操作手順

１）パーツ登録時に印字データの入力方法を「変数名で入力」にチェックしている項目は、印字内容を入力します。印字データの入力方法を「パーツ内で入力」にチェックしている項目は、この画面で印字内容を変更できません。

２）パーツ登録時に印字データの入力方法を「変数名で入力」にチェックしている項目で、制御コード入力可能なパーツの場合、「制御コード」ボタンを押すことにより、制御コードを入力できます。

３）パーツ登録時に印字データの入力方法を「変数名で入力」にチェックしている項目は、Ｎｏの入力欄を変更できます。この数値を変更することにより、入力順序の変更ができます。

４）パーツ登録時に連番使用（数字、英字、英数字）に設定している項目には、画面右に連番保持のチェックボックスが表示されます。このチェックボックスをオンにしておくと、印刷を終了する度に、自動的に印字内容が更新されます。

５）画面右端の印字欄のチェックボックスは、項目ごとに印字する／しないを設定できます。このチェックボックスをオンにすると、その項目を印字しオフにすると印字されません。

６）「通信ポート」ボタンを押すと、出力ポートの変更ができます。

７）**DURA PRINTER-SR(SRS)/LSP5300**使用時、画面左下に機能設定の一部が表示され、変更することができます（印刷時機能設定を送信するになっている時）。

８）印刷枚数を入力し、「印刷」ボタンを押すと印刷を開始します。
「キャンセル」ボタンを押すと、この処理を取り消します。
「コマンドをファイルに保存」ボタンを押すと、コマンド列をファイルに保存します。

８）**DURA PRINTER-SRS/R/SG**使用時、プリンタ・オプションのカッター使用 オプションが「バッチカット」に設定されている場合、この画面にバッチカット枚数の入力項目が表示され設定可能になります。

１０）「リセット」ボタンを押すと、プリンタをリセットします。

１１）「ステータス」ボタンを押すと、現在のプリンタの状態を表示します（出力ポートがＬＰＴ以外の時のみ有効です）。

１２）「印字内容を元に戻す」ボタンを押すと、印字内容をこの画面に入ってきた時の状態に戻します。

注意１：“連番保持のチェックボックスをオンにした場合”

DURA Rhythmでは、印刷を終了する度に印字内容が更新されますが、ファイルには保存されません。必要であれば、ファイルに保存（上書き保存または名前を付けて保存）処理を行ってください。但し、**DURA Rhythm Light**では、印刷終了時に自動的にファイル保存されます。

連番保持は、プリンタに送信したデータが、プリンタで正しく印字されたものとして計算して表示しています。従って、印字中にプリンタの電源を切った場合など、プリンタで正しく印字されていない場合、次に印字するべきデータの値が異なる場合があります。この場合、再度データの変更作業を行ってください。

注意２：“印刷が開始しない場合”

プリンタとの接続（ＣＯＭ，ＬＰＴポートの接続やＲＳ－２３２Ｃの設定）が正しいか確認してください。プリンタがエラー音を発している場合は、パーツ登録の設定に問題がないか調べてください（細線，太線の比率など）。

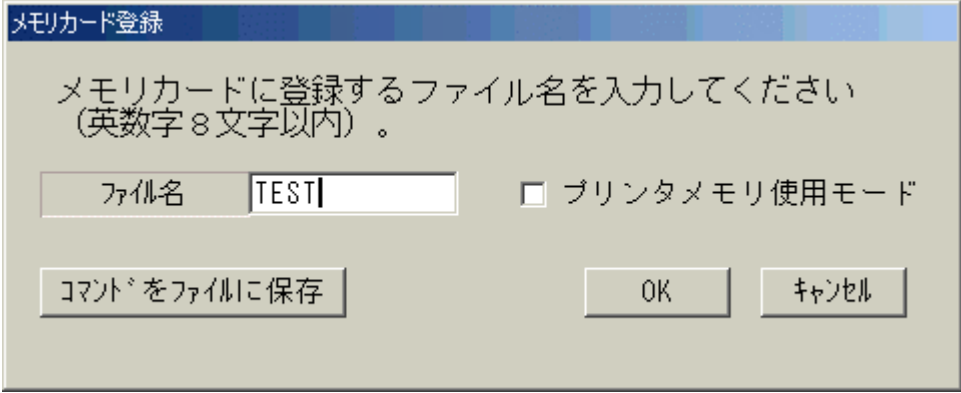
コマンドをファイルに保存について

「**DURA PRINTER**」でラベルを印刷する場合、本ソフトから専用コマンドをパソコンのＣＯＭ（ＲＳ－２３２Ｃ）ポートまたは、ＬＰＴ（セントロ）ポートに送信しています。このコマンドの内容をテキストファイルに保存する機能が「コマンドをファイルに保存」です。

別のアプリケーションソフトから、このコマンドをプリンタに送信すると、本ソフトと同じようにラベルの印刷が行えます。

プリンタ情報の保存について

＜**DURA PRINTER-SRS**の場合＞

プリンタから取得したプリンタ情報をファイルに保存することができます。
プリンタ情報をファイルに保存ボタンを押すと、保存先入力画面がでてきますので、
そこで保存したいファイル名を入力し、OKを押すとプリンタ情報が保存されます。
保存する情報は、日付、DURARhythmのバージョン、DURARhythmのファイル名、
プリンタ名と、画面に表示されている情報すべてになります。

４－２－１０　メモリカードに登録

▼メニュー選択：「ファイル」→「メモリカードに登録」または、 ボタン

メモリカード登録

メモリカードに登録するファイル名を入力してください（英数字８文字以内）。

ﾌｧｲﾙ名　TEST

プリンタメモリ使用モード

ｺﾏﾝﾄﾞをﾌｧｲﾙに保存　OK　ｷｬﾝｾﾙ

<u>機能</u>

1）**DURA PRINTER**にメモリカード（オプション）または、フラッシュメモリボードが付いている場合、ラベルフォーマットをメモリカードに登録します。

（多丁取り設定時（ラベル数（横）が２以上の場合）はラベルフォーマットをメモリカードに登録できません。）

2）メモリカードへの登録コマンド列をファイルに保存できます。

（多丁取り設定時はできません。）

3）プリンタメモリ使用モードのオン／オフを切り替えます。

（プリンタメモリ使用モードについては、“注意４”を参照してください。）

<u>操作手順</u>

1）「ＯＫ」ボタンを押すとメモリカードにラベルフォーマットを登録します。

「キャンセル」ボタンを押すと、この処理を取り消します。

「コマンドをファイルに保存」ボタンを押すと、コマンド列をファイルに保存します。

注意１：“メモリカードに登録する場合”

DURA Rhythmでは、**DURA PRINTER R/R4/S** のメモリーカードには１つのファイルしか書き込めません（メモリーカードの前のファイルは消えます）。

DURA PRINTER SR(SRS)/SG/LSP5300のメモリーカードには、追加書き込みが可能で、**DURA PRINTER SR(SRS)**は最大１２８ファイル、**LSP5300**は最大１０２４ファイル書き込めます（データ量とメモリーカードの容量により異なります。

容量を越えるとメモリーカードエラーとなります。

また、同じファイル名は上書きされます）。

注意２：“ロゴ／TrueTypeを含んだフォーマットのメモリカードへの登録について”

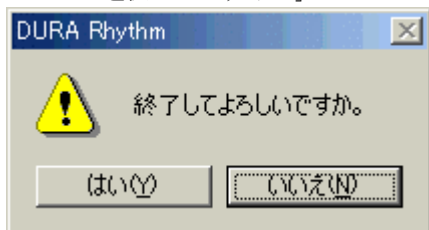
ロゴ／TrueType を含んだフォーマットをメモリカードへ登録する場合、ロゴファイルとして各ロゴをメモリカードに登録しない場合、登録できるロゴサイズに制限があります。この場合、各ロゴをロゴファイルとして、まずメモリカードに登録（ダウンロード）してから、フォーマット全体をメモリカードに登録してください。

注意３：メモリカード登録のファイル名は、８桁の英数字（A～Z,0～9）にしてください。

注意４：“プリンタメモリ使用モードについて”

プリンタメモリ使用モードのチェックボックスをオンにした場合、メモリカードに登録したラベルフォーマットを使って印刷処理を行います。プリンタに対しては、メモリカードに登録しているファイル名および、変数名で入力した項目の印字データのみを送信しますので、高速に印刷処理を行えます。従って、登録後に変更されたデータは印刷に反映されません。また、連番を使用する場合は、印字データ入力方法を「変数名で入力」の設定にしてください（「パーツ内で入力」の設定になっている場合、連番は更新されません）。

４－２－１１　**DURA Rhythm** の終了

▼メニュー選択：「ファイル」→「**DURA Rhythm**の終了」

機能

DURA Rhythmを終了します。

操作手順

「はい」ボタンを押すと、 **DURA Rhythm**を終了します。

「キャンセル」ボタンを押すと、この処理を取り消します。

編集中のラベルフォーマットがある場合、下図の画面が表示されます。

「はい」ボタンを押すと、編集中のラベルフォーマットを保存した後終了します。

「いいえ」ボタンを押すと、編集中のラベルフォーマットを保存せずに終了します。

「キャンセル」ボタンを押すと、この処理を取り消します。

４－３　編集メニュー

メニューバーの「編集」を選択すると、以下のプルメニューが表示されるので、任意の処理を選択してください。

１）元に戻す

２）図の貼り付け

処理の詳細については、次ページ以降で説明します。

４－３－１　元に戻す

▼メニュー選択：「編集」→「元に戻す」または、 ボタン

機能

パーツに対して、最後に行った処理の１つ前の状態に戻します。

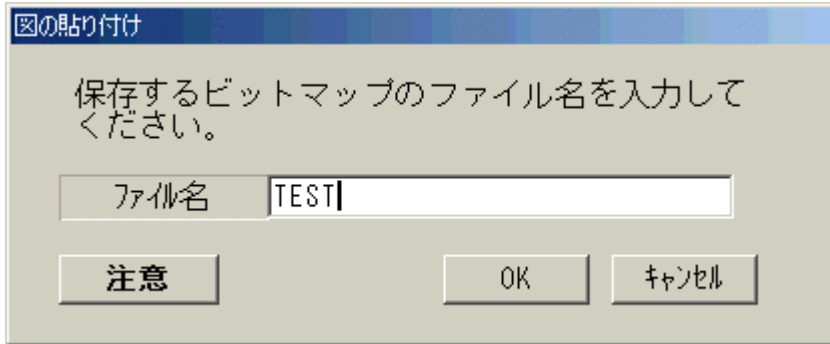
４－３－２　図の貼り付け

▼メニュー選択：「編集」→「図の貼り付け」

図の貼り付け

保存するビットマップのファイル名を入力してください。

ﾌｧｲﾙ名　TEST

注意　OK　ｷｬﾝｾﾙ

機能

クリップボードに画像データがある場合、ロゴパーツとして取り込みます。

取り込んだロゴは、メモリカードにダウンロードすることもできます。

操作手順

１）ファイル名に保存するビットマップファイル名を入力します。

「ＯＫ」ボタンを押すと、図のデータを取り込みます。

「キャンセル」ボタンを押すと、この処理を取り消します。

注意１：“クリップボードの画像データついて”

DURA Rhythmでサポートする画像データは、モノクロデータ（白黒ビットマップ）のみです。カラー画像も読み込み可能ですが、画像データによっては、正しく変換できない場合があります。この場合、ドロー系のグラフィックソフト（ペイントなど）で、白黒ビットマップで保存して、ロゴの読み込みを行ってください。

注意２：“取り込んだビットマップファイルについて”

クリップボードより取り込んだ画像は、ロゴのパーツとしてとして登録されますが、通常のロゴのようにビットマップファイルは存在しません。ロゴのプロパティには、ビットマップファイル名が表示されていますが、**DURA Rhythm** で識別する為のものです。後々ロゴを変更する可能性があれば、ロゴを作成したクラフィックソフト側で、ビットマップファイルの保存を行ってください。

４－４　挿入メニュー

挿入メニューでは、各パーツの登録時に使用します。メニューバーの「挿入」を選択すると、以下のプルメニューが表示されるので、任意の処理を選択してください。

また、レイアウトエリアでマウスの右ボタンをクリックすると、同様のプルメニューが表示されます。

１）バーコード

２）文字

３）ＥＡＮ１２８アシスト

４）ビットマップ

５）ＴｒｕｅＴｙｐｅ

６）外字フォント

７）ＱＲコード

８）ＰＤＦ４１７

９）ＤａｔａＭａｔｒｉｘ

１０）線

１１）枠線

１２）塗りつぶし

１３）枠内クリア

１４）枠内反転

各処理の詳細については、次ページ以降で説明します。

４－４－１　バーコード

▼　メニュー選択：「挿入」→「バーコード」または、　ボタン

バーコードパラメータの設定

ﾊﾞｰｺｰﾄﾞﾀｲﾌﾟ	Code 39	
ﾁｪｯｸﾃﾞｼﾞｯﾄ	未使用	
ｷﾞｬｯﾌﾟ	細線と同じ	mm
ﾊﾞｰ細線幅	0.333	mm
ﾊﾞｰ太線幅	0.666	mm
拡大率		
ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ密度		比率 1:2.0
Compositeの高さ		dots　mm
ｾｸﾞﾒﾝﾄ数		
ﾊﾞｰｺｰﾄﾞ高さ	10.160	mm
ｽﾀｰﾄｺｰﾄﾞ	*	ｽﾄｯﾌﾟｺｰﾄﾞ *

注意　印字データ..　OK　ｷｬﾝｾﾙ

注意：画面に表示されるバーコードは、イメージです。

機能

バーコードパーツを登録します。

操作手順

１）バーコードタイプを選択します。選択できるバーコードは以下の通りです。

プリンタの機種によっては選択できないバーコードもあります。

●Ｃｏｄｅ３９

●ＩＴＦ（Ｉ２ｏｆ５）

●ＵＰＣ－Ａ

●ＵＰＣ－Ｅ

●ＥＡＮ（ＪＡＮ）１３桁

●ＥＡＮ（ＪＡＮ）８桁

●Ｃｏｄａｂａｒ（NW７）

●Ｃｏｄｅ９３

●Ｃｏｄｅ１２８　サブセットＡ

●Ｃｏｄｅ１２８　サブセットＢ

●Ｃｏｄｅ１２８　サブセットＣ

●ＥＮＡ－１２８（ＳＳＣＣ－１８（標準カートンＩＤ）），Ｃａｓｅｃｏｄｅ１２８）

●Ｃｏｄｅ１２８　サブセットＡのみ

●Ｃｏｄｅ１２８　サブセットＢのみ

●Ｃｏｄｅ１２８　サブセットＣのみ

●カスタマバーコード

●ＵＰＣ－Ａ　ヒューマンリーダブルなし

●ＵＰＣ－Ｅ　ヒューマンリーダブルなし

●ＥＡＮ（ＪＡＮ）１３桁　ヒューマンリーダブルなし

●ＥＡＮ（ＪＡＮ）８桁　　ヒューマンリーダブルなし

●ＥＡＮ（ＪＡＮ）１３桁　チェックデジット計算なし

●ＥＡＮ（ＪＡＮ）８桁　　チェックデジット計算なし

●ＥＡＮ－１２８（サブセットＡ）

●ＥＡＮ－１２８（サブセットＢ）

●ＥＡＮ－１２８（サブセットＣ）

●ＥＡＮ－１２８（サブセットＡのみ）

●ＥＡＮ－１２８（サブセットＢのみ）

●ＥＡＮ－１２８（サブセットＣのみ）

●Ｃｏｄｅ１２８（ＡＵＴＯ）

●ＥＡＮ－１２８（ＡＵＴＯ）

●ＲＳＳ－１４

●ＲＳＳ－１４ Ｔｒｕｎｃａｔｅｄ

●ＲＳＳ－１４ Ｓｔａｃｋｅｄ

●ＲＳＳ－１４ Ｓｔａｃｋｅｄ Ｏｍｎｉｄｉｒｅｃｔｉｏｎａｌ

●ＲＳＳ Ｌｉｍｉｔｅｄ

●ＲＳＳ Ｅｘｐａｎｄｅｄ

●ＲＳＳ－１４（Ｃｏｍｐｏｓｉｔｅ［ＣＣ－Ａ］）

●ＲＳＳ－１４ Ｔｒｕｎｃａｔｅｄ（Ｃｏｍｐｏｓｉｔｅ［ＣＣ－Ａ］）

●ＲＳＳ－１４ Ｓｔａｃｋｅｄ（Ｃｏｍｐｏｓｉｔｅ［ＣＣ－Ａ］）

●ＲＳＳ－１４ Ｓｔａｃｋｅｄ Ｏｍｎｉｄｉｒｅｃｔｉｏｎａｌ
（Ｃｏｍｐｏｓｉｔｅ［ＣＣ－Ａ］）

●ＲＳＳ Ｌｉｍｉｔｅｄ（Ｃｏｍｐｏｓｉｔｅ［ＣＣ－Ａ］）

●ＲＳＳ Ｅｘｐａｎｄｅｄ （Ｃｏｍｐｏｓｉｔｅ［ＣＣ－Ａ］）

バーコードタイプによって、それ以下のパラメータを設定する必要があるものとないものがあります。最初にバーコードタイプを選択することにより、設定が必要な項目のタイトル（チェックデジット，ギャップなど）は黒字で表示され、設定不要なものは灰色で表示されます。なお、設定不要な灰色表示の項目には、入力できないようになっています。

2）チェックデジットを選択リストより選択します。

3）ギャップを選択リストより選択します（通常、「細線と同じ」に設定します）。

4）バー細線幅を選択リストより選択します。

5）バー太線幅を選択リストより選択します。

6）拡大率を選択リストより選択します。

7）バーコード密度を選択リストより選択します。

8）Ｃｏｍｐｏｓｉｔｅの高さをリストより選択します。

9）セグメント数をリストより選択します。

１０）バーコード高さを入力します。

１１）スタートコード／ストップコードを入力します。

比率の表示について

バー細線幅：バー太線幅の比率を表示します。バー細線幅，およびバー太線幅を変更したときに、その比率が表示されます。

１２）「ＯＫ」ボタンを押すと、バーコードデータをパーツとして登録します。

「キャンセル」ボタンを押すと、この処理を取り消します。

「印字データ…」ボタンを押すと、印字データ入力画面（４－４－１０参照）が表示されます。

「注意」ボタンを押すと、バーコードに関する注意事項が表示されます。

注意１：“スタートコード／ストップコードについて”

Ｃｏｄａｂａｒ（NW7）のときのみ、スタートコード／ストップコードが、それぞれ変更できます。デフォルトでは“A”が設定されており、“A”～“D”の範囲で変更することができます。

注意２：“バー細線幅／バー太線幅について”

Ｃｏｄｅ３９・ＩＴＦの場合、バー細線幅：バー太線幅は、比率が１：２～１：３の間に入る値を入力してください。また、バー細線幅が０．１２５（０．１２７）㎜の時は、読み取り可能な品質のバーコードを印字出来ない場合があります。

注意３：“検証器を動作させる場合”

DURA PRINTER R 使用の場合、バーコードの左右にそれぞれ４mm以上の余白（クワイエットゾーン）を設けてください。

DURA PRINTER SR 使用の場合、バーコードの左右にそれぞれ３mm以上の余白（クワイエットゾーン）を設けてください。

＊検証可能なバーコードは、１フォーマット内１５個です。

注意４：“ＣＯＤＥ１２８（EAN128）”について

付録Ｅ　「ＣＯＤＥ１２８（EAN128）の入力について」を参照してください。

４－４－２　文字

▼メニュー選択：「挿入」→「文字」または、 ボタン

文字パラメータの設定

フォント	ドット　ＯＣＲ－Ｂ			
各国語キャラクタ	日本			□ 太字
文字間スペース	0.254	mm		
文字の印字方向	横書き			
文字サイズ（横）	0.889 mm	× 1 倍	0.889	mm
文字サイズ（縦）	1.715 mm	× 1 倍	1.715	mm
チェックデジット	未使用			
枠サイズ横	0.000	mm		
左右調整	◉ 左揃え	○ 右揃え	○ 中央揃え	○ 均等割付

□ 文字サイズ(横)(縦)の大きさを、枠サイズ横縦に自動調整する

注意　印字データ..　OK　キャンセル

機能

文字パーツを登録します。

操作手順

1）フォントを選択します。選択できるフォントは以下の通りです（**DURA PRINTER SR** の場合）。

- ●ドットフォント　ＯＣＲ－Ｂ
- ●ドットフォント　英数字ＸＳ
- ●ドットフォント　英数字ＳＳ
- ●ドットフォント　英数字Ｓ
- ●ドットフォント　英数字Ｍ
- ●ドットフォント　英数字Ｌ
- ●ドットフォント　英数字Ｂ
- ●ドットフォント　漢字（１６）
- ●ドットフォント　漢字（２４）
- ●ドットフォント　英数カナ（１）
- ●ドットフォント　英数カナ（２）

●ドットフォント　英数字Ｎ１

●ドットフォント　英数字Ｎ２

●ベクトルフォント　ローテータブル

●ベクトルフォント　Ｍｏｄｕｌｏ１０

●ベクトルフォント　Ｍｏｄｕｌｏ１１

●ベクトルフォント　Ｍｏｄｕｌｏ４３

●アウトラインフォント　ＡＳＣＩＩ（オプション）

●アウトラインフォント漢字（オプション）

●ドットフォント　英数字Ｎｏ１～Ｎｏ５

●ドットフォント　英数字ＮＡ１，ＮＡ２

＊**DURA PRINTER SRS/SG/LSP**シリーズでは、アウトラインフォントは標準対応です。

フォントによって、それ以下のパラメータを設定する必要があるものとないものがあります。最初にフォントを選択することにより、設定が必要な項目のタイトル（各国語キャラクタ，文字間スペースなど）は黒字で表示され、設定不要なものは灰色で表示されます。なお、設定不要な灰色表示の項目には、入力できないようになっています。

２）各国語キャラクタを選択リストより選択します（通常「日本」を選択します）。

３）文字間スペースを選択リストより選択します。

４）文字の印字方向を選択リストより選択します。

５）文字サイズ横／文字サイズ縦は、倍率または単位（ミリ，インチ）入力になっていますので、キーボードよりどちらかに数値入力してください。倍率での入力の場合、選択したフォントにより最少の文字サイズが決まっているため、設定できる値はその整数倍の値になります。

６）左右調整を選択します。左揃え以外の場合は、枠サイズ横が入力できるようになり、その入力された値に合わせて文字の位置が調整されます。

７）「文字サイズ(横)(縦)の大きさを、枠サイズ縦横に自動調整する」を選択すると、枠サイズ縦と枠サイズ横が入力できるようになり、入力されたサイズに合わせて自動的に文字のサイズが自動調整されます。

８）「ＯＫ」ボタンを押すと、文字データをパーツとして登録します。
「キャンセル」ボタンを押すと、この処理を取り消します。
「印字データ…」ボタンを押すと、印字データ入力画面（４－４－１０参照）が表示されます。
「注意」ボタンを押すと、文字パーツに関する注意事項が表示されます。

9）複数行入力を使用する場合は、以下のように印字データ登録画面で、複数行入力を選択してください。複数行ボタンを押すと複数行入力画面が表示され、複数行入力ができるようになります。

注意１：“推奨フォント”

ドットフォントの種類，サプライの種類によっては、文字がかすれやすいフォントがあります。推奨フォントは、ＯＣＲ－Ｂ，英数字ＮＯ１～ＮＯ５およびベクトルローテータブルフォントです。かすれが発生した場合、別のフォントをご使用してください。

注意２：“太字フォント”について

太字は同じフォントを横方向に０．１２７㎜移動して２度印字を行っています。

文字間スペースが小さいと次の文字と重なる場合があります。

注意３：“左右調整”について

左揃えに設定すると文字が左揃えに、右揃えにすると文字が右揃えに、

中央揃えにすると文字が中央揃えになります。

右揃えと、中央揃えの時は枠サイズを設定することにより、

その枠に応じた位置に印字されます。

注意４：“文字サイズ(横)(縦)の大きさを、枠サイズ縦横に自動調整する”について

文字のサイズは、入力された枠のサイズの中に収まるサイズの中から、

もっとも最適なサイズが選択されます。

ただし、文字のサイズはドット単位になるため、枠のサイズと同じ

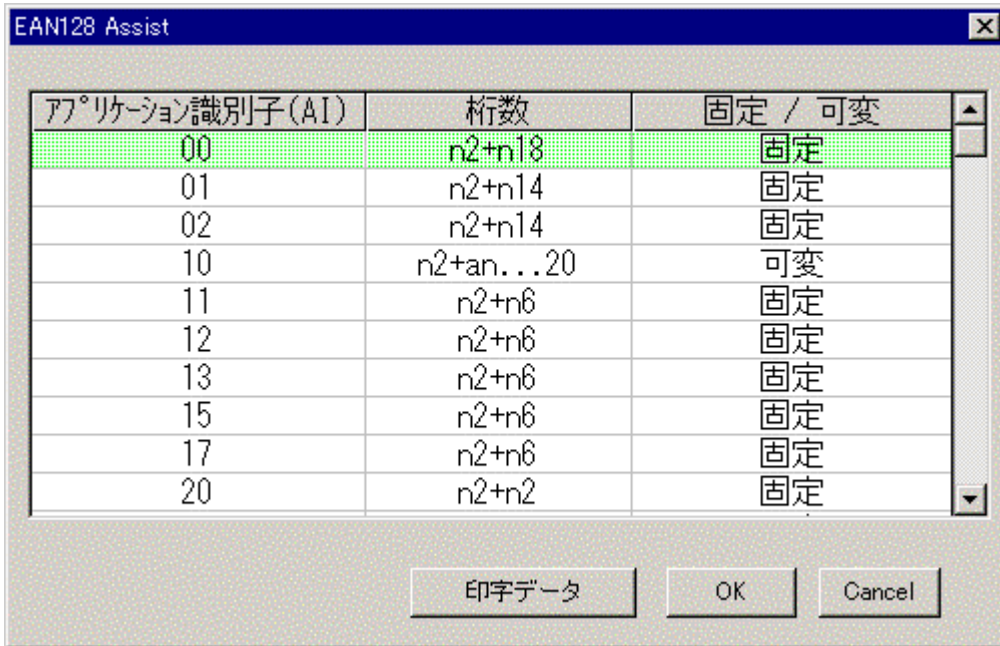
サイズにはならない場合があります。

４－４－３　ＥＡＮ１２８アシスト

▼メニュー選択：「挿入」→「EAN Assist」または、EANボタン

EAN128 Assist

アプリケーション識別子(AI)	桁数	固定 / 可変
00	n2+n18	固定
01	n2+n14	固定
02	n2+n14	固定
10	n2+an...20	可変
11	n2+n6	固定
12	n2+n6	固定
13	n2+n6	固定
15	n2+n6	固定
17	n2+n6	固定
20	n2+n2	固定

印字データ　OK　Cancel

機能

ＥＡＮ１２８アシストパーツを登録します。

操作手順

1）ＥＡＮ１２８アシストパーツを利用して、各アプリケーション識別子（ＡＩ）ごとにパーツを作成します。

2）まずアプリケーション識別子（ＡＩ）を選択します。

選択されたＡＩによって、入力できる行数や文字種類などが、かわります。

桁数欄

表記	意味
ｎ	数字
ａ	英字
ａｎ	英数字
ｎ20	数字の固定長
ｎ▯20	数字の可変長（最大20桁）
ａｎ▯20	英数字の可変長（最大20桁）

・　固定長：データ長が固定です。例えば“ｎ２０“の場合、２０桁の数字を入力する

必要があります。

・　可変長：データ長が固定されていない。

データ長が最大桁に満たない場合、“ＦＮＣ１”を自動的に挿入します。

例えば、“N□２０”の場合、２０桁以下の数字を入力する必要があります。

３）選択したら、「印字データ」ボタンを押すと、印字データ入力画面となります。

４）「ＯＫ」ボタンを押すと、文字データをパーツとして登録します。

「キャンセル」ボタンを押すと、この処理を取り消します。

５）ＥＡＮ128アシストパーツは印字しませんので、印字しないパーツとなりますので

□印字しない□にチェックが付いています。

ＥＡＮ128アシストパーツは、リンクソースパーツになります。

印字データ登録

印字データ

入力方法　◉ パーツ内で入力　○ 変数名で入力　○ リンク

変数名　　ﾃﾞｰﾀ文字数

AI　(02)　☑ チェックデジットを自動付加

印字内容　1234567890123

文字コード　　桁　14

コメント　　☑ リンクソース　名前　123

連番

連番の使用　未使用

変化量　1　何桁目　1

何枚毎　1　何文字　1

ｽｷｯﾌﾟ文字列(全ﾊﾟｰﾂ共通)

リセット値　　最大値

☐ 最大値とリセット値を指定する

☐ 複数の連番ループを使用する

印字位置

印字開始座標 (X,Y)　0.000　x　0.000　mm

回転方向　0°

閉じる

ＥＡＮ128アシストパーツを使用したＥＡＮ128の作成例

例えは、“（11）123456（21）1234567890”のＥＡＮ128を作成する場合

1）“ＥＡＮ128アシストパーツ”を選択します。

2）アプリケーション識別子の“11”を選択します。

3）「印字データ」ボタンを押下して、印字データ登録画面で、印字内容欄に印字データを入力
　します。アプリケーション識別子の“11”の桁数表示は、“ｎ2＋ｎ6”となっているので、
　6桁の数字を入力します。

4）リンクソース欄にリンクソース名を入力します。

※ＥＡＮ128アシストパーツは、必ずリンクソースになります。

5）閉じるボタンを押下して、さらにＯＫボタンを押下して、画面を閉じます。

レイアウト画面にＥＡＮ128アシストパーツがグレーで表示されます。

6）同様の方法でアプリケーション識別子“21”を選択します。

7）アプリケーション識別子“21”の桁数表示は、“ｎ2＋ａｎ□20”となっているので
　ここでは“1234567890”の10桁を入力します。

8）以下同様の方法で、ＥＡＮ128アシストパーツを作成します。

9）挿入→バーコードでバーコードパラメータの設定画面を開きます。

１０）バーコードタイプで“ＥＡＮ128（ＡＵＴＯ）”とバーコードパラメータを設定して、
　「印字データ」ボタンを押下します。

１１）印字データの入力方法で「リンク」を選択して、「リンク設定」ボタンを押下します。

１２）“リンクソースの結合”にチェックを入れ、リンクソース名欄で、４）で入力した、
　リンクソース名を選択します。

１３）２のタグを選択して、リンクソース名欄で、もう一方のリンクソース名を
　選択します。

１４）閉じる→閉じる→ＯＫボタンを押下して、バーコードパーツの完成です。

１５）文字パーツを作成する場合は、同様に挿入→文字で文字パーツを作成します。

４－４－４　ロゴ

▼メニュー選択：「挿入」→「ロゴ」または、 ボタン

ロゴパラメータの設定

ビットマップファイル名		参照
使用するロゴファイル	メモリカード内	
ロゴファイルをメモリカードに	ダウンロードしない	
ロゴ名		参照
印字開始座標	0.000 × 0.000 mm	
拡大率	× 100 %（25 ～ 400）	
コメント		コマンドをファイルに保存
回転方向	0°	

ビットマップファイルに保存　OK　キャンセル

機能

ロゴパーツを登録します。また、ロゴをメモリカードへ登録する場合もこの画面で行います。

操作手順

1）使用するビットマップファイル名を入力します。ビットマップファイル名の右にある「参照」ボタンを押すことにより、一覧表示からファイルを選択することもできます。

2）使用するロゴファイルに「ディスク内」または「メモリカード内」のどちらかを選択します（メモリカード内は、**DURA PRINTER SR(SRS)/SG/LSP5300**のみ選択できます）。

3）ロゴファイルをメモリカードに「ダウンロードする」または「ダウンロードしない」のどちらかを選択します。この項目は、使用するロゴファイルの選択内容により意味が異なります（下表参照）。

	使用するロゴファイル「ディスク内」	使用するロゴファイル「メモリカード内」
ロゴファイルをメモリカードに「ダウンロードする」	――――	「ＯＫ」ボタンを押した時点で、ロゴのイメージデータをメモリカードに登録します。印刷実行時は、ロゴのイメージデータは送信しませんので、高速に印刷ができます。通常この設定にしてください。
ロゴファイルをメモリカードに「ダウンロードしない」	印刷実行時に、ロゴのイメージデータをプリンタに送信します。	既にメモリカードに登録されているロゴデータを使用します。 ロゴのイメージデータは送信しません。

4）使用するロゴファイルを「メモリカード内」に設定している場合、ロゴ名を入力します（英数字８文字以内）。ロゴ名の右にある「参照」ボタンを押すことにより、一覧表示からロゴ名を選択することもできます（この場合、通信ポートの設定が、ＬＰＴポート以外に設定されている必要があります）。

注意１：“ビットマップファイルについて”

DURA Rhythmでサポートする画像データはモノクロデータ（白黒ビットマップ）のみです。カラー画像も読み込み可能ですが、画像データによっては、正しく変換できない場合があります。

注意２：“ロゴの印字開始座標について”

ロゴの印字開始座標は**DURA PRINTER SR(SRS)**では、0.508mm単位となります。**LSP5300**では0.666mm単位となります。このため**DURA Rhythm**で設定した印字開始座標と誤差が発生する場合があります。これは**DURA PRINTER**の内部処理ではロゴの描画開始座標が8ドット単位の左隅から描画を始める仕様になっているために発生します。

４－４－５　ＴｒｕｅＴｙｐｅ

▼メニュー選択：「挿入」→「ＴｒｕｅＴｙｐｅ」または、ボタン

機能

ＴｒｕｅＴｙｐｅフォントをロゴパーツとして登録します。

操作手順

１）入力項目のフォント名／データ／文字間スペース／行間スペース／回転方向以外は、
　　ロゴの登録と同じです（前項、ロゴパーツの登録を参照してください）。

２）フォント名は、「設定」ボタンを押すことにより、フォント選択のダイアログが表示さ
　　れますので、フォントの種類やスタイル／サイズを設定します。

３）データには、印字データの文字列を入力します。
　＊カーソルがデータの時に、Enterキーを押すと、複数行入力画面が表示され、
　　複数行入力ができるようになります。

４）文字間スペースは、データの文字と文字の間のスペースをドット単位で指定します。

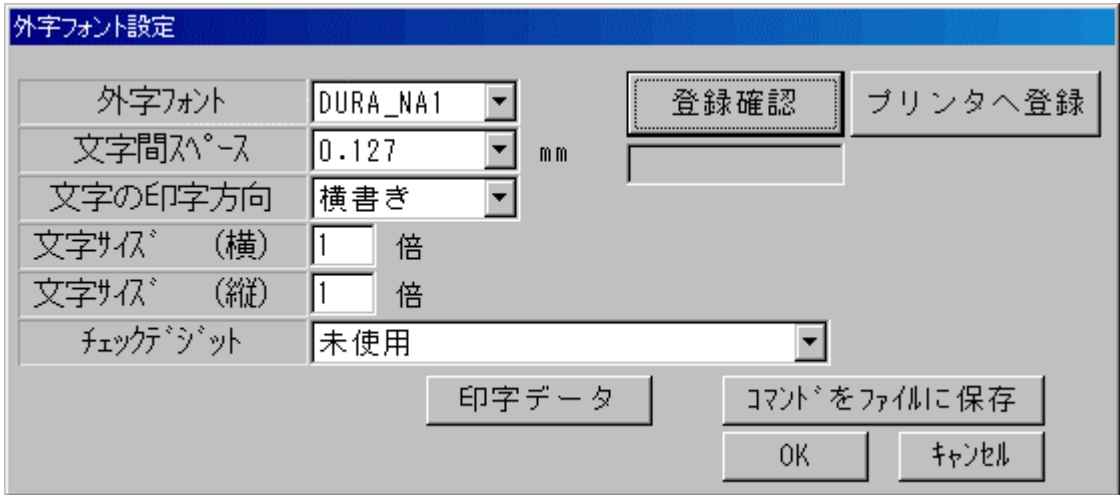
５）行間スペースは、データの行間のスペースをドット単位で指定します。

６）回転方向は、０°／９０°／１８０°／２７０°のいずれかを選択します。

注意１：“True Type の印字開始座標について”

True Type で入力したデータは、**DURA Rhythm** でロゴに変更しています。

従って True Type の印字開始座標もロゴの場合と同様になります。

（ロゴの“注意２”の項目参照）

注意２：　“True Type のフォントのサイズについて”

True Type のフォントは使用している Windows の OS のバージョン、各種サービスパック、IME により、フォントの描画サイズに差異が発生する場合があります。

例えば Windows95 で作成したファイルを Windows98 で開き、“True Type フォントの設定”画面で OK をクリックすると、再度、使用している環境のフォントの描画を行います。結果として描画サイズに差異が発生する場合があります。これは OS の仕様です。

４－４－６　外字フォント

▼メニュー選択：「挿入」→「外字フォント」または、Ex ボタン

外字フォント設定

外字フォント	DURA_NA1
文字間スペース	0.127 mm
文字の印字方向	横書き
文字サイズ　（横）	1 倍
文字サイズ　（縦）	1 倍
チェックデジット	未使用

登録確認　プリンタへ登録

印字データ　コマンドをファイルに保存

OK　キャンセル

機能

外字フォントパーツを登録します。

外字フォントは**DURA PRINTER SR (SRS)**のメモリカード（オプション）または、**LSP5300**のプリンタメモリにあらかじめ登録することで、ドットフォントと同様な手段で印字することができます。

操作手順

１）外字フォントを選択します。（選択できるフォントは、ＤＵＲＡ　Ｆｏｎｔで作成された外字フォント（拡張子がdft）で、C:¥ProgramFiles¥NittoFontフォルダに存在するフォントのみです。）

選択されたフォントがプリンタ未登録ならば、「プリンタへ登録」ボタンを押してプリンタのメモリカードに登録してください。

２）文字間スペースを選択リストより選択します。

３）文字の印字方向を選択リストより選択します。

４）文字サイズ横／文字サイズ縦は、倍率入力になっていますので、数値を入力してください。選択したフォントにより最少の文字サイズが決まっているため、設定できる値はその整数倍の値になります。

５）文字の最後にチェックデジットを付加したい場合は、付加したいチェックデジットをリストより選択してください。

６）「ＯＫ」ボタンを押すと、文字データをパーツとして登録します。

「キャンセル」ボタンを押すと、この処理を取り消します。

「印字データ…」ボタンを押すと、印字データ入力画面（４－４－１０参照）が表示されます。

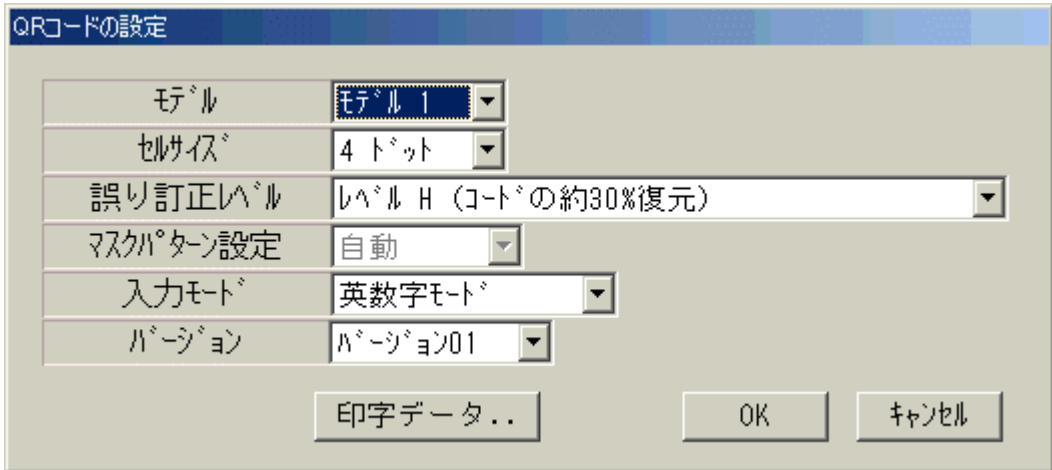
「登録確認」ボタンを押すと、選択されているフォントがプリンタに登録されているか確認します。

「プリンタへ登録」ボタンを押すと、選択されているフォントをプリンタへ登録します。

注意１：

外字フォントはメモリカード（**LSP5300**ではプリンタメモリ）にフォントが登録されます。印字時にメモリカードから都度データを読み込んで印字するため、ドットフォントに比べて処理速度が遅くなります。

注意２：

フォーマットで指定されている外字フォントが指定フォルダにない場合は、デフォルトのフォント（Default）になります。

デフォルトのフォントはプリンタには印字されません。

注意３：

DURA PRINTER R / R4 では外字フォントは使用できません。

４－４－７　ＱＲコード

▼メニュー選択：「挿入」→「ＱＲコード」または、 ボタン

注意：画面に表示されるＱＲコードは、イメージです。

機能

ＱＲコードパーツを登録します。

操作手順

１）ＱＲコードのモデル（モデル１／モデル２／マイクロＱＲ）を選択します。

２）１セルのサイズ（モデル１の場合１～１６ドット，モデル２／マイクロＱＲの場合１～３２ドット）を選択リストより選択します。但し、２ドット以下の場合、正常に印字できない場合がありますので、３ドット以上を選択してください。

３）誤り訂正レベル（レベルＬ／Ｍ／Ｈ／Ｑ）を選択リストより選択します。なるべくレベルＨまたはＱを選択してください。

４）マスクパターンは「自動」を選択してください（本バージョンでは、変更できません）。

５）入力モード（数字／英数字／漢字／８ビットバイト／アスキー／テキスト）を選択リストより選択します。

６）バージョン（モデル１の場合１～２２，モデル２の場合１～４０，マイクロＱＲの場合Ｍ１～Ｍ４）を選択リストより選択します（アスキー、テキスト時は不要）。

７）「ＯＫ」ボタンを押すと、ＱＲコードをパーツとして登録します。

「キャンセル」ボタンを押すと、この処理を取り消します。

「印字データ…」ボタンを押すと、印字データ入力画面（４－４－１０参照）が表示されます。

「注意」ボタンを押すと、ＱＲコードに関する注意事項が表示されます。

４－４－８　ＰＤＦ４１７

▼メニュー選択：「挿入」→「ＰＤＦ４１７」または、ボタン

注意：画面に表示されるＰＤＦ４１７は、イメージです。

機能

ＰＤＦ４１７パーツを登録します。

操作手順

１）ＰＤＦ４１７のモード（標準／トランケート）を選択します。

２）モジュール幅（１～３２ドット）を選択リストより選択します。但し、３ドット以下の場合、正常に印字できない場合がありますので、４ドット以上を選択してください。

３）モジュール高さ（３～９６ドット）を選択リストより選択します。通常は、モジュール幅の３倍の値を選択します。

４）誤り訂正レベル（０～８）を選択リストより選択します。

５）サイズの決定方法（行数固定／列数固定／自動のいずれか）を選択します。

６）入力モード（数字モード／英数字モード／バイナリモード）を選択リストより選択します。入力モードは、**DURA Rhythm**でソフト的に入力チェックを行っています。

- ・数字モード　　：０～９の数字
- ・英数字モード　：０～９の数字、英大文字、記号および制御コード（ＣＲ／ＬＦ）
- ・バイナリモード：半角（８ｂｉｔ）、全角（１６ｂｉｔ）

７）「ＯＫ」ボタンを押すと、 ＰＤＦ４１７をパーツとして登録します。

「キャンセル」ボタンを押すと、この処理を取り消します。

「印字データ…」ボタンを押すと、印字データ入力画面（４－４－１０参照）が表示されます。

注意１：“サイズの決定方法について”

サイズの決定方法は、行数固定／列数固定／自動のいずれかを選択できます。

・行数固定を選択した場合、行数固定チェックボックスの横に、行数選択リストが表示されますので、行数を選択してください（３～９０の選択）。この場合、列数は印字データにより自動的に決定されます。

・列数固定を選択した場合、列数固定チェックボックスの横に列数選択リストが表示されますので、列数を選択してください（１～３０の選択）。この場合、行数は印字データにより自動的に決定されます。

・自動を選択した場合、行数／列数ともに自動的に決定されます。

４－４－９　ＤａｔａＭａｔｒｉｘ（ＥＣＣ２００）

▼メニュー選択：「挿入」→「ＤａｔａＭａｔｒｉｘ」または、ボタン

Data Matrix(ECC200)の設定
ｼﾝﾎﾞﾙ　ECC200 正方形
ｾﾙｻｲｽﾞ　4 ﾄﾞｯﾄ
ｼﾝﾎﾞﾙｻｲｽﾞ(Row,Col)　自動　指定
入力ﾓｰﾄﾞ　英数字ﾓｰﾄﾞ
UCC/EAN FNC1
注意　印字データ..　OK　ｷｬﾝｾﾙ

注意：画面に表示されるＤａｔａＭａｔｒｉｘは、イメージです。

機能

ＤａｔａＭａｔｒｉｘパーツを登録します。

操作手順

１）シンボル（正方形／長方形）を選択します。

２）セルサイズ（１～３２ドット）を選択リストより選択します。但し、３ドット以下の場合、正常に印字できない場合がありますので、４ドット以上を選択してください。

３）シンボルサイズの指定方法（自動／指定）を選択します。指定を選んだ場合、その横にシンボルサイズの選択リストが表示されますので、その中から希望のシンボルサイズを指定してください。

４）入力モード（数字モード／英数字モード／８ビットバイトモード）を選択リストより選択します。

入力モードは、**DURA Rhythm**でソフト的に入力チェックを行っています。

・数字モード　　：０～９の数字

・英数字モード　：０～９の数字、英大文字、記号および制御コード

・８ビットバイト：半角（８ｂｉｔ）、全角（１６ｂｉｔ）

５）ＵＣＣ／ＥＡＮ　ＦＮＣ１をチェックすると、印字データの最初に、ＦＮＣ１コードが付加されます。

６）「ＯＫ」ボタンを押すと、 ＤａｔａＭａｔｒｉｘをパーツとして登録します。

「キャンセル」ボタンを押すと、この処理を取り消します。

「印字データ…」ボタンを押すと、印字データ入力画面（４－４－１０参照）が表示されます。

４－４－１０　印字データ入力

▼メニュー選択：「挿入」→「各パーツ」→「印字データ…」ボタン

印字データ登録

印字データ

入力方法 ◉パーツ内で入力 ○変数名で入力 ○リンク ○日付・時刻

変数名　　ﾃﾞｰﾀ文字数

◉１行入力　○複数行入力

印字内容

文字コード　桁

コメント　□リンクソース　名前

連番

１番目の連番ループ｜２番目の連番ループ｜３番目の連番ループ

連番の使用　未使用

変化量　1　何桁目　1

何枚毎　1　何文字　1

ｽｷｯﾌﾟ文字列(全ﾊﾟｰﾂ共通)

リセット値　最大値

□最大値とリセット値を指定する

☑複数の連番ループを使用する

印字位置

印字開始座標 (X,Y)　0.000 x 0.000 mm

回転方向　0°

閉じる

<u>機能</u>

バーコード／文字／外字フォント／ＱＲコード／ＰＤＦ４１７／ＤａｔａＭａｔｒｉｘ登録時の、印字内容について定義します。

操作手順

１）バーコード／文字／ＱＲコード／ＤａｔａＭａｔｒｉｘの登録時、「印字データ…」ボタンを押すことにより、上記画面が表示されます。

２）印字データ入力方法を「パーツ内で入力」「変数名で入力」「リンク」「日付・時刻」のいずれかを選択します。「パーツ内で入力」を選択した場合、印字内容（実際の印字データ）を入力する必要があります。「変数名で入力」を選択した場合、変数名とデータ文字数を入力し、実際の印字データは、印刷画面で入力します。「リンク」を選択した場合、印字データは関連するリンクソースのデータを継承します（リンク機能については、付録Ｈ「パーツのリンク機能について」を参照してください）。「日付・時刻」を選択した場合、「日付・時刻」設定ボタンが出現します。
※「日付・時刻」設定機能は、文字パーツ登録時のみです。

３）このパーツをリンクソースにする場合、「リンクソース」のチェックボックスをオンにし、リンクソースの「名前」を半角８文字以内で入力します（リンクソースを複数登録する場合、名前の重複はできません）。

４）変数名は、「変数名で入力」選択時、英数字８文字以内で入力します。

５）データ文字数は、「変数名で入力」選択時、印字データのバイト数を入力します。

６）コメントには、任意の文字列を入力できます（印刷画面に表示されます）。

７）連番の使用は、「未使用」「数字」「英字」「英数字」「カスタム」のいずれかを選択します。未使用」以外を選択した場合、その下の変化量／何枚毎／何桁目／何文字を入力してください。必要に応じて、スキップ文字列も入力します（**DURA PRINTER R/SR/SG/LSP5300**のみ）。スキップ文字列は、連番中の特定の文字のみ印字しないようにする機能です。指定できる文字は、０～９およびＡ～Ｚの文字です。但し、連番の指定方法（数字／英字／英数字）によっては、入力できない場合もあります。

８）印字開始座標（Ｘ，Ｙ）は、登録パーツの印字開始座標です。これは、ラベルの左上を原点とした相対座標です。各パーツの開始点は、ドットフォント／アウトラインフォント／ＱＲコード／ロゴは、パーツの左上が開始点となり、ベクトルフォント／バーコードは、パーツの左下が開始点となります。

９）回転方向は、０°／９０°／１８０°／２７０°のいずれかを選択します（ＱＲコード／ＤａｔａＭａｔｒｉｘは、０°のみです）。

１０）日付・時刻設定画面

「日付」「時間」で日付・時刻のフォーマットを選択します。

「カスタム設定」で日付毎に任意の文字に置き換えることができます。

「挿入文字」で文字を挿入します。

「プレビュー」に印字されるデータが表示されます。

「戻す」で印字データを１つ前の状態に戻します。

注意１：“スキップ文字列について”

・スキップ文字列は、各パーツの印字データ登録画面で入力できますが、全てのパーツ（連番時）共通で使用します。すなわち、バーコードのパーツでスキップ文字列を“１”に、文字のパーツでスキップ文字列を“２”にすることはできません。あるパーツのスキップ文字列を変更すると他の全てのパーツのスキップ文字列も変更になります。

・連番の範囲の印字データにスキップ文字列を指定しないでください。
（“１２３４”のデータの１桁目から２文字数字連番の時、スキップ文字列として“１”および“２”を指定しないでください。）

注意２：“印字データの文字数について”

印字データは最大２０００文字まで入力できます。

注意３：“文字数固定について”

印字データ入力方法を「変数名で入力」に設定した場合のみ指定可能です。

この項目をチェックした場合、印字データの長さをデータ文字数で指定した長さ固定とし、印刷実行画面のデータ入力時、データ文字数の長さ分データを入力しなければ、エラーとなるモードです。

但し、ＯＬＥで印刷する場合は、この設定は無効です。

注意４“最大値とリセット値を指定するについて”

設定している連番の最大値とリセット値（最大値に達した後のリセット値）を指定することができます。　例えば、２桁の数字の連番はプリンタの連番機能としては９９が最大値でリセット値は００ですが、“最大値とリセット値を指定する”にチェックすると、デュラリズムのソフトの機能として変更が可能です。

注意：最大値とリセット値を指定すると、プリンタの連番機能を使用しませんので、プリンタの処理速度が遅くなります。

印字データ登録

印字データ
入力方法　パーツ内で入力　変数名で入力　リンク
変数名　ﾃﾞｰﾀ文字数
印字内容　01
文字コード　桁
コメント　リンクソース　名前

連番
連番の使用　数字
変化量　1　何桁目　1
何枚毎　1　何文字　2
スキップ文字列
リセット値　01　最大値　20
最大値とリセット値を指定する
複数の連番ループを使用する

（数字2桁の設定で最大値を２０、リセット値を０１にした時）

注意５　“複数の連番ループを使用するについて”

“複数の連番ループを使用する”にチェックすると、１番目の連番ループで設定した桁の連番の桁上りが終了すると２番目の連番ループの設定した桁の連番になります。（２番目の連番ループの使用が設定されている時のみ）。　同様に２番目連番ループで設定した桁の連番の桁上がりが終了すると３番目の連番ループの設定した桁の連番になります。（３番目の連番ループの連番の使用が設定されている時のみ）。

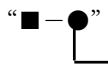
１番目の連番ループの設定は下図のようになります。

印字データ登録

印字データ
入力方法　◉ パーツ内で入力　○ 変数名で入力　○ リンク
変数名　　ﾃﾞｰﾀ文字数
印字内容　A-0
文字コード　　桁
コメント　　□ リンクソース　名前

連番
１番目の連番ループ　２番目の連番ループ　３番目の連番ループ
連番の使用　数字
変化量　1　何桁目　3
何枚毎　1　何文字　1
スキップ文字列　456789
リセット値　　最大値
□ 最大値とリセット値を指定する
☑ 複数の連番ループを使用する

１番目の連番ループの設定

“■−●”

０～３の連番なので３桁から１文字の数字連番にして“４，５，６，７，８，９”をスキップ設定

２番目の連番ループの設定は下図のようになります。

２番目の連番ループの設定

“■－●”

A～Zの連番なので、１桁から１文字の英字連番の設定

３番目の連番ループは設定しませんので連番の使用を未使用にします

印字データ登録

印字データ

入力方法 ◉ パーツ内で入力 ○ 変数名で入力 ○ リンク

変数名 ﾃﾞｰﾀ文字数

印字内容 A-0

文字コード 桁 4

コメント □ リンクソース 名前

連番

１番目の連番ループ ２番目の連番ループ ３番目の連番ループ

連番の使用 未使用

変化量 1 何桁目 1

何枚毎 1 何文字 1

スキップ文字列

リセット値 最大値

□ 最大値とリセット値を指定する

☑ 複数の連番ループを使用する

４－４－１１　線

▼メニュー選択：「挿入」→「線」

機能

線を描画します。

操作手順

線を設定します。始点を指定して下さい。

１）メニュー選択するとステータスバーに下図のメッセージが表示されます。

２）次にレイアウトエリアで、マウスの左ボタンを押すと線の開始座標が決定されます。

３）マウスボタンを押したまま終了点までマウスを移動させ、ボタンを離してください。
これにより、線が確定します。

４）マウスボタンを押している間、上下左右キーを押すことにより、画面をスクロールすることができます。

４－４－１２　枠線

▼メニュー選択：「挿入」→「枠線」

機能

枠線を描画します。

操作手順

１）メニュー選択するとステータスバーに下図のメッセージが表示されます。

枠線を設定します。始点を指定して下さい。

２）次にレイアウトエリアで、マウスの左ボタンを押すと枠線の開始座標が決定されます。

３）マウスボタンを押したまま終了点までマウスを移動させ、ボタンを離してください。
これにより、枠線が確定します。

４）マウスボタンを押している間、上下左右キーを押すことにより、画面をスクロールすることができます。

４－４－１３　塗りつぶし

▼メニュー選択：「挿入」→「塗りつぶし」

機能

指定した枠内を塗りつぶし描画します。

操作手順

箱塗りつぶしを設定します。始点を指定して下さい。

１）メニュー選択するとステータスバーに下図のメッセージが表示されます。

２）次にレイアウトエリアで、マウスの左ボタンを押すと塗りつぶし枠の開始座標が決定されます。

３）マウスボタンを押したまま終了点までマウスを移動させ、ボタンを離してください。これにより、塗りつぶし枠が確定します。

４）マウスボタンを押している間、上下左右キーを押すことにより、画面をスクロールすることができます。

４－４－１４　枠内クリア

▼メニュー選択：「挿入」→「枠内クリア」

機能

指定した枠内をクリアします。

操作手順

１）メニュー選択するとステータスバーに下図のメッセージが表示されます。

枠内消去を設定します。始点を指定して下さい。

２）次にレイアウトエリアで、マウスの左ボタンを押すとクリアする枠の開始座標が決定されます。

３）マウスボタンを押したまま終了点までマウスを移動させ、ボタンを離してください。これにより、枠内クリアが確定します。

４）マウスボタンを押している間、上下左右キーを押すことにより、画面をスクロールすることができます。

４－４－１５　枠内反転

▼メニュー選択：「挿入」→「枠内反転」

機能

指定した枠内を反転します。

操作手順

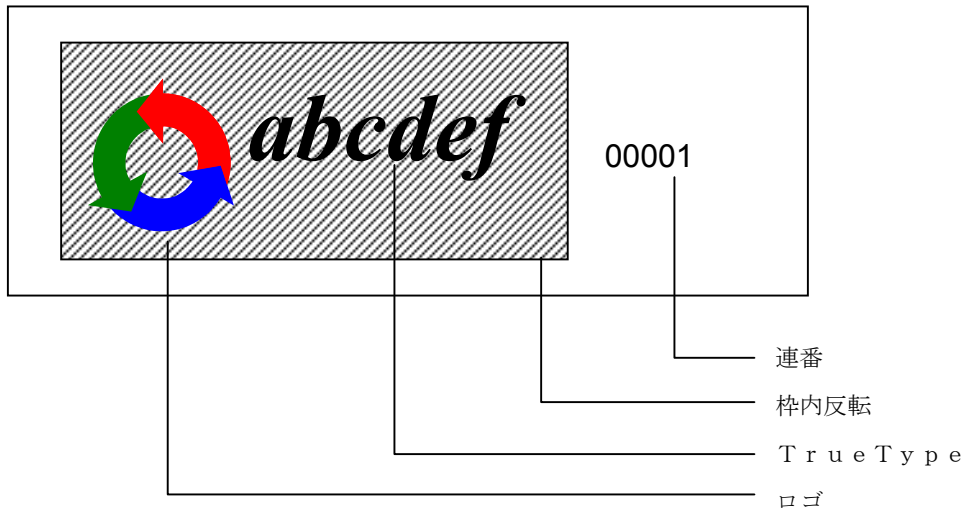
枠内反転を設定します。始点を指定して下さい。

１）メニュー選択するとステータスバーに下図のメッセージが表示されます。

２）次にレイアウトエリアで、マウスの左ボタンを押すと反転する枠の開始座標が決定されます。

３）マウスボタンを押したまま終了点までマウスを移動させ、ボタンを離してください。これにより、枠内反転が確定します。

４）マウスボタンを押している間、上下左右キーを押すことにより、画面をスクロールすることができます。

注意事項

ロゴ（ＴｒｕｅＴｙｐｅ）を含む領域を枠内反転した時、他のパーツに連番があると正しく枠内反転されません（上記例では、ロゴ及びＴｒｕｅＴｙｐｅが印字されなくなります）。この時は、反転したロゴを登録してください。

４－４－１６　各パーツの編集について

パーツの移動（単体パーツ）

１）移動させたいパーツ上でマウスの左ボタンを押すと、そのパーツに点線の枠が表示されます。

２）マウスボタンを押したまま、任意の位置までマウスを移動させます。

３）マウスボタンを離した位置にパーツが移動します。

パーツの移動（複数パーツ）

１）複数パーツの選択方法は、レイアウトエリア（パーツの無い位置）でマウスの左ボタンを押し、ボタンを押したままマウスを移動させ、離した位置までの範囲に入っているパーツが複数選択され、赤色で表示されます。

２）赤色で表示されているいずれかのパーツ上でマウスの左ボタンを押すと、選択されているパーツに点線の枠が表示されます。

３）マウスボタンを押したまま、任意の位置までマウスを移動させます。

４）マウスボタンを離した位置にパーツが移動します。

パーツの編集（単体パーツ）

１）編集したいパーツ上でマウスの右ボタンを押すと、そのパーツが赤色で表示され、下図の画面が表示されます。

２）上記画面で「パーツの削除」を選択すると赤色表示されているパーツを削除します。

３）上記画面で「パーツの複写」を選択すると赤色表示されているパーツと同じパラメータのパーツをもう１つ作成します。

４）上記画面で「移動不可」を選択するとそのパーツのマウスによる移動を可能／不可能の状態に切り替えます。

５）上記画面で「変更不可」を選択するとそのパーツの変更を可能／不可能の状態に切り替えます。

６）上記画面で「印字しない」を選択するとそのパーツを印字する／印字しないを切り替えます。

7）上記画面で「最背面へ移動」を選択するとそのパーツの優先順位を最下位に設定できます。画面上で、複数のパーツが重なった部分をマウスで選択した場合、優先順位に従い、パーツの選択が行われます。

8）上記画面で「ﾊﾟｰﾂ内印字ﾃﾞｰﾀ」を選択するとそのパーツ（バーコード／文字／ＱＲコード／ＰＤＦ４１７）の印字データのみを編集できます。但し、印字データの入力方法が「パーツ内で入力」に設定されている時のみ有効です。

9）上記画面で「プロパティ」を選択すると各パーツの編集画面が表示されます。

①赤色表示されているパーツがバーコードの場合、「挿入」→「バーコード」と同じ画面が表示されます。

②赤色表示されているパーツが文字の場合、「挿入」→「文字」と同じ画面が表示されます。

③赤色表示されているパーツがロゴの場合、「挿入」→「ロゴ」と同じ画面が表示されます。

④赤色表示されているパーツがＴｒｕｅＴｙｐｅの場合、「挿入」→「ＴｒｕｅＴｙｐｅ」と同じ画面が表示されます。

⑤赤色表示されているパーツがＱＲコードの場合、「挿入」→「ＱＲコード」と同じ画面が表示されます。

⑥赤色表示されているパーツがＰＤＦ４１７の場合、「挿入」→「ＰＤＦ４１７」と同じ画面が表示されます。

⑦赤色表示されているパーツが線の場合、下図の画面が表示されます。

「印字開始座標Ｘ」は線描画の開始横座標です。

「印字開始座標Ｙ」は線描画の開始縦座標です。

「印字開始座標Ｘ」は線描画の終了横座標です。

「印字開始座標Ｙ」は線描画の終了縦座標です。

「線幅」は線の太さで、縦線または横線の場合のみピクセル単位で設定します。
　斜めに線を引いた場合の太さは固定ですので「線幅」は設定できません。

⑧赤色表示されているパーツが枠線の場合、下図の画面が表示されます。

「印字開始座標Ｘ」は枠線描画の開始横座標です。

「印字開始座標Ｙ」は枠線描画の開始縦座標です。

「枠の幅」は枠線の横の大きさです。

「枠の高さ」は枠線の縦の大きさです。

「横線幅」は横線の太さをピクセル単位で設定します（０．２５４mm単位）。

「縦線幅」は縦線の太さをピクセル単位で設定します（０．１２７mm単位）。

⑨赤色表示されているパーツが塗りつぶしの場合、下図の画面が表示されます。

「印字開始座標Ｘ」は塗りつぶし枠描画の開始横座標です。

「印字開始座標Ｙ」は塗りつぶし枠描画の開始縦座標です。

「枠の幅」は塗りつぶし枠の横の大きさです。

「枠の高さ」は塗りつぶし枠の縦の大きさです。

⑩赤色表示されているパーツが枠内クリア／枠内反転の場合、⑨の塗りつぶし枠のパラメータ設定と同様の画面が表示されます。

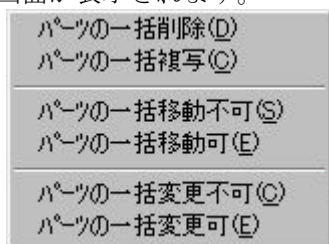
注意１：“ピクセルの大きさついて”

水平ピクセル（縦線）のサイズは、０．１２７㎜で、垂直ピクセル（横線）のサイズは、０．２５４㎜です。従って、縦横同じ太さの枠線を描画する場合、縦線幅を２ピクセル，横線幅を１ピクセルとすると、０．２５４㎜×０．２５４㎜となります。

注意２：“塗りつぶし、太線の印字ついて”

塗りつぶし（黒ベタ）印字及び、太線の印字を行うと、インクのしわ，インク切れ，文字のつぶれ等の印字品質の低下が発生する場合があります。

パーツの編集（複数パーツ）

1）複数パーツ選択時、赤色で表示されているパーツ上でマウスの右ボタンを押すと、下図の画面が表示されます。

2）上記画面で「パーツの一括削除」を選択すると赤色表示されているパーツを削除します。

3）上記画面で「パーツの一括複写」を選択すると赤色表示されているパーツと同じパラメータのパーツをもう１つづつ作成します。

4）上記画面で「パーツの一括移動不可」を選択すると赤色表示されているパーツを一括して移動不可能状態に切り替えます。

5）上記画面で「パーツの一括移動可」を選択すると赤色表示されているパーツを一括して移動可能状態に切り替えます。

6）上記画面で「パーツの一括変更不可」を選択すると赤色表示されているパーツを一括して変更不可脳状態に切り替えます。

7）上記画面で「パーツの一括変更可」を選択すると赤色表示されているパーツを一括して変更可能状態に切り替えます。

４－５　ツールメニュー

ツールメニューでは、環境などの設定を行います。メニューバーの「ツール」を選択すると、以下のプルメニューが表示されるので、任意の処理を選択してください。

１）メモリカード・ファイル参照

２）機能設定

３）オプション（環境）

４）オプション（通信ポートの設定）

５）オプション（プリンタ・オプション）

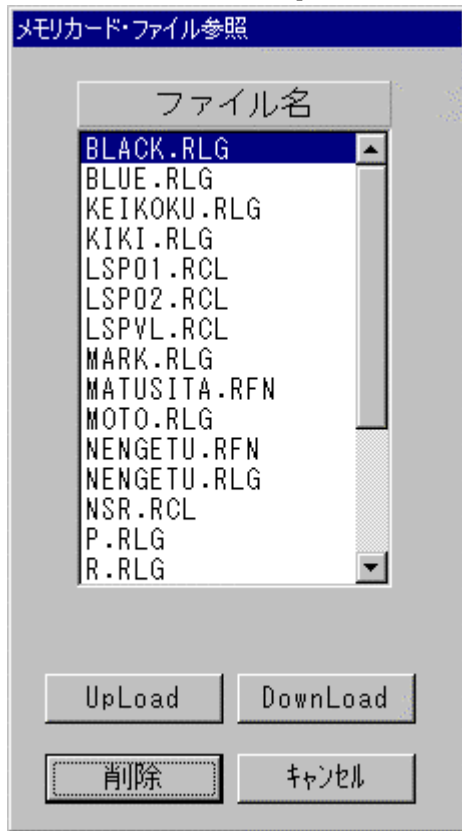
６）ハードコピー印刷

７）関連付け設定

８）プリンタＲＯＭアップデート（サービスマン用）

各処理の詳細については、次ページ以降で説明します。

４－５－１　メモリカード・ファイル参照

▼メニュー選択：「ツール」→「メモリカード・ファイル参照」

機能

DURA PRINTER にメモリカード（オプション）が付いている場合（**LSP5300**の場合は、プリンタ内にメモリカードと同様の機能を持つプリンタメモリを内臓）、メモリカード（プリンタメモリ）内のファイルを参照することができます。但し、通信ポートの設定が、ＬＰＴポート以外に設定されている必要があります。

また、 **DURA PRINTER SR(SRS)/SG/LSP5300**の場合、ファイルを**UpLoad**、**DownLoad**、削除することができます。

操作手順

１）メニューからメモリカードファイル参照を選択すると、上記画面が表示されます。

２）ファイルを**UpLoad**する場合、**UpLoad**するファイル名をマウスの左ボタンで選択後、「**UpLoad**」ボタンを押します。するとフォルダ選択ダイアログが表示されますので、ファイルの保存先フォルダを選択してください。

3）ファイルを**DownLoad**する場合、「**DownLoad**」ボタンを押します。
するとファイル選択ダイアログが表示されますので、
プリンタに**DownLoad**するファイルを選択してください。

4）ファイルを削除する場合、削除するファイル名をマウスの左ボタンで選択後、「削除」
ボタンを押します。

5）「キャンセル」ボタンを押すと、この画面を終了します。

４－５－２　機能設定

▼メニュー選択：「ツール」→「機能設定」

＜**DURA PRINTER-SR/SRS**使用時の機能設定画面＞

＜**DURA PRINTER LSP5300**使用時の機能設定画面＞

機能

DURA PRINTER SR/SRS/SG/LSP5300の機能設定を行います。

タイトルが黒字で表示されている項目のみ設定可能です。但し、「ＳＥモード」をチェックすると、すべての項目が設定可能になります（通常は「ＳＥモード」をチェックしないようにしてください）。

また、**DURA PRINTER SR/SRS**の場合、どちらのプリンタを使用するかをこの画面で選択します。

操作手順

１）印刷時、機能設定を送信「する」「しない」を選択します。

２）印刷時、コメントを送信「する」「しない」を選択します。

３）すべての項目を設定する場合、「ＳＥモード」をチェックします。

４）設定可能な項目を選択リストより選択します。

５）「プリンタへ送信」ボタンを押すと、即座に機能設定データを送信し、プリンタをリセットします。

「ＯＫ」ボタンを押すと設定内容は記憶され、印刷実行時に機能設定データを送信します（印刷時、機能設定を送信「する」にチェックしている時）。

「キャンセル」ボタンを押すと、この処理を取り消します。

補足

１） **DURA PRINTER SR** の場合、詳細は「ＳＲ取扱説明書」および「ＳＲシステム導入編」を参照してください。

DURA Rhythmでは通常（「ＳＥモード」ＯＦＦ時）、

①機能番号１「プリンタモード」

②機能番号２「印字開始位置」

③機能番号３「検証動作」

④機能番号５「オンデマンド量」

⑤機能番号７「ジャム検出」

⑥機能番号１０「サプライ種類」

⑦機能番号１２「オンデマンドからの戻り操作」

が変更できます。その他は画面上の値になります。

・機能番号１「プリンタモード」

「標準１（オンデマンド位置：長）（設定値１）」

：印字後ラベルを剥離位置（オンデマンド位置）の最大長まで搬送します。

「標準２（オンデマンド位置：短）（設定値８）」

：印字後ラベルを検証後の位置まで搬送します。

「標準３（オンデマンド位置：中）（設定値９）」

：印字後ラベルを剥離位置（オンデマンド位置）を最短長まで搬送します。

「手貼り[センサチェックなし]」（設定値５）

：ピーラ付きの機種で剥離センサーを使用する時の設定です。

「手貼り[センサチェックあり]」（設定値５）

：ピーラ付きの機種で剥離センサーを使用する時の設定で、データ送信前に
センサにラベルがあるかチェックします。

選択を変更した時はプリンタの電源を一度切って下さい。

・機能番号１０「サプライ種類」（印字エネルギー設定）について

サプライ（ラベル（デュラタック）とインク（デュラインク））の組み合わせで、プリンタの印字エネルギーの設定を変更します。

下図にサプライ毎の設定値を示します。

デュラプリンタＳＲの印字エネルギー設定表

ﾃﾞｭﾗﾀｯｸ ＼ ﾃﾞｭﾗｲﾝｸ	ＰＨ (ﾎﾟﾘｲﾐﾄﾞ)	ＰＮ (ﾎﾟﾘｵﾚﾌｨﾝ)	ＰＯ (ﾎﾟﾘｵﾚﾌｨﾝ)	ＰＯＮ (ﾎﾟﾘｵﾚﾌｨﾝ)	ＰＴ (ﾎﾟﾘｴｽﾃﾙ)	Ｇ (紙)	ＰＦ (フッ素)	Ｓ４０Ｈ (ｼﾘｺﾝ) Ｃ４０Ｈ (ｾﾗﾐｯｸ)
Ｈ	９	―	―	―	１，５	―	―	―
ＰＮ	―	１	―	５，８	―	―	―	―
ＰＯ	―	―	９	５，８	―	―	―	―
ＤＬＨ	―	―	―	―	５，９	―	―	―
Ｇ	―	―	―	―	―	１	―	―
ＰＦ	―	―	―	―	―	―	９	―
ＤＷＨ	―	―	―	―	―	―	―	８

２） **DURA PRINTER SRS** の機能番号は**SR**と比べて下記の番号の内容が異なります。

①機能番号１「プリンタモード」

②機能番号３　**SRS**では検証器がないため未設定

③機能番号７　**SRS**では検証器がないため未設定

④機能番号１０「サプライ種類」

⑤機能番号１１「ラベル搬送速度」

⑥機能番号１３「プリンタモード，手貼り時ディレイ時間」

・機能番号１「プリンタモード」について

「印字後ラベル搬送有り（設定値１）」

：印字後ラベルを剥離位置まで搬送します。

「印字後ラベル搬送無し（設定値２）」

：印字後ラベルを剥離位置まで搬送しません。

「連続カット」（設定値３）

：カットと次のラベルの印字を並行して行います。但しカット動作の時に印字が中断するため、白い横スジが発生する事があります（カッタ機のみ）。

「カット後、ラベルを搬送」（設定値４）

：カット位置まで搬送してカットを行います。

「手貼り[センサチェックなし]」（設定値５）

：ピーラ付きの機種で剥離センサーを使用する時の設定です。

「手貼り[センサチェックあり]」（設定値５）

：ピーラ付きの機種で剥離センサーを使用する時の設定で、データ送信前にセンサにラベルがあるかチェックします。

選択を変更した時は、プリンタの電源を一度切ってください。
また、カット動作を行う時は、プリンタ・オプションで、「１枚カット」か「バッチカット」を選択してください。「１枚カット」の場合、１枚毎カットを行います。
「バッチカット」の場合、印刷画面で設定したバッチカット枚数毎カットを行います。

・機能番号１０「サプライ種類」（印字エネルギー設定）について

サプライ（ラベル（デュラタック）とインク（デュラインク））の組み合わせで、プリンタの印字エネルギーの設定を変更します。

下図にサプライ毎の設定値を示します。

デュラプリンタＳＲＳの印字エネルギー設定表

デュラタック／デュラインク	ＰＨ（ﾎﾟﾘｲﾐﾄﾞ）	ＰＮ（ﾎﾟﾘｵﾚﾌｨﾝ）	ＰＯ（ﾎﾟﾘｵﾚﾌｨﾝ）	ＰＯＮ（ﾎﾟﾘｵﾚﾌｨﾝ）	ＰＴ（ﾎﾟﾘｴｽﾃﾙ）	Ｇ（紙）	ＰＦ（フッ素）	Ｓ４０Ｈ（ｼﾘｺﾝ）Ｃ４０Ｈ（ｾﾗﾐｯｸ）
Ｈ	６	―	―	―	４，５	―	―	―
ＰＮ	―	１，４	―	５，８	―	―	―	―
ＰＯ	―	―	６	５，８	―	―	―	―
ＤＬＨ	―	―	―	―	５，６	―	―	―
Ｇ	―	―	―	―	―	１，４	―	―
ＰＦ	―	―	―	―	―	―	６	―
ＤＷＨ	―	―	―	―	―	―	―	８

３）**DURA PRINTER SG**の場合、詳細は「ＳＧ取扱説明書」を参照してください。

DURA Rhythmでは通常（「ＳＥモード」ＯＦＦ時）、

①機能番号０「印字速度」

②機能番号１「非印字領域搬送速度」

③機能番号２「用紙形態」

④機能番号３「ペーパセンサ種類」

⑤機能番号４「印字開始位置」

⑥機能番号５「カット位置」

⑦機能番号６「プリンタモード」

⑧機能番号８「ヘッドチェックタイミング」

⑨機能番号９「フォーム長設定モード」

⑩機能番号１１「プリンタモード，手貼り時ディレイ時間」

⑪機能番号１２「オンデマンドからの戻り」

が変更できます。その他は画面上の値になります。

・機能番号０「印字速度」について

使用するサプライ（ラベル，タグ，インク）によっては、良好な印字を得るために最大印字速度を制限する必要があります。また、ラダーバーコードを含むフォーマット

を印字するときは、低速ほどバーのエッジが鮮明に印字できるため、読み取り率が向上します。

・機能番号６「プリンタモード」について

「カッタなし、印字後ラベル搬送あり（設定値１）」

：印字後ラベルをはく離位置まで搬送します。カットはしません。

「カッタなし、印字後ラベル搬送なし（設定値２）」

：印字後ラベルをはく離位置まで搬送しません。カットはしません。

「連続カット（設定値３）」

：カットと次のラベルの印字を並行して行います。但し、カット動作の時に印字が中断するため、白い横スジが発生することがあります。

「カット後、ラベルを搬送（設定値４）」

：カット位置まで搬送してカットを行います。

「手貼り[センサチェックなし]」（設定値５）

：ピーラ付きの機種で剥離センサーを使用する時の設定です。
このモードに設定されている時は必ず「フォーム長設定モード」は測長による設定にして下さい。

「手貼り[センサチェックあり]」（設定値５）

：手貼り[センサチェックなし]と同じ動作ですが、データ送信前にセンサにラベルがあるかチェックします。

選択を変更した時は、プリンタの電源を一度切ってください。
また、カット動作を行う時は、プリンタ・オプションで、「１枚カット」か「バッチカット」を選択してください。「１枚カット」の場合、１枚毎カットを行います。
「バッチカット」の場合、印刷画面で設定したバッチカット枚数毎カットを行います。

４）**LSP5300/LSP5310**の場合、詳細は「ＬＳＰ５３００取扱説明書」を参照してください。

DURA Rhythmでは通常（「ＳＥモード」ＯＦＦ時）、

①機能番号０「印字速度」

②機能番号１「搬送速度」

③機能番号２「印字濃度」

④機能番号３「プリンタモード」

⑤機能番号４「印字開始位置上下」

⑥機能番号５「カット位置上下」

⑦機能番号６「ヘッドチェック」

⑧機能番号９「カット速度」

が変更できます。

・機能番号３「プリンタモード」について

「カッタ停止、オンデマンドあり」

：印字後、ラベル剥離位置まで搬送します。カットはしません。

「カッタ停止、オンデマンドなし」

：印字後、ラベル剥離位置まで搬送しません。カットはしません。

「連続カット」

：カットと次のラベルの印字を並行して行います。 但し、カット動作の時に印字が中断するため白い横スジが発生する事があります。剥離センサーは使用しません。

「オンデマンドカット」

：カット位置まで搬送してカットします。剥離センサーは使用しません。

「ピールカット[センサチェックなし]」

：カット位置まで搬送してカットします。剥離センサーを使用します。剥離センサーがラベル無しを検知したらラベルを戻し次のデータがあれば印字します。

「ピールカット[センサチェックあり]」

：ピールカット[センサチェックなし]と同じ動作ですが、データ送信前にセンサにラベルがあるかチェックします。

５）**LP5320**の場合、詳細は「ＬＰ５３２０取扱説明書」を参照してください。

DURA Rhythmでは、

①機能番号０「印字速度」

②機能番号１「搬送速度」

③機能番号２「印字濃度」

④機能番号３「プリンタモード」

⑤機能番号４「印字開始位置上下」

⑥機能番号５「カット位置上下」

⑦機能番号６「ヘッドチェック」

⑧機能番号９「カット速度」

が変更できます。

・機能番号３「プリンタモード」について

「カッタ停止、オンデマンドあり」

：印字後、ラベルをオンデマンド位置まで搬送します。カットはしません。

「カッタ停止、オンデマンドなし」

：印字後、ラベルをオンデマンド位置まで搬送しません。カットはしません。

「連続カット」

：カットと次のラベルの印字を並行して行います。 但し、カット動作の時に

印字が中断するため白い横スジが発生する事があります。

「オンデマンドカット」

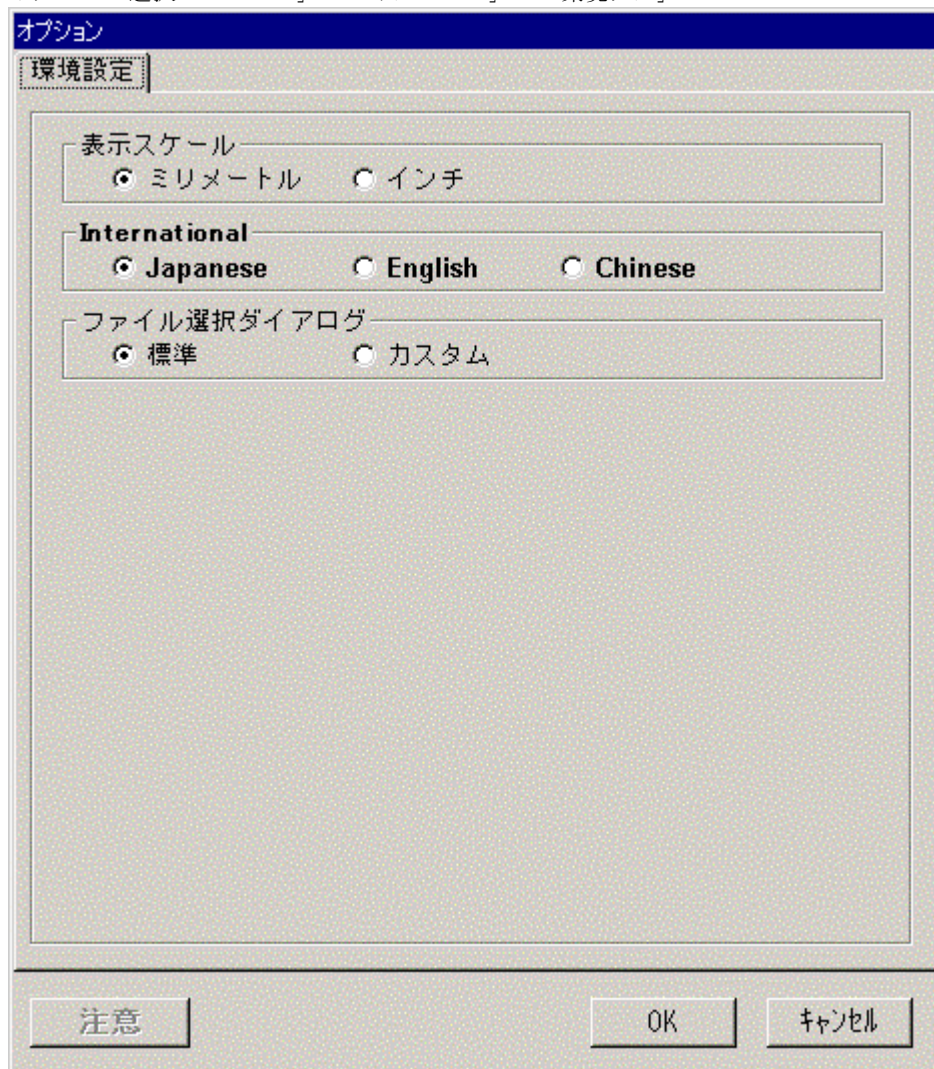
：カット位置まで搬送してカットします。

また、カッタ動作を行う時は、プリンタオプションで、「１枚カット」か「バッチカット」を選択してください。

「１枚カット」の場合、１枚毎カットを行います。

「バッチカット」の場合、印刷画面で設定したバッチカット枚数毎カットを行います。

４－５－３　オプション（環境）

▼メニュー選択：「ツール」→「オプション」→「環境タブ」

<u>機能</u>

1）表示スケールを「ミリメートル」表示で行うか「インチ」表示で行うかを選択します。

2）表示言語を「日本語」表示で行うか「英語」表示で行うか「中国語」表示で行うかを選択します。

3）ファイル選択ダイアログ（**DURA Rhythm**のファイルを開く／名前を付けて保存等の画面）の表示方法を選択します。「標準」を選択した場合、**Windows**標準のファイル選択画面が表示され、「カスタム」を選択すると従来の**DURA Rhythm**のファイル選択画面（ファイル名，ラベルサイズ，コメント）が表示されます。

操作手順

1）表示スケールを選択します。

2）表示言語を選択します。

3）「ＯＫ」ボタンを押すと、設定を登録します。

「キャンセル」ボタンを押すと、この処理を取り消します。

４－５－４　オプション（通信ポートの設定）

▼メニュー選択：「ツール」→「オプション」→「通信ポートの設定タブ」

機能

DURA PRINTERと接続するための通信ポートを設定します。

操作手順

1）通信ポートを選択します（COM1～COM16はシリアル（RS-232C）ポート，LPT1～LPT2はパラレル（プリンタ）ポート，TCP/IPは、ネットワーク経由のRS-232Cポートです）。

２）COM，TCP/IPポートを選択した場合、RS-232Cの設定をする必要があります。

通信ドライバ（RS-232Cのデータ送信ドライバ）を選択します。

DURA Rhythm Ver5.5B4以降はPDQCommコントロール使用とWindowsAPI使用の選択ができます。（Ver5.5B4まではPDQCommでの送信になります。）

３）「ＯＫ」ボタンを押すと、設定を登録します。

「キャンセル」ボタンを押すと、この処理を取り消します。

注意１：“通信ポートについて”

・**DURA PRINTER S**は、COMポートにのみ対応しています。

・COMポートの選択については、ハードウェア上で使用可能なポート番号のみを選択できるようになっています。

注意２：“RS-232C の設定について”

RS-232C の設定は、使用するプリンタと同じ設定にしてください。

注意３：“データ送信後のクローズ待ち時間について”

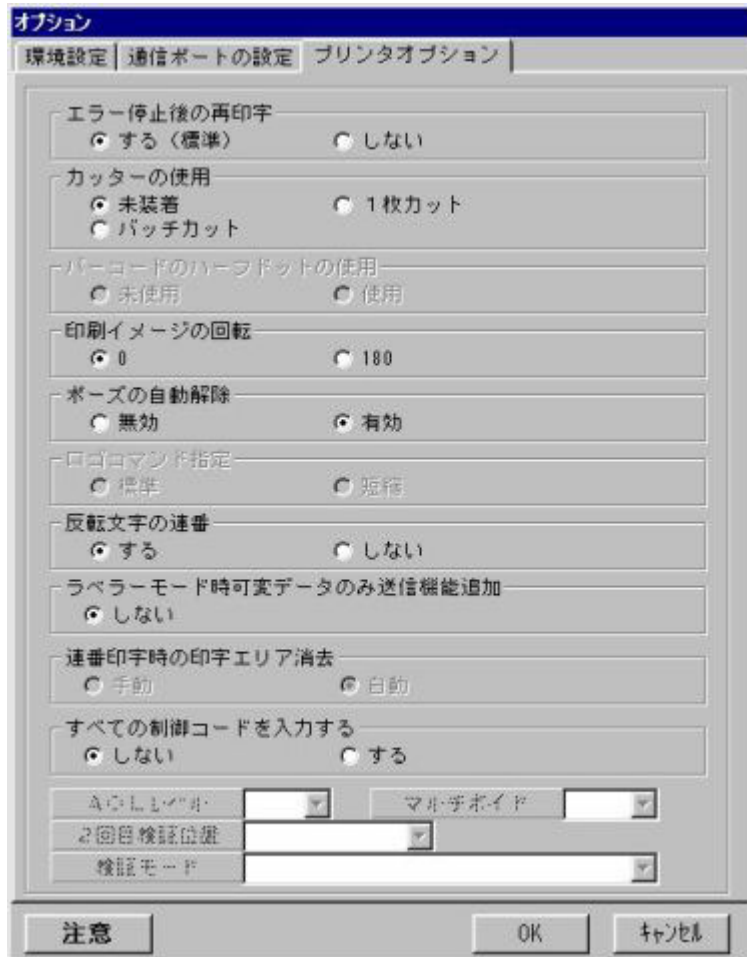
COM ポートを使用して印刷する場合、データ送信後、回線クローズするまでの待ち時間を 100ms 単位で指定します。これは、一部の RS-232C 拡張ボードを使用した場合、送信データの最後の文字が化けてしまう不具合が確認されており、この場合に指定する必要があります。パソコン内臓の標準 COM ポートでは、この様な現象は発生しませんので、0 を指定して差し支えありません。

注意４：“Generic/Text Only について”

Genelic/Text Only を使用して印刷する場合の設定方法は

「付録Ｒ Generic/Text only プリンタドライバへの出力について」を参照してください。

４－５－５　オプション（プリンタ・オプション）

▼メニュー選択：「ツール」→「オプション」→「プリンタ・オプションタブ」

機能

DURA PRINTERに関する諸設定を行います。

操作手順

１）**DURA PRINTER R/R4/SG/SR/SRS** 使用の場合、エラー停止後の再印字を「する」「しない」のどちらかを選択します。「する」を選択した場合、サプライエラー（ラベルジャム，ラベル無し，インク無し，印字中のカバーオープン）発生後、再印字を行います。

２）カッターの使用方法を選択します。

３）**DURA PRINTER R**使用の場合、バーコードのハーフドット使用を「使用」「未使用」のどちらかを選択します。

４）印刷イメージの回転０°，１８０°を選択します。通常は０°にしてください。
１８０°回転は、正確に反転されない場合があります。この場合、各パーツ毎反転させてください（ロゴは、ロゴを作成したアプリケーション側で反転させてください）。

５）ポーズの自動解除「有効」「無効」を選択します。「有効」を選択した場合、印字開始時プリンタがレディ状態になっていなければ、自動的にレディ状態に設定し、印字を開始します。

６）**DURA PRINTER SR**使用の場合、ＡＱＬレベルを選択します。ＡＱＬレベルは、バーコード検証の際の許容誤差を設定します（標準は７です）。

７）**DURA PRINTER SR**使用の場合、マルチボイドで停止させるまでの連続ボイド枚数検証モードを設定します。

８）ラベラーモードの場合、可変データのみ送信する、しないを設定します。
するに設定されている場合は、ＯＬＥ印刷時に、可変データのみプリンタに送信することができます。

９）**DURA PRINTER SR/SRS/LSP5300,5310/LSP5320/KP4300/KP3000/IP6500**使用の場合全ての制御コードを入力「する」「しない」を選択します。
（ＱＲコードの8ビットバイト入力モード時は全ての制御コードは選択できません。）
※全ての制御コードを入力「する」「しない」のチェックを変更すると全てのパーツがクリアされます。

１０）「ＯＫ」ボタンを押すと、設定を登録します。
「キャンセル」ボタンを押すと、この処理を取り消します。

注意１：“エラー停止後の再印字について”

サプライエラー（ラベルジャム，ラベル無し，インク無し，印字中のカバーオープン）発生後の印字再開時、同じ内容のラベルを印字する場合があります。

これは、エラー発生時に印字を終了していない無効なラベルが生じた時、印字再開後に同じ番号を再印字するためです。

人間の目には、同じラベルに見えますが、前のラベルは、無効なラベルとして取り除いてください。印字再開時に同じ番号を印字しない様にするには、“エラー停止後の再印字”を「しない」にしてください。この場合、印字再開後エラー発生時に印字していた次のデータより印字を行います（データの欠番が発生する場合があります）。

注意２：“全ての制御コードを印字するについて”

全ての制御コードを印字するためには、プリンタのファームウェアバージョンが下記の対応状況とマッチしているかご確認ください。

SR ： 00.46 以降

SRS： 10.22 以降

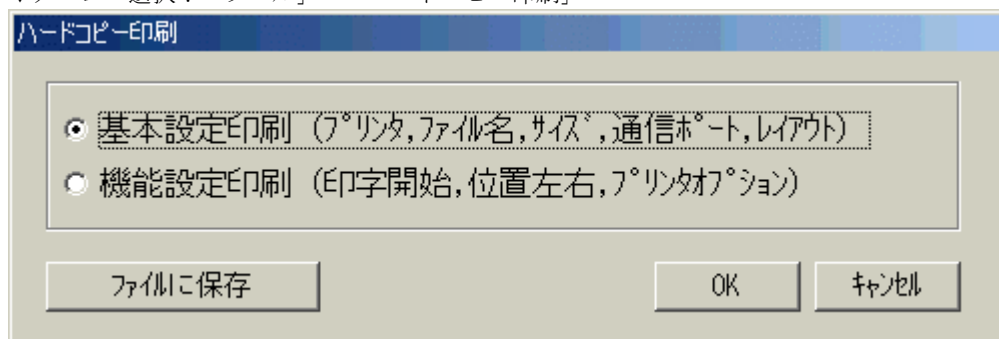
LSP5300,5320 ： 11.19 以降

LSP5320： 01.13 以降

KP4300/KP3000/IP6500 につきましては、

全てのファームウェアバージョンに対応しております。

４－５－６　ハードコピー印刷

▼メニュー選択：「ツール」→「ハードコピー印刷」

機能

各種情報を通常のプリンタ（**Windows**対応プリンタ）を使って印刷することができます。

また、印刷内容を画像ファイル（**JPEG**ファイル）として保存することもできます。

操作手順

１）印刷する情報を「基本設定印刷」または「機能設定印刷」から選択します。

２）「ＯＫ」ボタンを押すと、印刷を開始します。

「キャンセル」ボタンを押すと、この処理を取り消します。

「ファイルに保存」ボタンを押すと、画像ファイルに保存することができます。

４－５－７　関連付け設定

▼メニュー選択：「ツール」→「関連付け設定」

機能

拡張子「**.RTW**」に関連付けるアプリケーションを設定します。

上記画面で「**DURA Rhythm**」を選択すると、拡張子「**.RTW**」のファイルをエクスプローラ等でダブルクリックした場合に、**DURA Rhythm** が自動的に起動します。

上記画面で「**DURA Rhythm Light**」を選択すると、拡張子「**.RTW**」のファイルをエクスプローラ等でダブルクリックした場合に、**DURA Rhythm Light** が起動します。

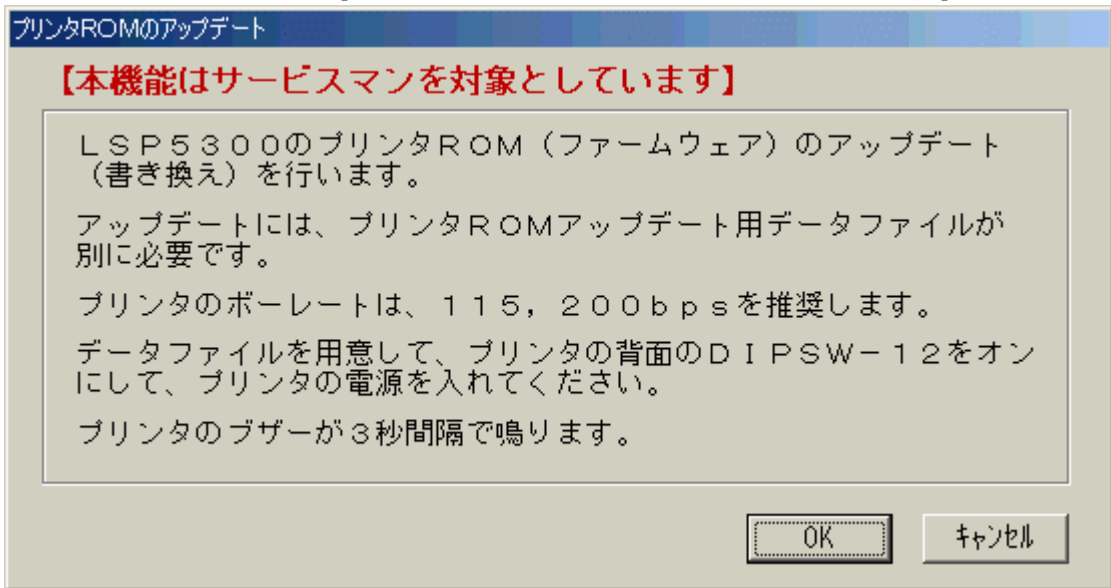
操作手順

１）関連付けるアプリケーションを選択します。

２）「ＯＫ」ボタンを押すと、設定を登録します。

「キャンセル」ボタンを押すと、この処理を取り消します。

４－５－８　プリンタＲＯＭ（ファームウェア）アップデート（サービスマン用）

▼メニュー選択：「ツール」→「プリンタＲＯＭアップデート（サービスマン用）」

画面１

機能

LSP5300, LSP5310, LP5320 で、プリンタＲＯＭ（ファームウェア）のアップデート（書き換え）ができます（アップデートには、プリンタＲＯＭアップデート用のデータファイルが別に必要です）。通信は、**RS-232C** のみで、**115,200bps**を推奨します。

操作手順

1）プリンタＲＯＭ（ファームウェア）のアップデート（書き換え）を行う場合は、「ＯＫ」ボタンを押します。

2）ファイル選択ダイアログが表示されますので、プリンタＲＯＭアップデート用データファイルを選択します。

3）プリンタＲＯＭアップデート用データファイルを選択すると、次ページの画面２が表示されます。

4）「データ送信開始」ボタンを押すと、プリンタＲＯＭのアップデートを行います。
「キャンセル」ボタンを押すと、この処理を取り消します。

プリンタROMのアップデート

ＬＳＰ５３００ のプリンタＲＯＭ（ファームウェア）を Ｖｅｒ１１．１８
にアップデート（書き換え）します。

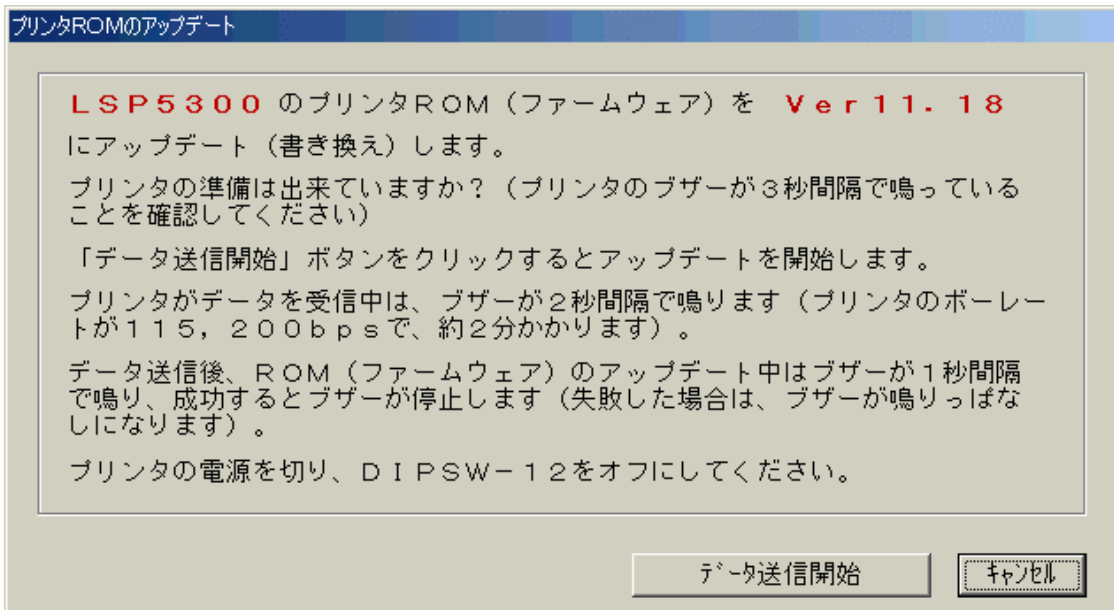
プリンタの準備は出来ていますか？（プリンタのブザーが３秒間隔で鳴っていることを確認してください）

「データ送信開始」ボタンをクリックするとアップデートを開始します。

プリンタがデータを受信中は、ブザーが２秒間隔で鳴ります（プリンタのボーレートが１１５，２００ｂｐｓで、約２分かかります）。

データ送信後、ＲＯＭ（ファームウェア）のアップデート中はブザーが１秒間隔で鳴り、成功するとブザーが停止します（失敗した場合は、ブザーが鳴りっぱなしになります）。

プリンタの電源を切り、ＤＩＰＳＷ－１２をオフにしてください。

ﾃﾞｰﾀ送信開始　ｷｬﾝｾﾙ

画面２

プリンタＲＯＭアップデート用データファイルについて

１）**LSP5300(5310)** 用

Ver11xx.wpf

２）**LP5320** 用

Ver01xx.wpf

上記で、**xx** はバージョンＮｏです。

例えば、**Ver1118.wpf** のファイルは、**LSP5300**の**Ver 11.18**のＲＯＭ（ファームウェア）です。

また、**LSP5300**と**LSP5310**は、共通のＲＯＭです。

＊プリンタ情報で、**Ver**が**12.xx**と表示されることがありますが、**Ver 11.xx**と同じファームウェアです。
Ver 11.xxのファームウェアをプリンタにダウンロードすると、プリンタ側の条件の違いで、自動的に**Ver 11.xx**と**Ver 12.xx**に分かれます。
Ver 11.xxは、アウトラインフォントをソフトジェネレータで作成しています。
Ver 12.xxは、アウトラインフォントをハードジェネレータで作成しています。

注意：本機能は、弊社サービスマン用です。

４－６　ヘルプメニュー

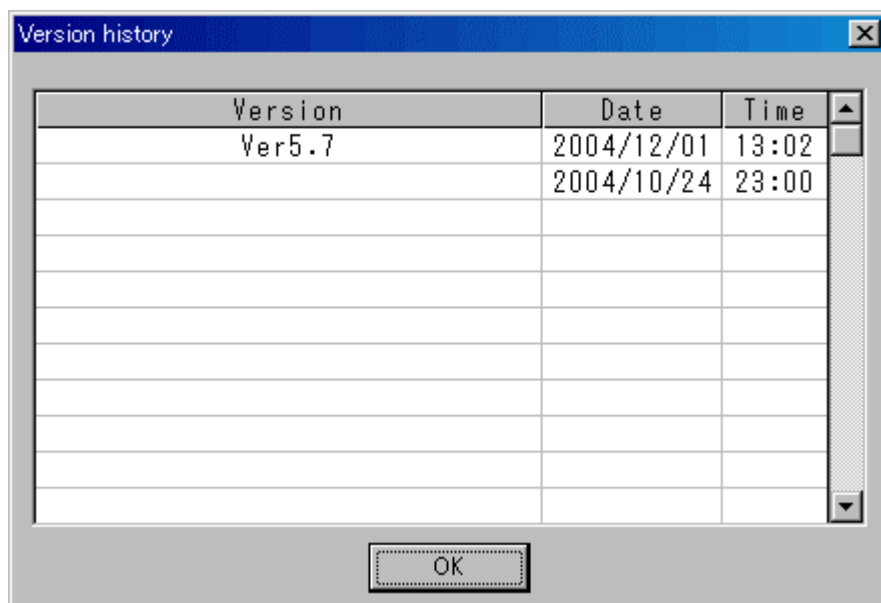
４－６－１　バージョン情報

▼メニュー選択：「ヘルプ」→「バージョン情報」

<u>機能</u>

ＤＵＲＡ Ｒｈｙｔｈｍのバージョンを表示します。

「Ｃｒｅａｔｅ」はファイルの作成者です。

「Ｃｏｍｐａｎｙ」はコンピュータの所有者です。

１５文字以内で設定してください。

<u>操作手順</u>

「Ｖｅｒｓｉｏｎ ｈｉｓｔｏｒｙ」ボタンを押すと

インストール履歴画面が表示されます。

「ＯＫ」ボタンを押すと、この画面を閉じます。

インストール履歴画面

Version history

Version	Date	Time
Ver5.7	2004/12/01	13:02
	2004/10/24	23:00

OK

機能

ＤＵＲＡ Ｒｈｙｔｈｍ Ｖｅｒ５．７以降にインストールされた履歴を表示します。

Ｖｅｒ５．７以前の情報はＶｅｒｓｉｏｎ欄が空白になります。

「Ｖｅｒｓｉｏｎ」はＤＵＲＡ Ｒｈｔｈｍがインストールされたバージョンです。

「Ｄａｔｅ」はＤＵＲＡ Ｒｈｙｔｈｍがインストールされた日付です。

「Ｔｉｍｅ」はＤＵＲＡ Ｒｈｙｔｈｍがインストールされた時間です。

４－６－２　Ｗｅｂページ

▼メニュー選択：「ヘルプ」→「Ｗｅｂページ」

ＮＩＴＴＯ ＤＥＮＫＯのバーコードシステムのＷｅｂページにリンクしています。

５．DURA Rhythm Light（ラベル簡易発行ソフト）の操作手順

DURA Rhythm Lightとは、**DURA Rhythm**で作成したラベルフォーマットをもとに、印刷を行うソフトです。基本的には、**DURA Rhythm**のファイルを開く（フォーマットファイルの一覧表示および選択）と印刷画面のみを構成したものです。

１）**DURA Rhythm Light** を起動すると、下図の画面が表示されます。

２）「終了」ボタンを押すと、**DURA Rhythm Light** を終了します。

３）４－２－２の「開く」と同様の手順でフォーマットファイルを選択すると、次ページの画面が表示されます。

印刷の実行

No	項　目	変数名	コメント	印　字　内　容	連番保持	印字
1	Code 39	CODE39		0000000002	☑	☑
2	ﾄﾞｯﾄﾌｫﾝﾄ	固定	Machine Name	Machine 001		☑
3	ﾄﾞｯﾄﾌｫﾝﾄ	リンク		*0000000002*		☑

制御コード

DURAPRINTER SR　通常印刷ﾓｰﾄﾞ

印字開始位置上下　0

印字開始位置左右　0

ｻﾌﾟﾗｲ種別　ｻﾌﾟﾗｲ 9

ｺﾝﾃﾝﾄﾞからの戻り　通常

ﾌﾟﾚﾋﾞｭｰ

ﾌﾟﾘﾝﾀ情報

通信ﾎﾟｰﾄ　COM1

ﾘｾｯﾄ　ｽﾃｰﾀｽ

印刷枚数　1

印刷　ｷｬﾝｾﾙ

4）基本的には、４－２－７の「印刷」と同様の手順で、印刷を行います。

DURA Rhythmの「印刷」画面と異なる点は、「コマンドをファイルに保存」の機能が無い点です。

「通信ポートの設定」ボタンを押すと、４－５－５「通信ポートの設定」画面が表示されますので、必要であれば設定変更後、印刷を行います。

６．トラブルシューティング

（１）COMポートを選択できない

パソコン上で、**COM** ポートが使用できるにも関わらず、**DURA Rhythm** の通信ポートの設定画面で、**COM** ポートの選択がすべて灰色になり選択できない場合があります。これは、**DURA Rhythm** で **COM** ポートを使用するツールとして、**PDQComm** を使用していますが、**DURA Rhythm** をインストールする前に、既に別バージョンの **PDQComm** がインストール済みの場合、バージョンの不整合により、**DURA Rhythm** より **COM** ポートが使用できない状況になります。

上記現象が発生した場合、以下の様に、一度 **PDQComm** をアンインストール後、**DURA Rhythm** をインストールするようにしてください。

DURA Rhythm が既にインストールされている場合、先に **DURA Rhythm** をアンインストールしてください。

PDQComm のアンインストール方法

①**DOS** プロンプトにて、**WINDOWS¥SYSTEM** フォルダに移行します。

例：**CD　C:¥WINDOWS¥SYSTEM**

②**PDQComm** をレジストリから削除します。

REGSVR32　/U　PDQCOM32.OCX

③**PDQComm** のファイルを削除します。

DEL　PDQCOM32.OCX

上記の後、**DURA Rhythm** を再インストールしてください。

（２）FM/V-BIBLOシリーズでDURA Rhythmを起動できない

FM/V-BIBLO シリーズをご使用で、**DURA Rhythm** を起動した時、不正な処理で終了することがあります。これは、**FM/V-BIBLO** シリーズの一部の機種で、ディスプレイドライバに不具合があり、それによって **DURA Rhythm** が起動できない現象が確認されています。

この場合、ディスプレイドライバを最新バージョンに更新することにより回避できます。

詳しくは、富士通株式会社のホームページ等を参照してください。

（３）DURA Rhythmで「共有違反」が発生する

DURA Rhythm でファイル保存時「共有違反」が発生し、保存できない場合があります。

これには、以下の２つの原因が考えられます。

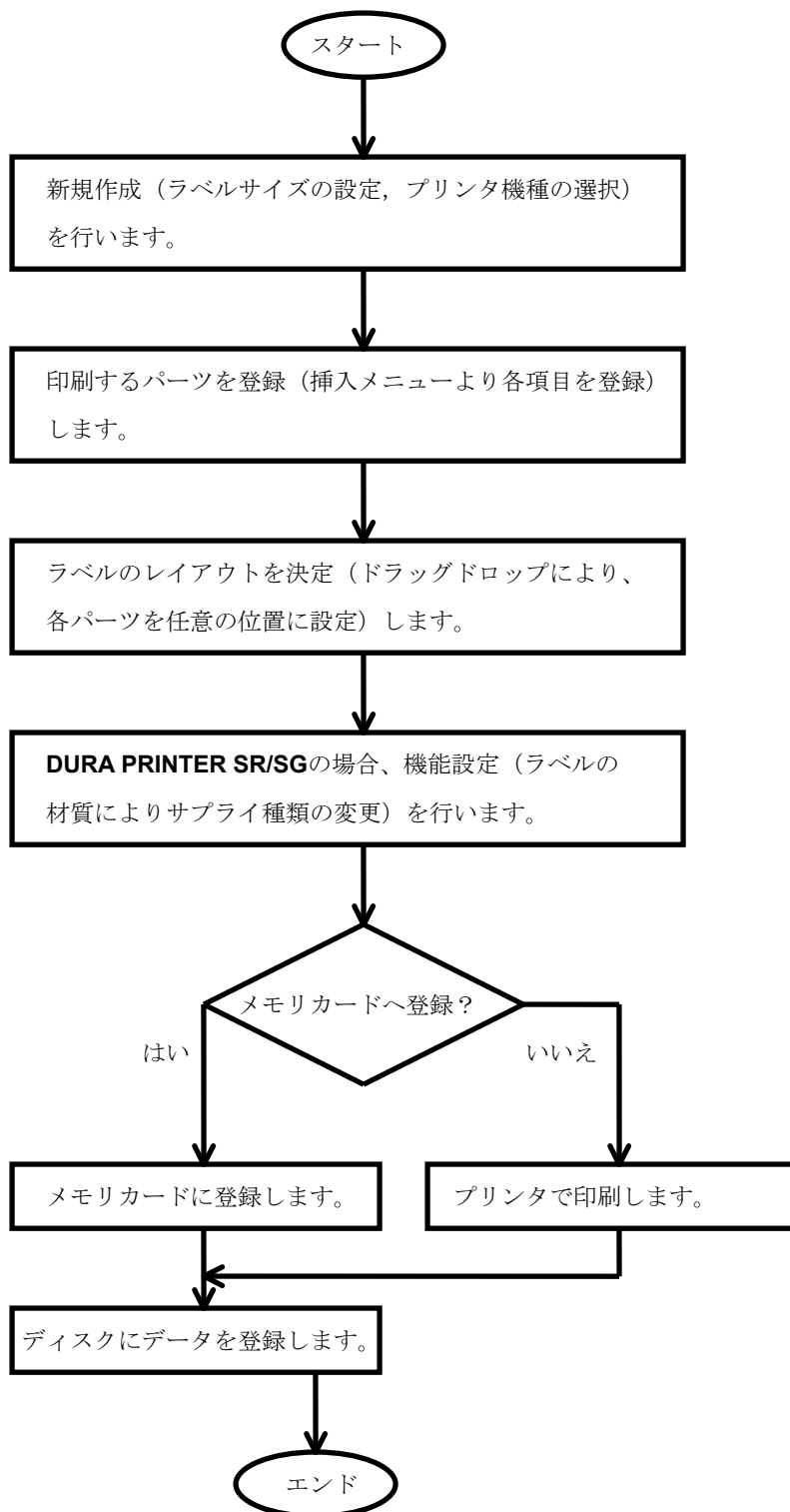
①カスタムアプリケーション（**DURA Rhythm** の **OLE** オートメーションを使ったラベル発行ソフト）が使用中のファイルを **DURA Rhythm** 側で保存しようとした場合。

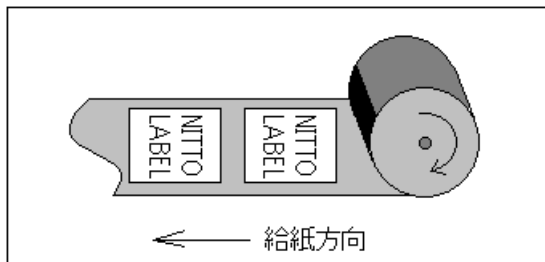
この場合は、カスタムアプリケーションを終了することにより、**DURA Rhythm**側でファイルを保存することができます。

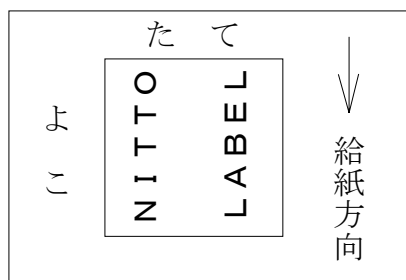
②カスタムアプリケーションが、**DURA Rhythm**のオブジェクトを開放していない場合。

この場合は、カスタムアプリケーションの終了時、必ずオブジェクトを開放するように、プログラムを変更してください。また、**DURA Rhythm**の制御ファイル「**OLEProc.STS**」をエクスプローラ等で削除してください。

「**OLEProc.STS**」は、**DURA Rhythm**のインストールしたフォルダ（通常、**C:¥Program Files¥Rtmwin32**）に格納されています。

付録Ａ　ラベル作成の流れ

付録Ｂ　給紙方向について

DURA Rhythmでは、ラベルを作成する際、図Ｂ－１の様なラベルをイメージしてデザインします。

図Ｂ－１

図Ｂ－２の様なラベルを印字する場合は、各パーツで回転方向を９０°または２７０°にしてください。但し、ロゴのパーツはグラフィックソフトで変更し、**DURA Rhythm**に読み込んでください。

図Ｂ－２

付録Ｃ　連番（連続番号）について

連番とは、他のパーツは同じで、ＬＯＴ番号だけが、００１，００２，００３・・・・と

変化する場合などの印刷方法をいいます。

連番は、バーコード、テキストどちらも設定することができます。

DURA Rhythmでは、数字連番と英字連番と英数字連番とカスタム連番の４種類の連続番号を

指定できます。

（１）数字連番

数字データ（０～９）だけを増加または減少させます。

例１

［パーツ設定値］　　　　　　　　［印字結果］

連番・・・・・・・使用　　　ＡＢ０００８－１１（最初の値）

変化する文字・・・数字　　　ＡＢ０００９－１１

変化量・・・・・・１　　　　ＡＢ００１０－１１

何枚毎・・・・・・１　　　　ＡＢ００１１－１１

何桁目・・・・・・３　　　　ＡＢ００１２－１１

何文字・・・・・・４　　　　　　　・

・

・

設定値についての説明

変化量・・・プラス方向に値を変化させる場合１、２、３・・・などの数値で表し

ます。マイナス方向に値を変化させる場合－１、－２、－３・・・など

の数値で表します。

何枚毎・・・何枚毎に値を変化させるのかを設定します。

何桁目・・・変化させたい値は、データの先頭から何桁目であるかを設定します。

何文字・・・変化させたい値は、何文字あるかを設定します。

１２８以上は設定できません。

またメモリカード使用時は１００以上はメモリカードに登録できません。

（付録Ｄメモリカードを使用すればの注意３参照）

例２

［パーツ設定値］

連番・・・・・・・使用
変化する文字・・・数字
変化量・・・・・・－２
何枚毎・・・・・・３
何桁目・・・・・・８
何文字・・・・・・２

［印字結果］

ＡＢ０００８－１１（最初の値）
ＡＢ０００８－１１
ＡＢ０００８－１１
ＡＢ０００８－０９
ＡＢ０００８－０９
ＡＢ０００８－０９
ＡＢ０００８－０７
ＡＢ０００８－０７
ＡＢ０００８－０７
・
・
・

例３

間違った例

［パーツ設定値］

連番・・・・・・・使用
変化する文字・・・数字
変化量・・・・・・２
何枚毎・・・・・・１
何桁目・・・・・・４
何文字・・・・・・３

［印字結果］

９９９Ａ９８
９９９Ａ００（Ａは連番にならないことに注意）
９９９Ａ０２

（２）英字連番

英字連番は、大文字のＡからＺまでを連番として印刷します。小文字は、連番にできません。英字増分は、ＡからＢそしてＣへとＺまで進み、再びＡまで戻って次の位の字位置へ切り上げます。

例４

［パーツ設定値］	［印字結果］
連番・・・・・・・・使用	ＺＺＺＺＺＸ
変化する文字・・・英字	ＺＺＺＺＺＺ
変化量・・・・・・・２	ＺＺＺＡＡＢ
何枚毎・・・・・・・１	ＺＺＺＡＡＤ
何桁目・・・・・・・４	ＺＺＺＡＡＦ
何文字・・・・・・・３	

例５

間違った例

［パーツ設定値］	［印字結果］
連番・・・・・・・・使用	ＺＺＺ３ＺＸ
変化する文字・・・英字	ＺＺＺ３ＺＺ
変化量・・・・・・・２	ＺＺＺ３ＡＢ（３は連番にならないことに注意）
何枚毎・・・・・・・１	ＺＺＺ３ＡＤ
何桁目・・・・・・・４	
何文字・・・・・・・３	

（３）英数字

数字と英字データの両方を連番にします。数字データとしては、整数の０から９まで、英字文字は大文字のＡからＺまでが正しい文字として使用できます。小文字は、連番にできません。下記に印字する文字の順序を表しておきます。

０１２３４５６７８９ＡＢＣＤＥＦＧＨＩＪＫＬＭＮＯＰＱＲＳＴＵＶＷＸＹＺ
０１２３・・・

<u>例６</u>

［パーツ設定値］	［印字結果］
連番・・・・・・・・使用	ＺＺＺ０Ｚ９６
変化する文字・・・英数字	ＺＺＺ０ＺＡ８
変化量・・・・・・１２	ＺＺＺ０ＺＢＡ
何枚毎・・・・・・１	ＺＺＺ０ＺＣＣ
何桁目・・・・・・４	
何文字・・・・・・４	

<u>例７</u>

間違った例

［パーツ設定値］	［印字結果］
連番・・・・・・・・使用	ＺＺＺ０Ｚ９ｂ（ｂがあるので連番は停止）
変化する文字・・・英数字	ＺＺＺ０Ｚ９ｂ
変化量・・・・・・１２	ＺＺＺ０Ｚ９ｂ
何枚毎・・・・・・１	ＺＺＺ０Ｚ９ｂ
何桁目・・・・・・４	
何文字・・・・・・４	

（4）カスタム

文字パーツの場合は、下記の表の中から自由に連番文字を設定することができます。
バーコードパーツ、２次元コードパーツの場合は、それぞれのパーツの印字できる文字であり、かつ下記の表の中の文字であれば連番文字に設定することができます。

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F
2		!	″	#	$	%	&	’	(	)	*	+	’	−	.	/
3	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	:	;	<	=	>	?
4	@	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O
5	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z	[	¥	]	^	_
6	`	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o
7	p	q	r	s	t	u	v	w	x	y	z	{	|	}	~	

注意：カスタム連番はプリンタの連番機能で使用していませんので、プリンタの処理速度が遅くなります。

連番文字を例えば″ａｂｃｄｅｆｇ″と入力しておけば、これを基準に連番します。

例８

［パーツ設定値］
- 連番・・・・・・・・使用
- 変化する文字・・・カスタム
- 変化量・・・・・・・１
- 何枚毎・・・・・・・１
- 何桁目・・・・・・・４
- 何文字・・・・・・・４
- 連番文字・・・・・・ａｂｃｄｅｆｇ

［印字結果］
- ＺＺＺａｇｆｅ
- ＺＺＺａｇｆｆ
- ＺＺＺａｇｆｇ
- ＺＺＺａｇｇａ

例９

［パーツ設定値］

連番・・・・・・・使用

変化する文字・・・カスタム

変化量・・・・・・２

何枚毎・・・・・・１

何桁目・・・・・・４

何文字・・・・・・４

連番文字・・・・・・ａｂｃｄｅｆｇ

［印字結果］

ＺＺＺａｇｇｂ

ＺＺＺａｇｇｄ

ＺＺＺａｇｇｆ

ＺＺＺｂａａａ

例１０

間違った例

［パーツ設定値］

連番・・・・・・・使用

変化する文字・・・カスタム

変化量・・・・・・２

何枚毎・・・・・・１

何桁目・・・・・・４

何文字・・・・・・４

連番文字・・・・・・ａｂｃｄｅｆｇ

［印字結果］

ＺＺＺａｇｇ１（連番文字以外の文字が

ＺＺＺａｇｇ１　あるので連番は停止）

ＺＺＺａｇｇ１

ＺＺＺｂａａ１

付録Ｄ　メモリーカードを使用すれば

メモリーカードにフォーマットデータを登録すれば、コンピュータからはフォーマットデータを送信する必要はありません。

```
~^”ＳＡＭＰＬＥ”；１；０；２４；４０３；

ＳＰＢ；UTOF；３５４；
　ＨＡＬＦ；BSYM；１；１；
　BNEW；１；BWEW；３；ＢＩＣＧ；１；
　ＤＤＦ；１１；１０；DFM；１；１；ＤＦＳ；３；ＤＦＯ；１；１；
MRK；
　ＨＢＲ；０；ＶＢＲ；０；ＤＷＢＸ；０；０；３９４；２４；NUM；
　ＢＣＬＣ；１；ＢＣＩＤ；１；
　ＩＤＦ；１；
　ＨＢＲ；３３；ＶＢＲ；１２；ＢＣＳＨ；１８；
　ＢＣＳＴ；”＊ＡＢＣＤＥ０１２３４５００”；ＢＳＡＬ；２；”＊”；
　ＢＳＴＰ；
　ＨＢＲ；６６；ＶＢＲ；１３；
　”＊ＡＢＣＤＥ０１２３４５００”；ＳＡＬ；２；”＊”；
ＲＥＴ；
ＴＲＭ；￥
```

図Ｄ－１（**DURA PRINTER R**の場合）

たとえば、図Ｄ－１の例の場合、このフォーマットのファイル名をＳＡＭＰＬＥ、バーコードの印字データの変数名（フィールド名）をＤＡＴＡ１、文字データの変数名（フィールド名）をＤＡＴＡ２とあらかじめ定義しておけば、コンピュータからは、

　＊ＳＡＭＰＬＥ＜ＣＲ＞

　／ＤＡＴＡ１＝ＡＢＣＤＥ０１２３４５００＜ＣＲ＞

　／ＤＡＴＡ２＝ＡＢＣＤＥ０１２３４５００＜ＣＲ＞

　！１０＜ＣＲ＞

のテキストを送信するだけで印字が可能です（！１０は、印字枚数を示します。＜ＣＲ＞は、

キャリジリターンコードです）。すなわちデュラリズムのパーツで印字データ入力方法を「変数名で入力」にして、データ文字数，変数名（ＤＡＴＡ１，ＤＡＴＡ２）を入力し、メモリカードに送信します。デュラリズムを終了し、上記テキストをコンピュータから送信すれば図Ｄ－１と同じように印字ができます。

注意１：“メモリカードは電池で駆動しています”

長期間、プリンタの電池を遮断しておくと、フォーマット内容が消滅する場合があります。**DURA PRINTER S**では、メモリカードの書き込み（登録）はできません。**DURA PRINTER R/R4/S**のメモリカードの型名と**DURA PRINTER SR(SRS)/SG**のメモリカードの型名は異なります。尚、メモリーカードの挿入、抜き取りは、必ず電源を切った状態で行ってください。

注意２：“ロゴの分割について”

DURA PRINTER SR/SG/LSP5300でメモリカード書き込み時、１つのファイル中にロゴファイル（及び外字フォントファイル）は最大７個まで登録できます。
従って、８個以上１４個以下のロゴファイルがある場合は２つのファイルに、
１５個以上２１個以下のロゴファイルがある場合は、３つのファイルに分割する必要があります。**DURA Rhythm**では、このファイル分割処理を自動的に行います。
分割された場合は、メモリカード書き込み終了後、分割ファイル名が画面上に表示されます。他のアプリケーションから印字を行う場合は、このファイル名を記録しておいてください。

DURA PRINTER LSP5300の場合は、１つのファイル中にロゴファイル（及び外字フォントファイル）は最大１５個まで登録できます。

例１）ファイルが２分割されている場合

（フィールド名は、分割された最後のファイルに定義してください）

＊ＳＡＭＰＬＥ１＜ＣＲ＞

！１０＜ＣＲ＞

＊ＳＡＭＰＬＥ２＜ＣＲ＞

／ＤＡＴＡ１＝ＡＢＣＤＥ０１２３４５００＜ＣＲ＞

！１０＜ＣＲ＞

例２）ファイルが３分割されている場合

＊ＳＡＭＰＬＥ１＜ＣＲ＞

！１０＜ＣＲ＞

＊ＳＡＭＰＬＥ２＜ＣＲ＞

！１０＜ＣＲ＞

＊ＳＡＭＰＬＥ３＜ＣＲ＞

／ＤＡＴＡ１＝ＡＢＣＤＥ０１２３４５００＜ＣＲ＞

！１０＜ＣＲ＞

注意３：

変数名を使用してメモリーカードに登録する場合、ひとつの変数名で１００バイト以上のデータを登録できません。

１００バイト以上のデータは１００バイトごとに分割して異なる変数名で登録しなければなりません。

また連番部分は、ひとつの変数名で登録します。従って、メモリカード使用時は１００バイト以上の連番はできません。

DURA Rhythmでは、この分割処理を自動的に行います

（**DURA PRINTER R/R4** の時は、１００バイトではなく５０バイトになります）。

メモリーカードに分割登録する変数名が画面上に表示されます。

他のアプリケーションから印字を行う場合は、この変数名が必要ですので、記録しておいてください。

付録Ｅ　CODE128（EAN-128）　の入力について

DURA PRINTERでは、**CODE128**のサブセットＡ，サブセットＢ，サブセットＣが入力できます。**DURA Rhythm**では、サブセットＡ，サブセットＢは下記の入力ができます。但し、サブセットＡで制御文字を入力するには、英小文字を入力します。プリンタ側で等価な制御文字に置き換わります。

ｻﾌﾞｾｯﾄ A	ｻﾌﾞｾｯﾄ B	制御文字
SP	SP	
!	!	
▯	▯	
#	#	
$	$	
%	%	
&	&	
▯	▯	
(	(	
)	)	
*	*	
+	+	
,	,	
-	-	
.	.	
/	/	
0	0	
1	1	
2	2	
3	3	
4	4	
5	5	
6	6	
7	7	
8	8	
9	9	
:	:	
;	;	
<	<	
=	=	
>	>	
?	?	
A	A	
B	B	
C	C	

ｻﾌﾞｾｯﾄ A	ｻﾌﾞｾｯﾄ B	制御文字
D	D	
E	E	
F	F	
G	G	
H	H	
I	I	
J	J	
K	K	
L	L	
M	M	
N	N	
O	O	
P	P	
Q	Q	
R	R	
S	S	
T	T	
U	U	
V	V	
W	W	
X	X	
Y	Y	
Z	Z	
[	[	
¥	¥	
]	]	
^	^	
_	_	
SOH	a	01
STX	b	02
ETX	c	03
EOT	d	04
ENQ	e	05
ACK	f	06
BEL	g	07

ｻﾌﾞｾｯﾄ A	ｻﾌﾞｾｯﾄ B	制御文字
BS	h	08
HT	i	09
LF	j	0A
VT	k	0B
FF	l	0C
CR	m	0D
SO	n	0E
SI	o	0F
DLE	p	10
DC1	q	11
DC2	r	12
DC3	s	13
DC4	t	14
NAK	u	15
SYN	v	16
ETB	w	17
CAN	x	18
EM	y	19
SUB	z	1A
ESC	{	1B
FS	｜	1C
GS	}	1D

＊ SP はスペース

サブセットＣは、数字の入力ができます（偶数桁の入力です）。

DURA Rhythmでは、サブセットの組み合わせは、次のパターンが可能です（このパターン以外は対応していません）。

① サブセットＡのみ
② サブセットＢのみ
③ サブセットＣのみ
④ サブセットＡ＋サブセットＢ （＠Ｅ）
⑤ サブセットＡ＋サブセットＣ （＠Ｄ）
⑥ サブセットＢ＋サブセットＡ （＠Ｆ）
⑦ サブセットＢ＋サブセットＣ （＠Ｄ）
⑧ サブセットＣ＋サブセットＡ （＠Ｆ）
⑨ サブセットＣ＋サブセットＢ （＠Ｅ）
⑩ ＡＵＴＯ設定（バージョン５．５以降）

① サブセットＡのみ ：バーコードタイプで、**CODE128**（サブセットＡのみ）を選択して印字データを入力します。

② サブセットＢのみ ：バーコードタイプで、**CODE128**（サブセットＢのみ）を選択して印字データを入力します。

③ サブセットＣのみ ：バーコードタイプで、**CODE128**（サブセットＣのみ）を選択して印字データを入力します。

④ サブセットＡ＋サブセットＢ ：バーコードタイプで、**CODE128**（サブセットＡ）を選択して印字データを入力します。サブセットＢに変更する場合は、＠Ｅを入力します。

例）

印字内容	ＴＥＳＴ＠Ｅａｂｃ

⑤ サブセットＡ＋サブセットＣ ：バーコードタイプで、**CODE128**（サブセットＡ）を選択して印字データを入力します。サブセットＣに変更する場合は、＠Ｄを入力します。

例）

印字内容	ＴＥＳＴ＠Ｄ１２３

⑥　サブセットＢ＋サブセットＡ　：バーコードタイプで、**CODE128**（サブセットＢ）を選択して印字データを入力します。サブセットＡに変更する場合は、＠Ｆを入力します。

例）

印字内容	ａｂｃ＠ＦＴＥＳＴ

⑦　サブセットＢ＋サブセットＣ　：バーコードタイプで、**CODE128**（サブセットＢ）を選択して印字データを入力します。サブセットＣに変更する場合は、＠Ｄを入力します。

例）

印字内容	ａｂｃ＠Ｄ１２３４

⑧　サブセットＣ＋サブセットＡ　：バーコードタイプで、**CODE128**（サブセットＣ）を選択して印字データを入力します。サブセットＡに変更する場合は、＠Ｆを入力します。

例）

印字内容	１２３＠ＦＴＥＳＴ

⑨　サブセットＣ＋サブセットＢ　：バーコードタイプで、**CODE128**（サブセットＣ）を選択して印字データを入力します。サブセットＢに変更する場合は、＠Ｅを入力します。

例）

印字内容	１２３４＠Ｅａｂｃ

⑩ＡＵＴＯ設定　：入力された印字データに従ってバーコード幅が最少になる様に自動サブセットを切り替えて印字します。印字的にサブセット切り替えコマンド（@等）は不要です。

例）

印字内容	ＴＥＳＴａｂｃ１２３４

ＡＵＴＯ設定時は制御コードを押して制御コードを入力してください

・連番指定について

サブセットの組み合わせの場合、何桁目の桁数に＠とそれに続く文字を加えて行います。

例）

印字内容	ＴＥＳＴ＠Ｄ１２３４

１２３４を連番にしたい場合、７桁目から４文字と入力します。

＠Ｄを挟んで連続した連番はできません。

ＥＡＮ－１２８について

CODE128 は、バーコードシンボルとしての規格上の名称です。

EAN-128 は、**CODE128**のバーコードシンボルを使用して、国際ＥＡＮ協会が定めた標準のデータ形式で印字する場合の名称です。

EAN-128ではデータの先頭に必ずＦＮＣ１（ファンクション１）を付加します。ＦＮＣ１の付加は、**DURA Rhythm**で自動的に行っています。

データの途中にフィールドセパレータとしてＦＮＣ１を挿入する場合は、＠Ｇを入力してください。

EAN-128 のデータ形式は、アプリケーション識別子（ＡＩ）という識別コードとそれに対応するデータの内容の組み合わせで表示されます。

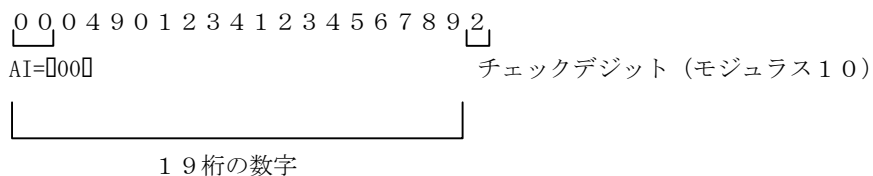
アプリケーション識別子（ＡＩ）は２桁から４桁までの数値コードで、それぞれのデータ項目ごとのに、そのデータの長さが固定長または可変長で定められています。

例

・ＥＡＮ－１２８（ＳＳＣＣ－１８（標準カートンＩＤ））について

アプリケーション識別子（ＡＩ）が“００”で定義されているコードで国際ＥＡＮ協会では「ＳＳＣＣ－１８」日本語表記で「標準カートンＩＤ」と呼ばれています。

０００４９０１２３４１２３４５６７８９２

AI=□00□　　　チェックデジット（モジュラス１０）

１９桁の数字

DURA Rhythm では１９桁の数字を入力してください（ＥＡＮ－１２８（ＳＳＣＣ－１８）の場合、２０桁目にモジュラス１０のチェックデジットが必要ですが、**DURA PRINTER**側で自動付加されます）。

・連番指定について

サブセットの組み合わせの場合、何桁目の桁数に＠とそれに続く文字を加えて行います。

例）

印字内容	ＴＥＳＴ＠Ｄ１２３４

１２３４を連番にしたい場合、７桁目から４文字と入力します。

＠Ｄを挟んで連続した連番はできません。

付録 F　EAN128 を使用する場合のサブセット A、B との併用について

1. はじめに

EAN-128でサブセットCを使用する場合、データが奇数桁になる場合は、途中でサブセットA、Bを併用して、偶数桁にする必要があります。
また、データの途中にフィールドセパレータとして、″@G″を入力した場合は、その前後でもそれぞれ偶数桁にしておく必要があります。

（EAN-128AUTO 選択時はデュラリズム側で自動的に設定されます）

2. デュラリズム上の設定例

2-1. 偶数桁時(通常)の設定：サブセット C のみ

26 桁　10 桁

@G　01　34912345678900　30　10990099　@G　10　12349950

FC　AI　14 桁　AI　8 桁　FC　AI　8 桁

・ファンクションコードの前後で印字データの桁数はそれぞれ偶数で設定されています。

2-2. 奇数桁時の設定(その1)：サブセット C→サブセット B→サブセット C

24 桁　1 桁　10 桁

@G　01　34912345678900　30　109900　@E　9　@D　@G　10　12349950

FC　AI　14 桁　AI　6 桁　1 桁　FC　AI　8 桁

・ファンクションコードより前で、奇数桁(25 桁)の設定となってしまいます。
よって、ファンクションコードの直前で、最後の 1 桁を残し、一旦サブセット B に切り替え(@E)、最後の 1 桁(ここでは“9”)を挿入後、再度、サブセット C に切り替える(@D)必要があります。

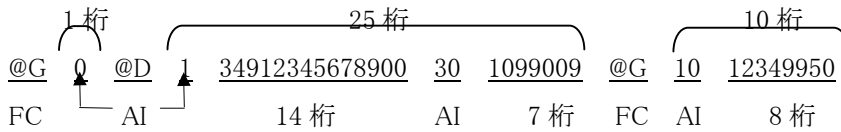
2-3. 奇数桁時の設定(その 2)：サブセット C→サブセット B→サブセット C→サブセット B

24 桁　1 桁　10 桁　1 桁

@G　01　34912345678900　30　109900　@E　9　@D　@G　10　12349950　@E　0

FC　AI　14 桁　AI　6 桁　1 桁　FC　AI　8 桁　1 桁

・ファンクションコードより前は、2-2 の設定と同様です。
ファンクションコードの後も奇数桁(9 桁)となっていますので、末桁の 1 桁を残し、一旦、サブセット B に切り替え(@E)、最後の 1 桁(ここでは“0”)を挿入します。

2-4. 奇数桁時の設定(その 3):サブセット B→サブセット C

・前述の 2-2 の場合は、ファンクションコードの直前で切り替えましたが、ここでは、データでの最初で切り替えるため、予めサブセット B を選択します。
AI の 1 桁目のみ(ここでは"0")、サブセット B を使用し、その後、サブセット C に切り替える(@D)必要があります。

3. デュラリズムの設定

デュラリズム ver5.4 以降では、"@～"を複数回入力することが可能となり、サブセットを切り替えることに、制限はありません。また前述のような設定ミスがある場合は、下記のメッセージを表示しますので、入力データの確認を行ってください。

付録Ｇ　ＱＲコード について

（１）**DURA PRINTER SR**（ROM Ver 00.22以降）でＱＲコードの印字ができます。ＱＲコードのモデル１／モデル２／マイクロＱＲを印字することができますが、モデル２は、**DURA PRINTER SR**のROM Ver 00.30以降で印字できます。マイクロＱＲに関しては、**DURA PRINTER SR**のROM Ver 00.38以降で印字できます。
DURA PRINTER SG(ROM Ver SG01.14以降)及び、**DURA PRINTER SRS/LSP5300**では、ＱＲコードモデル１／モデル２／マイクロＱＲを印字する事ができます。

本ソフトでは、ＱＲコードの下記の入力モードに対応しています。

入力モード	内　　容	備　　考
数字モード	１０進数字	０～９
英数字モード	１０個の数字、 ２６個の英字、 ９個の記号	０～９、 Ａ～Ｚ、 ＄％＊＋－．／： スペース
漢字モード	シフトＪＩＳコードで漢字を含むデータ	
８ビットバイト	ＪＩＳ８単位符号 入力可能な値は表Ｆ－１参照	
アスキー	数字、英数字、８ビットバイトをプリンタのファームウェアソフトで自動切換え	DURA PRINTER SR (ROM Ver 00.46以降) DURA PRINTER SRS (ROM Ver 10.22以降) DURA PRINTER LSP5300、LSP5310 (ROM Ver 10.19以降) DURA PRINTER LP5320 (ROM Ver 10.22以降) で対応
テキスト	数字、英数字、漢字、８ビットバイトをプリンタのファームウェアソフトで自動切換え	DURA PRINTER SR (ROM Ver 00.46以降) DURA PRINTER SRS (ROM Ver 10.22以降) DURA PRINTER LSP5300、LSP5310 (ROM Ver 10.19以降) DURA PRINTER LP5320 (ROM Ver 10.22以降) で対応

８ビットバイトの入力可能文字

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F
0			SP	0	@	P	`	p				ｰ	ﾀ	ﾐ		
1		DC1	!	1	A	Q	a	q			｡	ｱ	ﾁ	ﾑ		
2			▯	2	B	R	b	r			｢	ｲ	ﾂ	ﾒ		
3	ETX	DC3	#	3	C	S	c	s			｣	ｳ	ﾃ	ﾓ		
4	EOT		$	4	D	T	d	t			､	ｴ	ﾄ	ﾔ		
5		NAK	%	5	E	U	e	u			･	ｵ	ﾅ	ﾕ		
6	ACK	SYN	&	6	F	V	f	v			ｦ	ｶ	ﾆ	ﾖ		
7	BEL	ETB	▯	7	G	W	g	w			ｧ	ｷ	ﾇ	ﾗ		
8			(	8	H	X	h	x			ｨ	ｸ	ﾈ	ﾘ		
9	HT	EM	)	9	I	Y	I	y			ｩ	ｹ	ﾉ	ﾙ		
A	LF	SUB	*	:	J	Z	j	z			ｪ	ｺ	ﾊ	ﾚ		
B	VT	ESC	+	;	K	[	k	{			ｫ	ｻ	ﾋ	ﾛ		
C		FS	,	<	L	¥	l	|			ｬ	ｼ	ﾌ	ﾜ		
D	CR	GS	-	=	M	]	m	}			ｭ	ｽ	ﾍ	ﾝ		
E	SO		.	>	N	^	n	~			ｮ	ｾ	ﾎ	ﾞ		
F	SI		/	?	O	_	o	DEL			ｯ	ｿ	ﾏ	ﾟ		

表Ｆ－１

（２）　セルサイズ，ＱＲコードバージョン，各入力モードにおける最大入力文字数，シンボルの大きさの代表例を下記に示します（モデル１の場合）。

ｾﾙｻｲｽﾞ	ﾄﾞｯﾄ数	QRｺｰﾄﾞ.ﾊﾞｰｼﾞｮﾝ	最大入力文字									ｼﾝﾎﾞﾙの大きさ（mm）	必要ﾏｰｼﾞﾝ各上下（mm）
			数字モード			英数字モード			漢字モード				
			ﾚﾍﾞﾙL	ﾚﾍﾞﾙM	ﾚﾍﾞﾙH	ﾚﾍﾞﾙL	ﾚﾍﾞﾙM	ﾚﾍﾞﾙH	ﾚﾍﾞﾙL	ﾚﾍﾞﾙM	ﾚﾍﾞﾙH		
0.191	3	1	40	33	16	24	20	10	10	8	4	4.01	0.76
0.191	3	2	81	66	33	49	40	20	20	17	8	4.78	0.76
0.254	4	1	40	33	16	24	20	10	10	8	4	5.33	1.02
0.254	4	2	81	66	33	49	40	20	20	17	8	6.35	1.02
0.318	5	1	40	33	16	24	20	10	10	8	4	6.68	1.27
0.318	5	2	81	66	33	49	40	20	20	17	8	7.95	1.27
0.381	6	1	40	33	16	24	20	10	10	8	4	8.00	1.52
0.381	6	2	81	66	33	49	40	20	20	17	8	9.53	1.52

＊例えば、英数字モード，レベルMの場合、２０文字入力できます。セルサイズが３ドットの場合、シンボルの大きさは４．０１mmで、上下左右に０．７６mmのマージンが必要です。
さらにラベル余白として上下左右に１～１．５mm空白を設けてください。

＊印字した内容のヒューマンリーダブルを必ず印字するようにしてください。

（３） **DURA PRINTER SR**（ROM Ver 00.49以降）**DURA PRINTER SRS**（ROM Ver 10.27以降）で、ＱＲの連結を印字することができます。

DURA Rhythmでは、Ver5.2以降、**DURA PRINTER SR、SRS**選択時、連結が２個の場合のみ対応しています。

但し、下記の制限があります。

・１つのラベルフォーマット内には１組のQRコード連結しか作成することはできません。

・QR連結（1/2）とQR連結（2/2）の両方のパーツ作成が必要です。
セルサイズ、誤り訂正ラベル、入力モード、バージョンはQR連結（1/2）で設定し、QR連結（2/2）のデータ登録後は変更できません。（変更する場合はQR連結（2/2）のパーツを削除して下さい。）

・入力モードは数字と英数字モードのみになります。

＜注意＞　事前にご使用のQRコードリーダーがQR連結に対応しているか、ご確認ください。

付録Ｈ　パーツのリンク機能について

（１）機能

パーツのリンクとは、１つのパーツで入力した印字データを他のパーツの印字データと連動させるものです。例えば、CODE-39 のパーツを作成し、印字データを[1234567890]として登録します。次に OCR-B のパーツを作成し、印字データは入力せずにリンク設定を行います。その後、印刷を実行すると、[1234567890]の CODE-39 バーコードと[1234567890]の OCR-B 文字が印刷されます。上記で、CODE-39 のパーツ（印字データを入力したパーツ）をリンクソース，OCR-B のパーツ（リンク設定を行い、他のパーツで入力した印字データを使用するパーツ）をリンクディスティネーションと呼びます。また、リンクソースの印字データを変更するとリンクディスティネーションの印字データも自動的に変更されます。

連番を使用している場合も、印刷終了後同様に更新されます。

上記の具体的な設定例を以下に記します。

<u>リンクソースの入力</u>

①バーコードパーツの挿入を行います。

②CODE-39 の各種パラメータを設定し、印字データ画面に移行します。

③印字データ入力方法を「パーツ内で入力」または「変数名で入力」を選択します。

④「パーツ内で入力」を選択した場合、印字データを入力します。「変数名で入力」を選択した場合、印刷実行画面で印字データを入力します。

⑤「リンクソース」のチェックボックスをオンにします（×印を付けます）。

⑥リンクソースの名前を入力します（リンクソースのパーツを複数登録する場合、同じ名前を登録することはできません）。

⑦必要に応じて連番設定を行います。

<u>リンクディスティネーションの入力</u>

①文字パーツの挿入を行います。

②OCR-B の各種パラメータを設定し、印字データ画面に移行します。

③印字データ入力方法で「リンク」を選択すると、連番設定入力の部分に「リンク設定」ボタンが表示されます。このボタンを押すとリンク設定画面が表示されます（次ページの図参照）。

④リンク設定入力では、リンクするリンクソースの選択，印字データのコピー方法（何桁目から何文字をリンクするか等）を設定します。

リンクソースが CODE-39 または Codabar 時は、スタート／ストップコードもコピーするか否かを設定できます。

リンクソースがソフトウェアチェックデジットを使用したパーツ（文字パーツのチェックデジットが、**EAN-128 MOD10** 等）の場合、チェックデジットもコピーするか否かを設定できます。

（２）制限事項

①リンクソースの印字データが半角文字で、リンクディスティネーションが全角しか印字できないパーツ（またはその逆）の場合は、リンクできません。

②リンクソースが文字パーツの場合、リンクディスティネーションに設定できるのは、文字パーツのみです。

③リンクソースがバーコードパーツの場合、リンクディスティネーションに設定できるのは、文字パーツおよび同じ種類のバーコードのみです。

④リンクソースが２次元コードパーツの場合、リンクディスティネーションに設定できるのは、文字パーツおよび同じ種類の２次元コードのみです。

⑤リンクソースで連番を使用している場合、リンクディスティネーションのコピー方法（x 桁目から x 文字をコピー）の指定で連番データの途中をコピーすることはできません。

⑥リンクソースを削除する場合、関連付けられているリンクディスティネーションも同時に削除されます。

（３）削除文字について

文字以外のパーツはリンク時に削除文字を設定することができます。

削除することができる文字は、″括弧()″ハイフン-″スペース″の３種類です。

リンク時に削除文字を設定しておくと、設定されている文字はリンクされずに、

その他の文字だけをリンクすることができます。

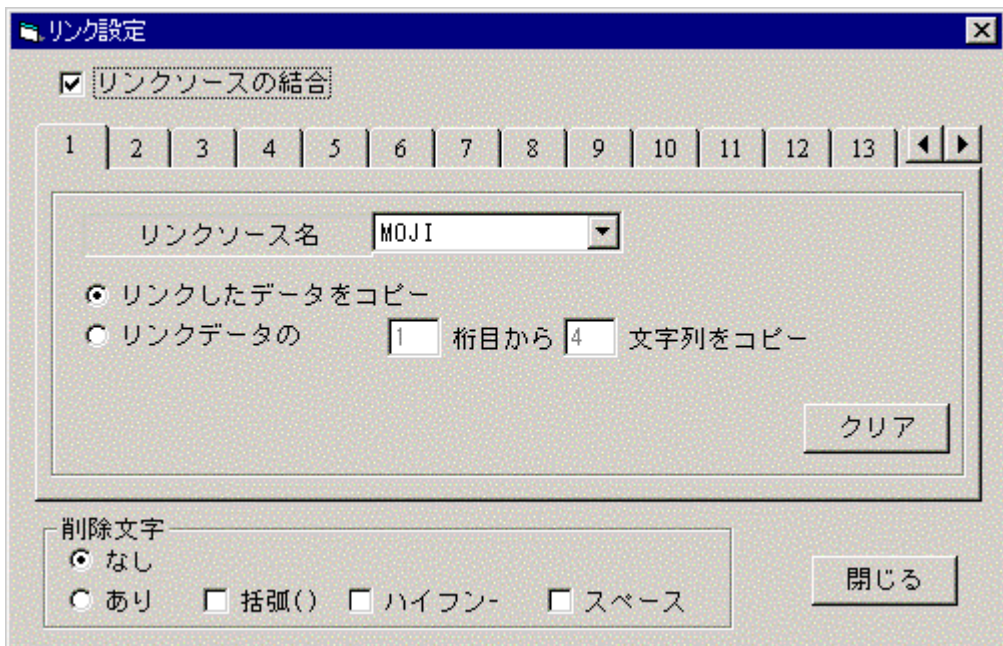
（但し、EAN128(AUTO)の場合は、必ず″括弧()″は削除されます。）

付録Ⅰ　リンクソースの結合機能について

（１）機能

リンクソースの結合とは、パーツのリンク機能の拡張機能で、複数のリンクソースをつなぎ合わせて、１つのパーツを生成する機能です。

基本的な機能や制限事項については、パーツのリンク機能と同じです。

前ページのリンク設定画面で、「リンクソースの結合」をチェックすることにより、この機能が有効になります（下図）。

上図で、１～１３までのタブが表示されていますが、このタブを切り替えることによって、結合するリンクソースとコピー方法を１つずつ設定することができます。

また、タブの横にある矢印を押すことにより、最大５０個のリンクソースを結合できます。

尚、結合によって生成されるパーツのデータは、タブ番号の若い順に結合されます。

（２）使用例

文字パーツのリンクソース２つを結合する例を次ページに示します。

・文字パーツ１のリンクソース名を[MOJI1]として登録します（下図）。

印字データ登録

印字データ

入力方法　◉ パーツ内で入力　○ 変数名で入力　○ リンク

変数名　　デバイス名

印字内容　1234567890

文字コード　　桁　11

コメント　☑ リンクソース　名前　MOJI1

・文字パーツ２のリンクソース名を[MOJI2]として登録します（下図）。

印字データ登録

印字データ

入力方法　◉ パーツ内で入力　○ 変数名で入力　○ リンク

変数名　　デバイス名

印字内容　ABCDEFG

文字コード　　桁　8

コメント　☑ リンクソース　名前　MOJI2

・結合して生成するパーツを設定します。例えば、バーコードパーツを新規に作成し、入力方法を「リンク」に設定し、リンク設定ボタンを押します。リンク設定画面で、リンクソースの結合にチェックを入れ、タブ１およびタブ２に、それぞれ以下のような設定をします。

＜タブ１＞の設定

＜タブ２＞の設定

上記では、文字１のデータ全てと、文字２のデータ中の２桁目から３文字を抽出して、

１つの結合パーツを生成します。

この設定によって生成されるバーコードパーツのデータは、

“１２３４５６７８９０ＢＣＤ”

となります。

付録Ｊ　ＬＰＴ（セントロ）ポート使用について

Windows 環境において、ＬＰＴ（セントロ）ポートは、アプリケーションより直接出力できない仕様になっています。ＬＰＴポートに出力する場合は、プリンタドライバを作成する必要がありますが、**Windows** のプリンタドライバは、全てビットマップイメージで送信するため、デュラプリンタの本来の性能を発揮できません。**DURA Rhythm** では、ＬＰＴポートに対して直接コマンドを出力するための機能をサポートしています。

注意：“ＬＰＴポート使用の動作環境について” すべての **Windows** 環境で、ＬＰＴポートが動作することは確認しておりません。 ＬＰＴポートが正しく動作しない場合は、ＲＳ－２３２Ｃポートを使用して 印刷を行ってください。

付録Ｋ　ＴＣＰ／ＩＰ上での使用についてＩ
（Comm Assist-C/CX を使用した接続）

（１）概要

RS232C-ETHERNET コンバータ「**Comm Assist-C/CX**」を使用して、

DURA Rhythm をインストールしたパソコンから **TCP/IP** のネットワークに

接続し、デュラプリンタで印字・発行出来ます。

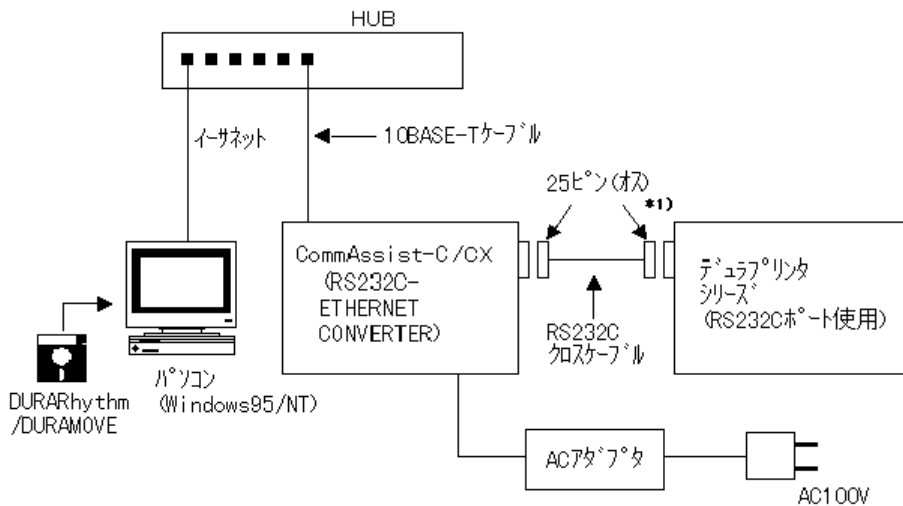
重要

・**TCP/IP** 上でのご使用は、ネットワーク管理者とご相談の上、行ってください。

・**CommAssist-C/CX** は日本国内でのみの販売です。

（２）構成

*1)プリンタの機種によっては９ピン（メス）になります。

（３）仕様

ネットワーク	：	イーサネット（IEEE802.3 準拠）
CommAssist-C/CX 電源	：	AC100V±10%
プロトコル	：	**TCP/IP**
動作モード	：	コマンドモードまたはトランスペアレントモード（Winsock）

> 注意：**DURA Rhythm** では、**TCP/IP** のコマンドモードとトランスペアレントモード（Winsocck）をサポートしていますが、トランスペアレントモード（Winsock）を使用してください。

（４）Comm Assist-C の初期設定

CommAssist-C/CX は「ネットワークによる」または「**RS-232C** による」初期設定を行うことができます。

DURA Rhythm では、**CommAssist-C** に対して「**RS-232C** による初期設定」用ツールを用意しています。**CommAssist-CX** は、付属のユーティリティを使用して初期設定を行います。

> 重要：**CommAssist-C/CX** の初期設定は、ネットワーク管理者が行ってください。

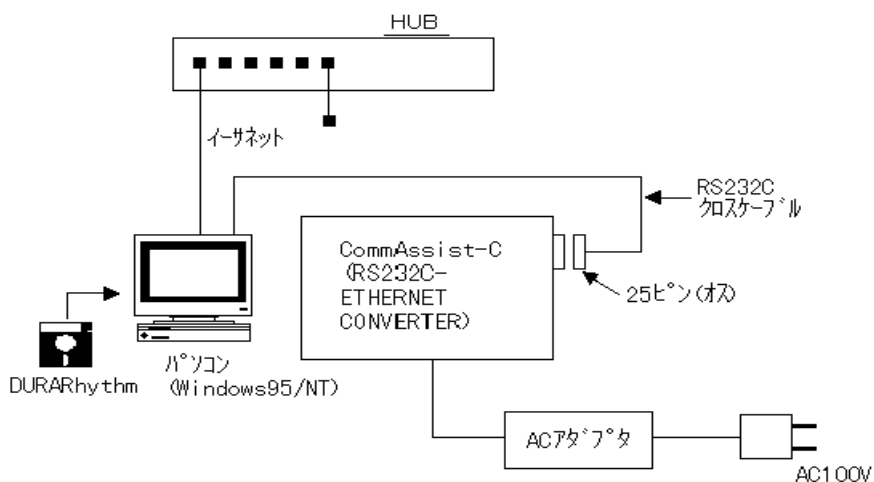
使用するネットワーク上で、**CommAssist-C/CX** に割り付ける **IP** アドレスを決定します。

> 注意１：**DHCP** サーバを使用している時は、**DHCP** で割り付けられないアドレスを使用してください。**CommAssist-C/CX** は、**DHCP** には対応していません。
> 注意２：必ずネットワーク上で使用していない **IP** アドレスを使用してください。
> 注意３：使用するパソコンと **Comm Assist-C/CX** は、同じネットワーク（ケーブル）にしてください（ゲートウェイには、対応していません）。

（４－１）**DURA Rhythm** のツール**(Setting CommAssist)**による **CommAssist-C** の初期設定

①**CommAssist-C** とパソコンを **RS-232C** のクロスケーブルで接続します。この時、以下の点に注意してください。

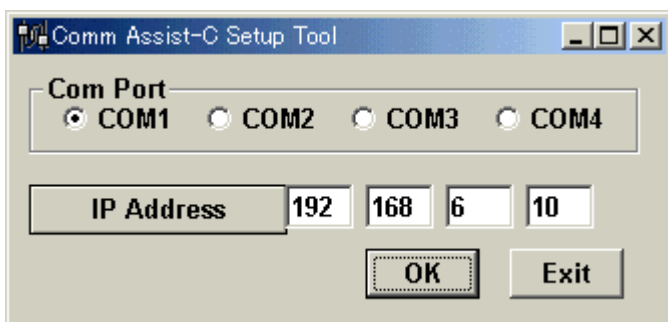
・**CommAssist-C** の **10BASE-T** ケーブルは接続しないでください。

・**CommAssist-C** は電源オン後、緑色の RUN ランプが点滅している時のみ設定変更が可能となります（点灯している時は、電源をオフ／オンする必要があります）。

注意１：必ず、**RUN** ランプが点滅していることを確認してください。

注意２：パソコンと **CommAssist-C** 間は **RS-232C** クロスケーブルをご使用ください。

パソコンの機種により、パソコン側のコネクタ形状が異なります。

②**CommAssist-C** 設定ツール（**Setting CommAssist**）を起動します。

起動すると下図の画面が表示されます。

③上記画面に、必要項目を入力します。

・**Com Port** …… **CommAssist-C** が接続されている **COM** ポートを選択します。

・**IP Address** …… 設定する **IP** アドレスを入力します。

④**CommAssist-C** の **LED** が、緑色の点滅状態であることを確認し、ＯＫボタンを押します。

⑤正しく設定できれば、“**Setup Complete.**”と表示されます。

⑥ネットワークの **10BASE-T** ケーブルに **CommAssist-C** を接続して **CommAssist-C** の電源を入れ直してください。

⑦ネットワーク上のパソコンから **ping** コマンドを使用して、**CommAssist-C** が正しくネットワークに接続されているか確認してください。

⑧確認後、**CommAssist-C** とデュラプリンタを **RS-232C** クロスケーブル(**25P** オス-**25P** オス)で接続してください。

重要１：**DURA Rhythm** のツールによる **CommAssist-C** の初期設定（**RS-232C** による初期設定）を行った場合、**arp** コマンドは使用しないでください。
重要２：必ず **ping** コマンドを使用して **CommAssist-C** がネットワークに正しく接続されていることを確認してください。

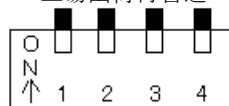
（４－２）**CommAssist-CX** ユーティリティ（**IP** 設定ユーティリティ）による **CommAssist-CX** の初期設定

①**CommAssist-CX** に **10BASE-T** のケーブルを接続します。この時、以下の点に注意してください。

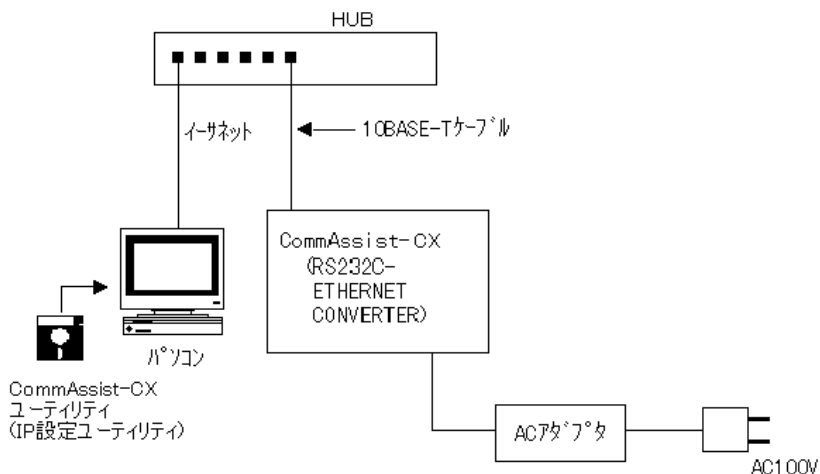
・**CommAssist-CX** 本体のディップスイッチを運用時（すべて **OFF** の位置）にしてください。

・**CommAssist-CX** は電源オン後、緑色の **NET** ランプが点灯している時のみ設定が可能になります（**CommAssist-CX** の状態が工場出荷値の場合、橙色の **NET** ランプが 1 回定期点滅した後、数秒後に緑色に変わります）。

CommAssist-CX の工場出荷値書き込み方法

・**CommAssist-CX** の電源をオフにし、**CommAssist-CX** 本体のディップスイッチを右図のように、工場出荷再書込にしてください（すべて **ON** の位置）。

・**CommAssist-CX** の電源オン後、橙色の **NET** ランプが 5 秒間点灯します。**NET** ランプが消えるのを待ってから電源をオフにし、ディップスイッチを運用時(すべて **OFF** の位置)に戻してください。

・工場出荷再書込

・運用時

②**CommAssist-CX** のユーティリティ（**IP** 設定ユーティリティ）を起動します。

起動すると下図の画面が表示されます。

③上記画面に必要項目を入力します。

・製造番号　　　… **CommAssist-CX** の裏側に製造番号が貼り付けてあります。

・IP アドレス　　… 設定する IP アドレスを入力します。

④設定ボタンを押します。

⑤正しく設定できれば、下図の設定結果情報画面が表示されます。

⑥正しく設定できれば、上記画面にて設定した番号が“正常”と表示されます。

⑦エラーが発生した場合、再設定を行ってください。

（４－３）**CommAssist** の接続確認

①ネットワーク上のパソコンから **ping** コマンドを使用して、**CommAssist** が正しく
　ネットワークに接続されているか確認してください。

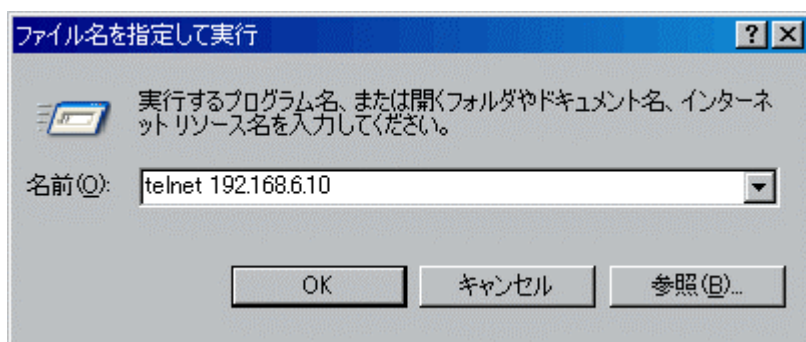
②確認後、**CommAssist** とデュラプリンタを **RS-232C** クロスケーブル（**25P** オス-**25P** オス）
　で接続してください。

重要１：**DURA Rhythm** のツールによる **CommAssist-C** の初期設定（**RS-232C** による
　　　　初期設定）を行った場合、**ARP** コマンドは使用しないでください。
重要２：必ず **ping** コマンドを使用して **CommAssist** がネットワークに正しく接続
　　　　されているか確認してください。

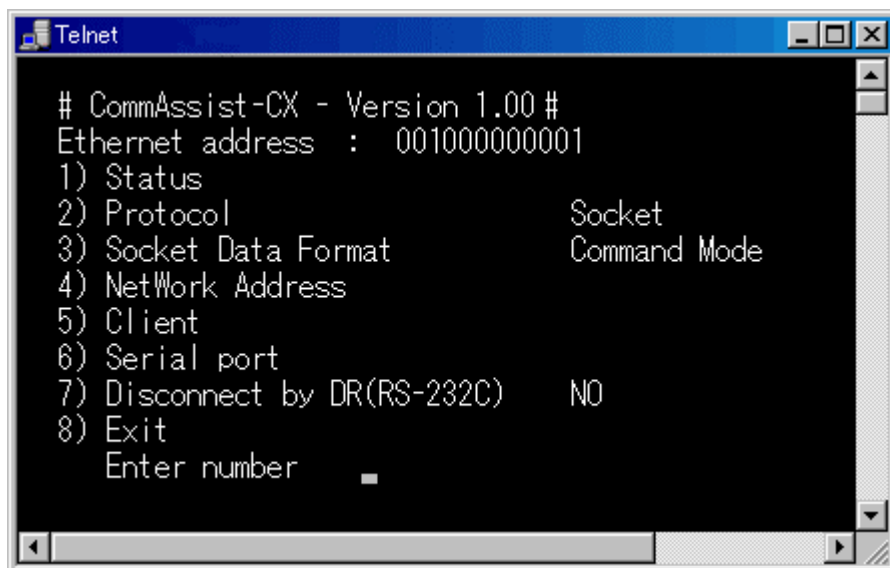
（４－４）**Telnet** による **CommAssist** の設定

データ通信形式(**CommandMode/Transparent Mode**)の設定や、**フロー制御**の設定をパソコンより、Telnet を利用して CommAssist CX の設定を変更できます。

①スタートメニューより**ファイル名を指定して実行**を選択してください。

②**telnet**“CommAssist CX の **IP** アドレス”と入力してください。

③**CommAssist CX** に接続されますとメインメニューが表示されます。

キーボードで設定したい項目の番号を押下してください。

終了する場合は、**8)Exit** を選択します。

（５）**DURA Rhythm** 上での **TCP/IP** の選択

重要１：**TCP/IP** 設定は、ネットワーク管理者が行ってください。 設定を誤るとネットワークに支障が発生します。

①通信ポートの設定を **TCP/IP** にします。

②「設定」ボタンをクリックし、**TCP/IP** の設定画面を開きます。

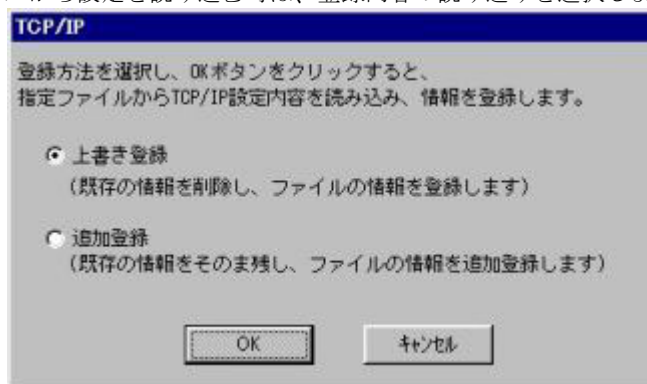
③設定画面から、各項目を入力します。

プリンタ名称	：	任意の名称を入力してください。 プリンタ名称は、**DURA Rhythm** で **TCP/IP** の設定情報を 管理するために使用します。
IP アドレス	：	**Comm Assist-C/CX** に設定した **IP** アドレスを入力してください。
ポート番号	：	**Comm Assist- C/CX** に設定したポート番号を入力してください。 （**Comm Assist- C/CX** のデフォルト値は‘1111’です。）
TCP/IP 送信モード	：	‘**Winsock**（トランスペアレントモード）’を選択してください。
ステータスチェック	：	する,しない を選択してください

④各項目を入力後、「追加・更新」ボタンをクリックすると、入力した設定情報が登録されます。

（入力例）

⑤登録した設定をファイルに保存する時は、登録内容の保存を選択します。

⑥保存したファイルから設定を読み込む時は、登録内容の読み込みを選択します。

上書き登録　　　：　既存の情報を削除した後に、ファイルの情報を登録します。

追加登録　　　　：　既存の情報をそのまま残し、ファイルの情報を追加登録します。

⑦「**OK**」ボタンをクリックして **TCP/IP** の設定画面を閉じ、通信ポートの設定画面に戻ります。

⑧**TCP/IP** の右にあるリストボックスから、前述③で登録したプリンタ名称を選択します。

⑨**OK** ボタンをクリックして、通信ポートの設定画面を閉じます。

以上で、設定作業は完了です。

付録Ｌ　ＴＣＰ／ＩＰ上での使用についてⅡ
（Comm Assist-WF を使用した接続）

（１）概要

無線 **LAN-ETHERNET** コンバータ「**Comm Assist-WF**」を使用して、

DURA Rhythm をインストールしたパソコンから **TCP/IP** のネットワークに

接続し、デュラプリンタで印字・発行出来ます。

本マニュアルでは、無線 **LAN** のアクセスポイントを経由したインフラストラクチャモード

での使用方法につき、記述します。

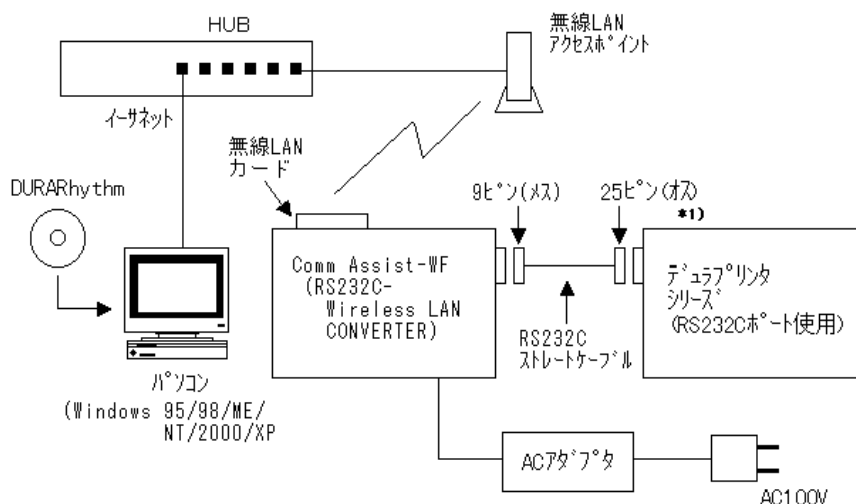
重要

・**TCP/IP** 上でのご使用は、ネットワーク管理者とご相談の上、行ってください。

・**Comm Assist-WF** は日本国内でのみの販売です。

（２）構成

*1)プリンタの機種によっては 9 ピン（メス）になります。

（３）仕様

ネットワーク	:	イーサネット（IEEE802.3 準拠）
CommAssist-WF 電源	:	AC100V±10％
プロトコル	:	**TCP/IP**
動作モード	:	トランスペアレントモード（Winsock）

> 注意：**CommAssist-WF** では、**TCP/IP** のトランスペアレントモード（Winsock）を
> 使用してください。

（４）Comm Assist-WF の初期設定

CommAssist-WF の初期設定については、製品の取扱説明書を参照してください。

重要：**CommAssist-WF** の初期設定は、ネットワーク管理者が行ってください。 また、以下の項目については、後述の通り、設定してください。 **IP** アドレス　：　ネットワーク上で使用していない **IP** アドレス 無線 **LAN** の通信モード　：　‘インフラストラクチャ’ プロトコル　：　‘ソケット’ データフォーマット　：　‘トランスペアレント’ コネクション確立時の RS232C の受信バッファクリア ：‘クリアする’

（５）**Comm Assist-WF の接続確認**

①ネットワーク上のパソコンから **ping** コマンドを使用して、**Comm Assist-WF** が正しくネットワークに接続されているか確認してください。

②確認後、**Comm Assist-WF** とデュラプリンタを **RS-232C** ストレートケーブル（**9P** メス-**25P** オス *1)）で接続してください。

*1)プリンタの機種によっては 9 ピン（メス）

（６）**DURA Rhythm** 上での **TCP/IP** の選択

重要１：**TCP/IP** 設定は、ネットワーク管理者が行ってください。 設定を誤るとネットワークに支障が発生します。

①通信ポートの設定を **TCP/IP** にします。

②「設定」ボタンをクリックし、**TCP/IP** の設定画面を開きます。

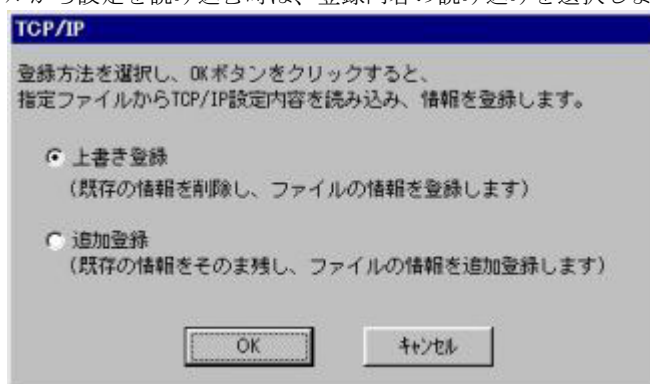
③設定画面から、各項目を入力します。

プリンタ名称	：	任意の名称を入力してください。 プリンタ名称は、**DURA Rhythm** で **TCP/IP** の設定情報を 管理するために使用します。
IP アドレス	：	**Comm Assist-WF** に設定した **IP** アドレスを入力してください。
ポート番号	：	**Comm Assist-WF** に設定したポート番号を入力してください。 （**Comm Assist-WF** のデフォルト値は‘1111’です。）
TCP/IP 送信モード	：	‘**WinSock**（トランスペアレントモード）’を選択してください。
ステータスチェック	：	**する,しない** を選択してください

④各項目を入力後、「追加・更新」ボタンをクリックすると、入力した設定情報が登録されます。

（入力例）

⑤登録した設定をファイルに保存する時は、登録内容の保存を選択します。

⑥保存したファイルから設定を読み込む時は、登録内容の読み込みを選択します。

上書き登録　：　既存の情報を削除した後に、ファイルの情報を登録します。

追加登録　：　既存の情報をそのまま残し、ファイルの情報を追加登録します。

⑦「**OK**」ボタンをクリックして **TCP/IP** の設定画面を閉じ、通信ポートの設定画面に戻ります。

⑧**TCP/IP** の右にあるリストボックスから、前述③で登録したプリンタ名称を選択します。

⑨**OK** ボタンをクリックして、通信ポートの設定画面を閉じます。

以上で、設定作業は完了です。

付録Ｍ　ＩＴＦモジュラス１１の対応について

DURA Rhythm Ver4.08 以降では、**ITF**（**Interleaved 2 of 5**）のバーコードチェックデジットとして、以下の仕様のモジュラス１１をサポートしています。

モジュラス１１の計算は **DURA Rhythm** で行います。

（１）モジュラス１１（MOD11〔ｳｪｲﾄ 13､17､19､23〕）の計算方法

ITF の数字（0～9）をバーコード化した時のモジュラス１１のチェックデジットの計算方法を下記に示します。

①データキャラクタの桁数が、奇数か確認します。

②データキャラクタの中で右側から１桁目として、１３，１７，１９，２３を繰り返しかけて、その和を求めます。

③和を１１で割って余りを求めます。

④余りが“０”か“１”の時は、チェックデジットを０とします。それ以外は１１から余りを引いた値をチェックデジットとします。

（２）例）　バーコードデータが“980401362”の場合

①データキャラクタの桁数は９で奇数。

②和を求めます。

和（sum）＝（13×2）＋(17×6)＋(19×3)＋(23×1)＋(13×0)
＋(17×4)＋(19×0)＋(23×8)＋(13×9) ＝ 577

③和を１１で割って余りを求めます。

余　り　＝ 577 Mod 11 ＝ 5

④余りが“０”でも“１”でもないのでチェックデジットは、

11-5 ＝ 6

となり、印字するバーコードのデータは“9804013626”となります。

（３）連番印字

ITF のモジュラス１１（MOD11［ｳｪｲﾄ 13､17､19､23］）の連番が選択されている時は、印刷時、1 枚毎のデータを **DURA Rhythm** で計算してデータをプリンタへ 送信します。

付録Ｎ　チェックデジットの追加について

DURA Rhythm Ver5.2 以降では、以下のチェックデジットを文字パーツでサポートしています。

・MOD10 wait2

・Loons

・X Check DR(X は 7,8,9 または 10)

・X Check DSR(X は 7,8,9 または 10)

DURA Rhythm Ver5.8B 以降では、以下のチェックデジットを文字パーツでサポートしています。

・X Check DR_X(X は 7,8 または 9)

・X Check DSR_X(X は 7,8 または 9)

全て、データとして使用できる文字は 0～9 までの数字です。

（１）MOD10 wait2

・モジュラス１０ウェイト２の計算方法を下記に示します。

①　データの右の桁から左の桁の順に番号を付加します。

②　奇数番号の桁には２を、偶数番号の桁には１を掛け、すべての和を求めます。

③　和を１０で割って余りを求めます。

④　１０から余りを引いて差を求めます。この値がチェックデジットになります。

（余りが０の場合は、チェックデジットは０とします。）

（２）Loons

・Loons の計算方法を下記に示します。

①　データの右の桁から左の桁の順に番号を付加します。

②　奇数番号の桁には２を、偶数番号の桁には１を掛けます。

③　②で求めた結果が２桁になる場合は、１桁ごとに分けて加算し和を求めます。

④　和を１０で割って、余りを求めます。

⑤　１０から余りを引いて差を求めます。この値がチェックデジットになります。

（余りが０の場合は、チェックデジットは０とします。）

（３）X CheckDR(DR:Divide Remains = 割った余り、X は 7,8,9 または 10)

・チェック DR のチェックデジットの計算方法を下記に示します。

①　データキャラクタの値のすべての和を求めます。

②　和を X で割って余りを求めます。この値がチェックデジットになります。

（余りが０の場合は、チェックデジットは０とします。）

（４）X CheckDSR(DSR:Divide Supply Remains = 割った余りの補数、X は 7,8,9 または 10)

・チェック DSR のチェックデジットの計算方法を下記に示します。

① データキャラクタの値のすべての和を求めます。

② 和を X で割って余りを求めます。

③ X から余りを引いて差を求めます。この値がチェックデジットになります。

（余りが０の場合は、チェックデジットは０とします。）

（５）X CheckDR_X(DR:Divide Remains = 割った余り、X は 7,8 または 9)

・チェック DR_X のチェックデジットの計算方法を下記に示します。

① データキャラクタの値のすべての和を求めます。

② 和を X で割って余りを求めます。この値がチェックデジットになります。

（余りが０の場合は、チェックデジットは X とします。）

（６）X CheckDSR_X(DSR:Divide Supply Remains = 割った余りの補数、 X は 7,8 または 9)

・チェック DSR_X のチェックデジットの計算方法を下記に示します。

① データキャラクタの値のすべての和を求めます。

② 和を X で割って余りを求めます。

③ X から余りを引いて差を求めます。この値がチェックデジットになります。

（余りが０の場合は、チェックデジットは X とします。）

（７）例

・Loons で値が“980401362”の場合

①奇数番号の桁には 2 を、偶数番号の桁には 1 を掛けます。

```
番号    →   9 8 7 6 5 4 3 2 1
データ  →   9 8 0 4 0 1 3 6 2
            x x x x x x x x x
ウェイト→   2 1 2 1 2 1 2 1 2
          ─────────────────────
           18 8 0 4 0 1 6 6 4
```

② 番号 9 の桁は 18 になります。ルーンズでは 1 と 8 に分けて加算します。

1+8+8+0+4+0+1+6+6+4=38

③和を 10 で割って余りを求めます。

余り = 38 Mod 10 = 8

④10 から余りを引いて差を求めます。

10 － 8 = 2

よってチェックデジットは 2 になります。

・10CheckDR で値が“980401362”の場合

①すべての値の和を求めます。

和 = 9+8+0+4+0+1+3+6+2 = 33

②和を 10 で割って余りを求めます。

余り = 33 Mod 10 = 3

よってチェックデジットは 3 になります。

・7CheckDSR で値が“980401362”の場合

①すべての値の和を求めます。

和 = 9+8+0+4+0+1+3+6+2 = 33

②和を 7 で割って余りを求めます。

余り = 33 Mod 7 = 5

③７から余りを引いて差を求めます。

7 - 5 = 2

よってチェックデジットは 2 になります。

（８）連番印字

これらのチェックデジットの連番が選択されている時は、

印刷時、1 枚毎のデータを **DURA Rhythm** で計算してデータをプリンタへ送信します。

付録O　カスタマバーコードについて

DURA Rhythm Ver4.41 以降では、カスタマバーコードの印字に対応しています。

（１）概要

郵政省（日本国）は、郵政事業の効率化を目的として、差出人が予め郵便物に印字するバーコード（カスタマバーコードと呼ぶ）を導入しています。

カスタマバーコードは、差出人の必要条件でなく、料金割引を受けようとする場合に印字するものです。カスタマバーコードの詳細な規約については、郵政省の発行する規約書をお読みください。

（２）カスタマバーコードのフォーマット

カスタマバーコードのフォーマットは次の通りです。

ｽﾀｰﾄｺｰﾄﾞ(1 桁)	新郵便番号(7 桁)	住所表示番号(13 桁)	ﾁｪｯｸﾃﾞｼﾞｯﾄ(1 桁)	ｽﾄｯﾌﾟｺｰﾄﾞ(1 桁)

	入力可能文字
新郵便番号	数字（０～９）
住所表示番号	数字（０～９），英大文字（Ａ～Ｚ），－

①新郵便番号（７桁）の表示は、３桁目と４桁目の間にハイフン（‘－’）を入れますが、カスタマバーコードでは省かれます。

②新郵便番号の下２桁（６～７桁目）が‘００’（代表の郵便番号）の時は、カスタマバーコードは付けません。但し、**DURA Rhythm** では、この確認は行いません。

③新郵便番号と住所表示番号を連結するハイフン（‘－’）は省きます。また、英字１文字は、制御コードと数字コードの組み合わせにより表現し、バーコード２桁分として扱います。

④住所表示番号が１３桁に満たない場合は、末尾にコードを追加します。１３桁を超える場合は、１３桁以上は省きます（但し、１３桁目が英字の制御コード部分の時は、制御コード部分までを含めます）。

⑤チェックデジットは、**DURA Rhythm** で自動的に付加します。

⑥カスタマバーコードの上下左右には、２㎜以上のクワイエットゾーンが必要です。

付録Ｐ　ＤａｔａＭａｔｒｉｘ（ＥＣＣ２００）について

（１）**DURA PRINTER SR**（ROM Ver 00.30以降）**/SRS/LSP5300(5310)/LP5320**で、ＤａｔａＭａｔｒｉｘの印字ができます。ＤａｔａＭａｔｒｉｘ（ＥＣＣ２００）のシンボルには、正方形タイプと長方形タイプがあります。

DURA PRINTER SR（ROM Ver 00.44以降）**/SRS**（ROM Ver 10.21以降）で、正方形タイプ時に、シンボルサイズを固定するモードを追加しました。**LSP5300(5310)/LP5320**では、上記固定モードには対応していません。

●正方形タイプ

縦と横のセル数が同じで、セル数が１０から１４４まで２４種類あります。

●長方形タイプ

縦と横のセル数が固定された下記の６種類があります。

縦セル数×横セル数
８　×　１８
８　×　３２
１２　×　２６
１２　×　３６
１６　×　３６
１６　×　４８

本ソフトでは、下記の入力モードをソフト的に設けています。

ＤａｔａＭａｔｒｉｘ（ＥＣＣ２００）の仕様には、数字モード，英数字モード，８ビットバイトの区分けはありません。

入力モード	内　　容
数字モード	０～９の数字
英数字モード	０～９の数字、英大文字、 記号、制御コード 入力可能な値は表Ｎ－１参照
８ビットバイト	・ＪＩＳ８単位符号 入力可能な値は表Ｎ－２参照 ・全角シフトＪＩＳ

英数字モードの入力可能文字

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F
0			SP	0	@	P	`									
1		DC1	!	1	A	Q										
2			▯	2	B	R										
3	ETX	DC3	#	3	C	S										
4	EOT		$	4	D	T										
5		NAK	%	5	E	U										
6	ACK	SYN	&	6	F	V										
7	BEL	ETB	▯	7	G	W										
8			(	8	H	X										
9	HT	EM	)	9	I	Y										
A	LF	SUB	*	:	J	Z										
B	VT	ESC	+	;	K	[										
C		FS	,	<	L	¥										
D	CR	GS	-	=	M	]										
E	SO		.	>	N	ˆ										
F	SI		/	?	O	_										

表Ｎ－１

８ビットバイトの入力可能文字

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F
0			SP	0	@	P	`	P				ｰ	ﾀ	ﾐ		
1		DC1	!	1	A	Q	a	Q			｡	ｱ	ﾁ	ﾑ		
2			▯	2	B	R	b	R			｢	ｲ	ﾂ	ﾒ		
3	ETX	DC3	#	3	C	S	c	S			｣	ｳ	ﾃ	ﾓ		
4	EOT		$	4	D	T	d	T			､	ｴ	ﾄ	ﾔ		
5		NAK	%	5	E	U	e	U			･	ｵ	ﾅ	ﾕ		
6	ACK	SYN	&	6	F	V	f	V			ｦ	ｶ	ﾆ	ﾖ		
7	BEL	ETB	▯	7	G	W	g	W			ｧ	ｷ	ﾇ	ﾗ		
8			(	8	H	X	h	X			ｨ	ｸ	ﾈ	ﾘ		
9	HT	EM	)	9	I	Y	I	Y			ｩ	ｹ	ﾉ	ﾙ		
A	LF	SUB	*	:	J	Z	j	Z			ｪ	ｺ	ﾊ	ﾚ		
B	VT	ESC	+	;	K	[	k	{			ｫ	ｻ	ﾋ	ﾛ		
C		FS	,	<	L	¥	l	|			ｬ	ｼ	ﾌ	ﾜ		
D	CR	GS	-	=	M	]	m	}			ｭ	ｽ	ﾍ	ﾝ		
E	SO		.	>	N	ˆ	n	~			ｮ	ｾ	ﾎ	ﾞ		
F	SI		/	?	O	_	o	DEL			ｯ	ｿ	ﾏ	ﾟ		

表Ｎ－２

（２）ＤａｔａＭａｔｒｉｘ（ＥＣＣ２００）では、入力されたデータの種類の組み合わせにより自動的に圧縮され、マトリクスサイズ（縦セル数×横セル数）が決まります。
下記の表は、マトリクスサイズと入力文字数の目安を示すものです。

［正方形タイプ］

ﾏﾄﾘｸｽｻｲｽﾞ (縦ｾﾙ数 x 横ｾﾙ数)	入力文字数		
	数字	英数字	ﾊﾞｲﾅﾘ
10 x 10	6	3	1
12 x 12	10	6	3
14 x 14	16	10	6
16 x 16	24	16	10
18 x 18	36	25	16
20 x 20	44	31	20
22 x 22	60	43	28
24 x 24	72	52	34
26 x 26	88	64	42
32 x 32	124	91	60
36 x 36	172	127	84
40 x 40	228	169	112
44 x 44	288	214	142
48 x 48	348	259	172
52 x 52	408	304	202
64 x 64	560	418	278
72 x 72	736	550	366
80 x 80	912	682	454
88 x 88	1152	862	574
96 x 96	1392	1042	694
104 x 104	1632	1222	814
120 x 120	2100	1573	1048
132 x 132	2608	1954	1302
144 x 144	3116	2335	1556

［長方形タイプ］

ﾏﾄﾘｸｽｻｲｽﾞ (縦ｾﾙ数 x 横ｾﾙ数)	入力文字数		
	数字	英数字	ﾊﾞｲﾅﾘ
8 x 18	10	6	3
8 x 32	20	13	8
12 x 26	32	22	14
12 x 36	44	31	20
16 x 36	64	46	30
16 x 48	98	72	47

＊**DURA Rhythm** では、印字できる最大文字数は２０００文字に制限されています。
＊数字モード　：データが数字のみの場合は、この表の通りのマトリクスサイズとなります。
＊英数字モード：記号、制御文字が含まれると、この表より入力できる文字数が少なくなる場合があります。また、数字が含まれるとこの表より入力できる文字数が多くなる場合があります。データが英字（A～Z）のみの場合は、この表の通りのマトリクスサイズとなります。
＊８ﾋﾞｯﾄﾊﾞｲﾄ　：英数字が含まれていると、この表より入力できる文字数が多くなる場合があります。

付録Ｑ　ＲＳＳシンボルについて

ＲＳＳシンボル（**Reduced Space Symbology**）

DURA Rhythm で対応しているＲＳＳシンボルは下記の種類です。

ＲＳＳ－１４
ＲＳＳ－１４ Ｔｒａｎｃａｔｅｄ
ＲＳＳ－１４ Ｓｔａｃｋｄ
ＲＳＳ－１４ Ｓｔａｃｋｄ Ｏｍｎｉｄｉｒｅｃｔｉｏｎａｌ
ＲＳＳ－Ｌｉｍｉｔｅｄ
ＲＳＳ－Ｅｘｐａｎｄｅｄ

これらのバーコードは１次元のバーコードですが、これに
２次元のバーコード（ＰＤＦ４１７）を組み合わせるＣｏｍｐｏｓｉｔｅ［ＣＣ－Ａ］
バーコードを作成することも可能です。

●ＲＳＳ－１４
ＲＳＳ－１４は標準の省スペースシンボルで、アプリケーション識別子(AI)の″01″が内部で自動的に付加されます。
入力できるデータは 0～9 の数字 13 桁(固定)です。またチェックデジットも自動的に付加されます。バー高さの最小値は細線幅の 33 倍です。

注意：ヒューマンリーダブルは **DURA Rhythm** では自動的に付加されません。
別に文字パーツで作成してください。（ＲＳＳシンボル全てに共通です）
13 桁未満のデータを入力した場合、先頭より不足分が 0 で埋められます
（ＲＳＳ－Ｅｘｐａｎｄｅｄ以外のＲＳＳシンボル)。

●ＲＳＳ－１４　Ｔｒａｎｃａｔｅｄ

ＲＳＳ－１４　ＴｒａｎｃａｔｅｄはＲＳＳ－１４と同じデータ内容です。
違いはバー高さの最小値が細線幅の 13 倍です。

●ＲＳＳ－１４　Ｓｔａｃｋｄ

ＲＳＳ－１４　Ｓｔａｃｋｄは印字スペースが少ない場合に対応するため 2 段に重ねたものです。　データ内容は RSS-14 と同じです。バー高さの最小値がモジュール幅の 13 倍です。

●ＲＳＳ－１４　Ｓｔａｃｋｄ　Ｏｍｎｉｄｉｒｅｃｔｉｏｎａｌ

ＲＳＳ－１４　Ｓｔａｃｋｄをオムニスキャナに対応できる様にしたものです。
データ内容はＲＳＳ－１４と同じです。
バー高さの最小値がモジュール幅の 69 倍です。

(01)04912345678904
(AI)　データ(13桁固定)　チェックデジット(モジュラス10ウェイト3)

●ＲＳＳ－Ｌｉｍｉｔｅｄ

ＲＳＳ－Ｌｉｍｉｔｅｄは最も小さなＲＳＳシンボルです。
データ内容はＲＳＳ－１４と同じですがデータの１桁目が０か１に限定されています。バー高さの最小値がモジュール幅の 10 倍です。

●ＲＳＳ－Ｅｘｐａｎｄｅｄ

ＲＳＳ－Ｅｘｐａｎｄｅｄは(AI)が(01)以外にも使用できるＲＳＳシンボルです。
データは EAN128 のようにアプリケーション識別子(AI)とセットにして連結できます。
数字のみで最大 74 桁、英字のみで最大 41 字までデータを入力できます。

・数字 0～9
・英大文字 A～Z
・英小文字 a～z
・スペース
・20 種類の記号 (!″%&’()*+,-./:;<=>?_)
・ファンクションンキャラクタ(FUNC1)

ＲＳＳ－ＥｘｐａｎｄｅｄはAI もデータとして入力する必要があります。

●　ＲＳＳ ＋ Ｃｏｍｐｏｓｉｔｅ[ＣＣ－Ａ]選択時

Ｃｏｍｐｏｓｉｔｅのバーコードを使用する場合、ＲＳＳの 1 次元のバーコードの後に ″|″(バーティカルバー)を入力し、続いて 2 次元の印字データを入力することでＲＳＳ+Ｃｏｍｐｏｓｉｔｅ[ＣＣ－Ａ]を印字できます。
(例)データが「(01)1234567890123」、Composite が ABCDE の場合

DURA PRINTER SR(RSS),SRS(RSS),IP6500 ではＲＳＳシンボルに
対応しています。

注意１：**DURA PRINTER SR(RSS),SRS(RSS)**はＲＳＳシンボルのバーコードを印字する特別対応のプリンタファームウェア（ＲＯＭ交換）が必要です。

注意２：**DURA PRINTER SR** または **SRS** で作成した **DURA Rhythm** のフォーマットと **SR(RSS)**または **SRS(RSS)**のフォーマット間に互換性はありません。

付録Ｒ　Ｇｅｎｅｒｉｃ／Ｔｅｘｔ　Ｏｎｌｙ
プリンタドライバへの出力について

DURA Rhythm Ver5.7F 以降では、通信ポートにＧｅｎｅｒｉｃ／Ｔｅｘｔ　Ｏｎｌｙ
プリンタドライバへの出力に対応しています。

（１）対応ＯＳ

Microsoft Windows 2000（**SP3** 以上を適用）

Microsoft Windows XP　（**SP1** 以上を適用）

（２）Ｇｅｎｅｒｉｃ／Ｔｅｘｔ　Ｏｎｌｙプリンタドライバのインストール

Ｇｅｎｅｒｉｃ／Ｔｅｘｔ　Ｏｎｌｙプリンタドライバをインストール
する必要があります。

（３）制限事項

・Ｇｅｎｅｒｉｃ／Ｔｅｘｔ　Ｏｎｌｙプリンタドライバは双方向通信に
対応しておりませんので、プリンタのステータス，メモリカードのファイル参照
などの機能は利用できません。

・Ｇｅｎｅｒｉｃ／Ｔｅｘｔ　Ｏｎｌｙプリンタドライバでシリアルポートを
選択した場合、そのポートはドライバに占有されてしまい、他のプログラムは
使用できなくなります。

（4）Ｗｉｎｄｏｗｓ ＸＰにＧｅｎｅｒｉｃ／Ｔｅｘｔ Ｏｎｌｙプリンタドライバをインストールする例

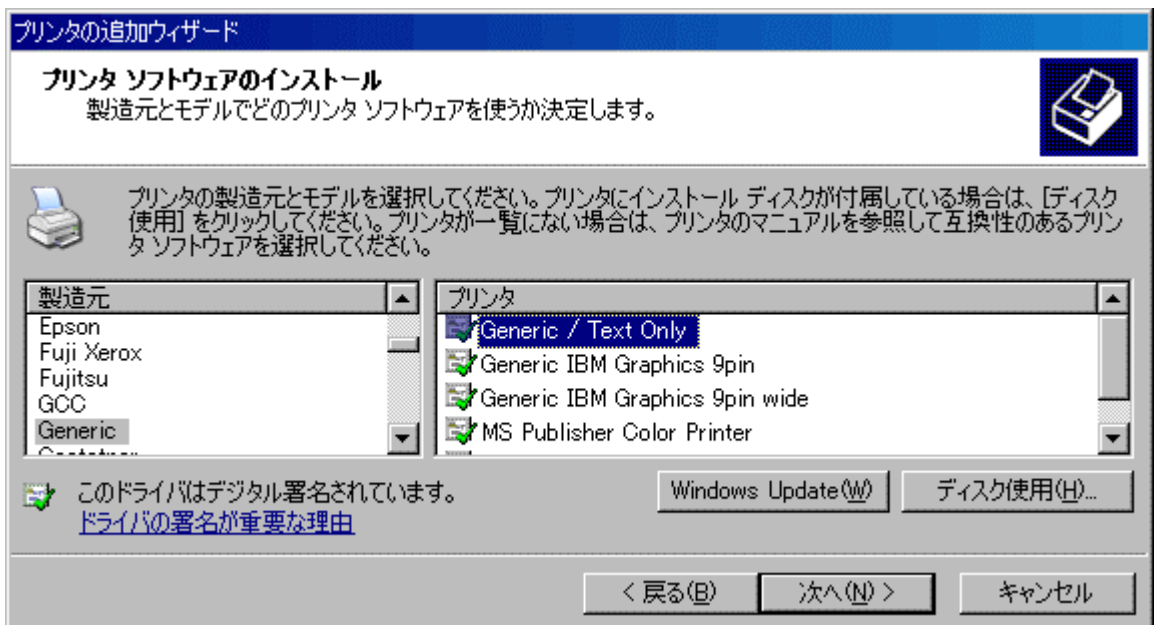
① プリンタフォルダを開いて「プリンタの追加」アイコンをダブルクリックすると、プリンタの追加ウィザードが起動します。

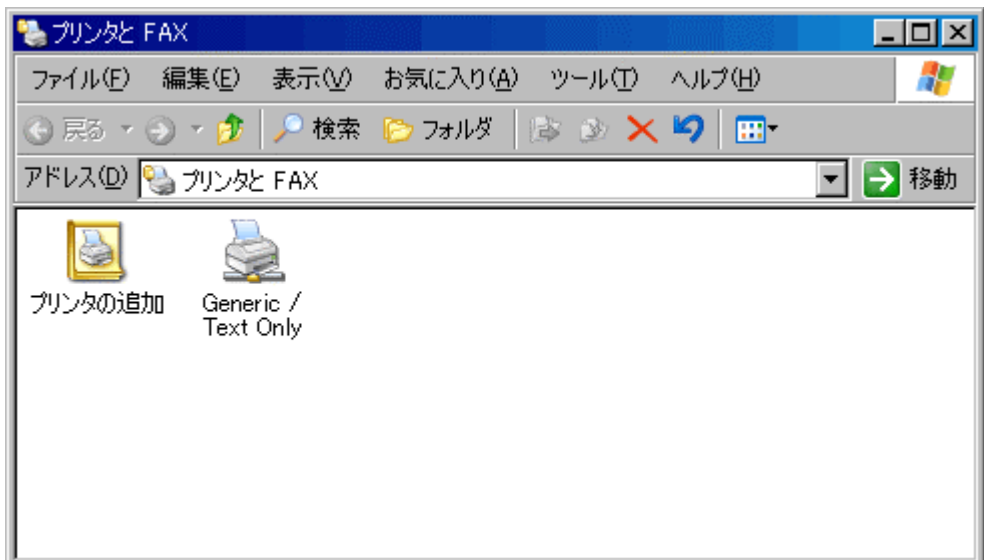
② プリンタの追加ウィザードが開始されましたら「次へ」をクリックします。

③ 使用するプリンタの種類を選択します。
「このコンピュータに接続されているローカルプリンタ」
を選択してください。
この時、「プラグアンドプレイ対応プリンタを自動的に検出する」
のチェックは外してください。

※管理者（Ａｄｍｉｎｉｓｔｒａｔｏｒ）権限を持たないユーザは
「ネットワークプリンタ、またはほかのコンピュータに接続されている
プリンタ」を選択してください。

④ プリンタを接続するポートを選択します。

⑤ Ｇｅｎｅｒｉｃ／Ｔｅｘｔ Ｏｎｌｙプリンタを選択します。
製造元を「Ｇｅｎｅｒｉｃ」
プリンタを「Ｇｅｎｅｒｉｃ／Ｔｅｘｔ Ｏｎｌｙ」
と選択して「次へ」をクリックしてください。

⑥ 「このプリンタを通常のプリンタとして使いますか？」の項目は
「いいえ」を選択してください。

⑦ 「テストページを印刷をしますか？」の項目は
「いいえ」を選択してください。
⑧「完了」をクリックするとファイルのコピーが始まります。
「ＴＸＴＯＮＬＹ.ＤＬＬ」を要求するメッセージが表示された時は
Ｗｉｎｄｏｗｓ ＸＰのＣＤ－ＲＯＭを入れて継続してください。
⑨ 以上でＧｅｎｅｒｉｃ／Ｔｅｘｔ Ｏｎｌｙプリンタドライバの
インストールは完了です。
正常にインストールが完了すると下記のように表示されます。

付録Ｓ 英語版 Ｗｉｎｄｏｗｓ ＸＰで ＤＵＲＡ Ｒｈｙｔｈｍの日本語表示を行う方法

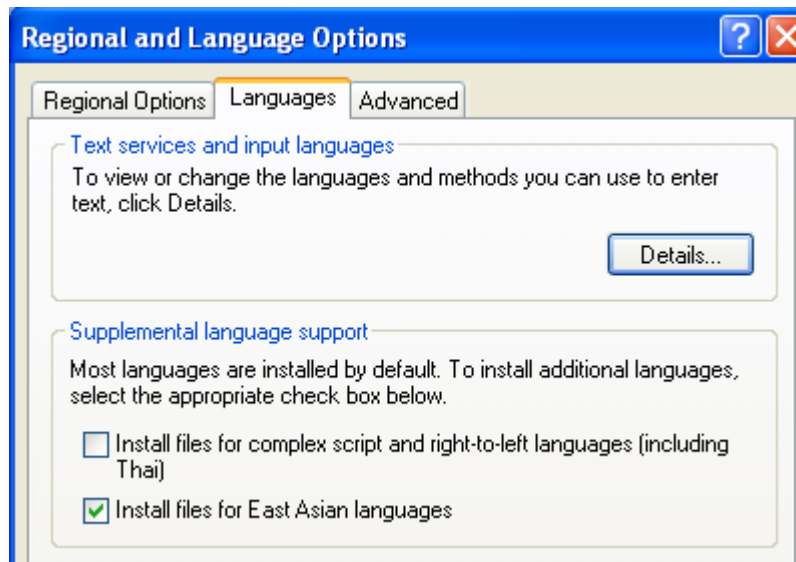
英語版 **WindowsXP** で、**DURA Rhythm** の日本語表示を操作する設定方法を参考資料として説明します。

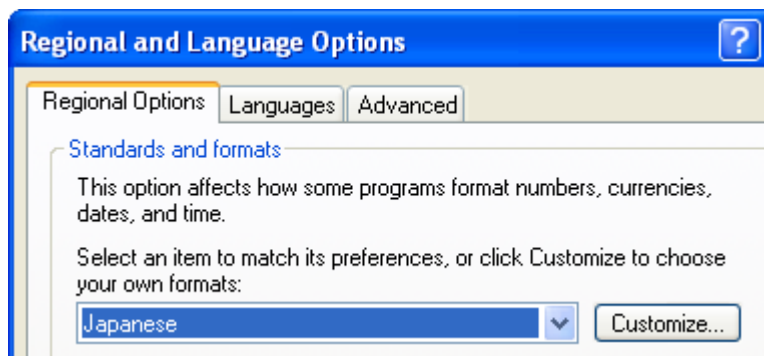
① Start ボタンから Control Panel をクリックします。

② Date, Time, Language, and Regional Options をクリックします。

③ Regional and Language Options をクリックします。

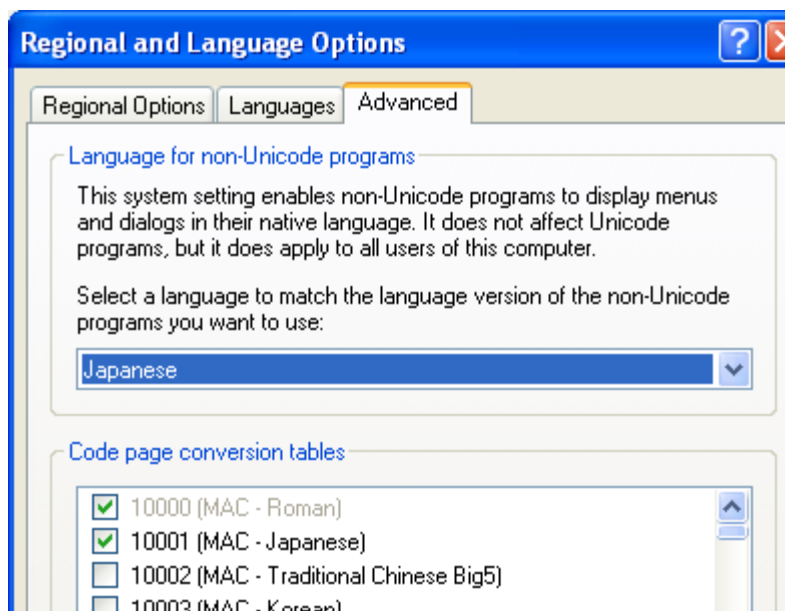
設定画面が表示されましたら Language タブをクリックし、画面下の"Install files for East Asian languages"にチェックを入れます。

※チェックを入れたときに、"Install Supplemental Language Support"のメッセージが出現しますので OK ボタンをクリックしてください。

④ 次に Regional Options タブをクリックします。

"Standards and formats"の設定を"Japanese"に変更します。

⑤ Advanced タブをクリックします。

"Language for non-Unicode Programs"設定を"Japanese"に変更し

"Code page converrion tables"の[10001 (MAC - Japanese)]にチェックを

入れます。

⑥ OK ボタンをクリックするとファイルのコピーが開始されます。

画面の指示に従って CD の挿入や再起動を行ってください。

注意１：全ての環境では評価していません。本資料は英語版 WindowsXP での
DURA Rhythm の日本語表示の動作を保障するものではありません。
注意２：設定時に Windows XP の CD-ROM が必要になる場合があります。